

2015年度（平成27年度）
日野市環境基本条例第18条に基づく年次報告書

日野市環境白書



日 野 市

「日野市生物多様性地域戦略の策定に向けた検討を始めました」

日野市は、市域に多摩川や浅川が流れ、また市内各所に用水路が広がっているほか、湧水も多数点在するなど「水の郷」と呼ぶにふさわしい環境にあります。また、多摩丘陵や崖線など自然度の高い緑や水田・畑などの農地が市内に点在しており、首都近郊に位置しながらも豊かな生態系が維持されています。

平成 27 年度から取り組み初めた日野市生物多様性地域戦略は、平成 30 年の策定を目指して「日野市生物多様性地域戦略策定委員会」を組織し、市民・事業者の皆様と一緒に現在、検討を進めているところです。

この戦略は、これまでの市民の皆様と日野市の取り組みの成果を総括すると共に、「緑と清流のまち ひの」を根幹に据え、将来の日野市の目指すべき生物多様性の姿や基本的な考え方を示し、私たちが先人から引き継いだこの身近で大切な自然環境を次の世代にしっかりと伝え、持続可能な日野らしいまちづくりを目指し、策定・運用していきます。

はじめに

日野市は27.55平方キロメートルというコンパクトなまちの中に、多摩川・浅川という大きな河川が西から東に流れ、これらの流れによって作られた肥沃な沖積低地には、かつて「多摩の米蔵」と称されるほどの豊かな田園が広がっていました。

その面影は、現在でも日野用水をはじめとする用水路がまちのそこここを流れ、残された貴重な農地と一体となって日野の原風景を現代に伝えるとともに、崖線や丘陵地に残る雑木林の緑とあいまって、日野市民が誇る「緑と清流のまち」の根幹を形成しています。

私たちはこの身近で良好な環境を次世代につなぐため、1999年（平成11年）に109人の市民の皆様と16人の職員とが協働するワーキングチームを編成し、公式な会議だけでも延べ500時間を超える議論を重ね、日野市らしい手作りの環境基本計画を策定いたしました。

その後、2011年（平成23年）には、第2次日野市環境基本計画を策定し、第1次環境基本計画で掲げた日野市の望ましい環境像「私たちの継承した自然環境を保全し、次の世代に引き継ごう」を踏襲し、日野に暮らす市民一人ひとりが望ましい環境像の実現を目指し、自覚を持って行動しています。

平成27年度の環境白書でも、「みどり」、「水」、「ごみ」、「地球温暖化」、「生活環境」の分野ごとに点検、評価し、身近な私たちの環境の変化等について記述しています。本誌をご覧になっていただいている皆様の目線で、日野市の環境の変化について再点検していただければ幸いです。

環境白書を通じて、次世代のために皆様お一人おひとりが持続可能なまちづくりを考え、行動されることを切にお願いいたします。



日 野 市 長

大 坪 冬 彦

日野市環境基本条例と 2015 年度日野市環境白書作成の経緯

日野市環境基本条例（抜粋）

〈前文〉

私たちは、豊かな自然の恵みを受けて、生命の糧を与えられてきた。現代社会において、私たちは、大量生産・大量消費の社会システムの中で、物質的に豊かで便利な暮らしを享受する一方、自然環境の消失や資源とエネルギーの限りのない消費と多量の廃棄を生みだしてきた。このような生産と生活の在り方は、地球規模での環境破壊をもたらしている。

日野市民は、野生生物が棲み、水を育む森林、暮らしに潤いをもたらす川、農地や崖線の緑などの自然や、それらによって培われた歴史的・文化的環境を祖先から受け継いできた。このような環境を私たちの世代限りで終わらせることなく、次の世代に引き継いでいかなければならない。

私たちは、これまでの生産と生活を見直し、自然を育み、環境保全型のまちを創り出すとともに、持続可能な社会への展望を見いだすべきときにきている。

このような認識の下に、私たちは、日野市、日野市民及び事業者の責務と役割を明らかにし、良好で快適な環境を確保するとともに、環境への負荷の少ない日野市を創りあげていくために、この条例を制定する。

〈第 18 条〉

市長は、毎年、議会に、環境の保全等のために市が実施した事業の概要に、日野市環境審議会の意見を付けて、報告書を提出しなければならない。

1995 年に市民の直接請求により、上掲の前文に掲げる目的で日野市環境基本条例が制定されました。その条例の第 9 条に基づいて、1999 年に日野市環境基本計画が策定されました。この計画に定められた施策の進行状況は前記条例第 18 条に基づいて、日野市環境白書として環境審議会での審議、議会の承認を経て 1999 年度以降毎年公表してきました。2005 年には環境情報の発信拠点として日野市環境情報センター（かわせみ館）が設立され、これを契機にそれ以降の環境白書は同センターが作成しています。

この環境白書の特色は、環境基本計画で設定された分野ごとに計画の進捗を計るための数値目標を掲げ、それらの達成度から環境問題への対応を評価し、翌年度の事業に反映させたところです。

第 1 次となる環境基本計画の策定から 5 年後の 2004 年に環境基本計画の見直しが行われ、重点的に実施すべき項目とその進捗を計る数値目標を新たに追加しました。そして第 1 次計画の計画年度が満了となる 2011 年には、公募市民・事業者・市職員からなるワーキングチームにより、第 1 次計画の理念を踏襲した第 2 次環境基本計画を策定しました。その際着実にそして計画的に進められるよう、計画に掲げた施策には優先順位を設けて中長期の具体的な目標を盛り込みました。また計画の推進についても市民・事業者と各主管課が協働して実施できるような体制づくりに努めています。

今回の環境白書は第 2 次計画に掲げた施策を基本に、これまで取り組んできた内容や結果をまとめたもので、計画の策定にあたった市民と主管課が、1 年間活動した結果のコメントも掲載しています。このほか、市民団体・各学校・事業者等の環境への取組状況等も掲載しています。

望ましい環境像

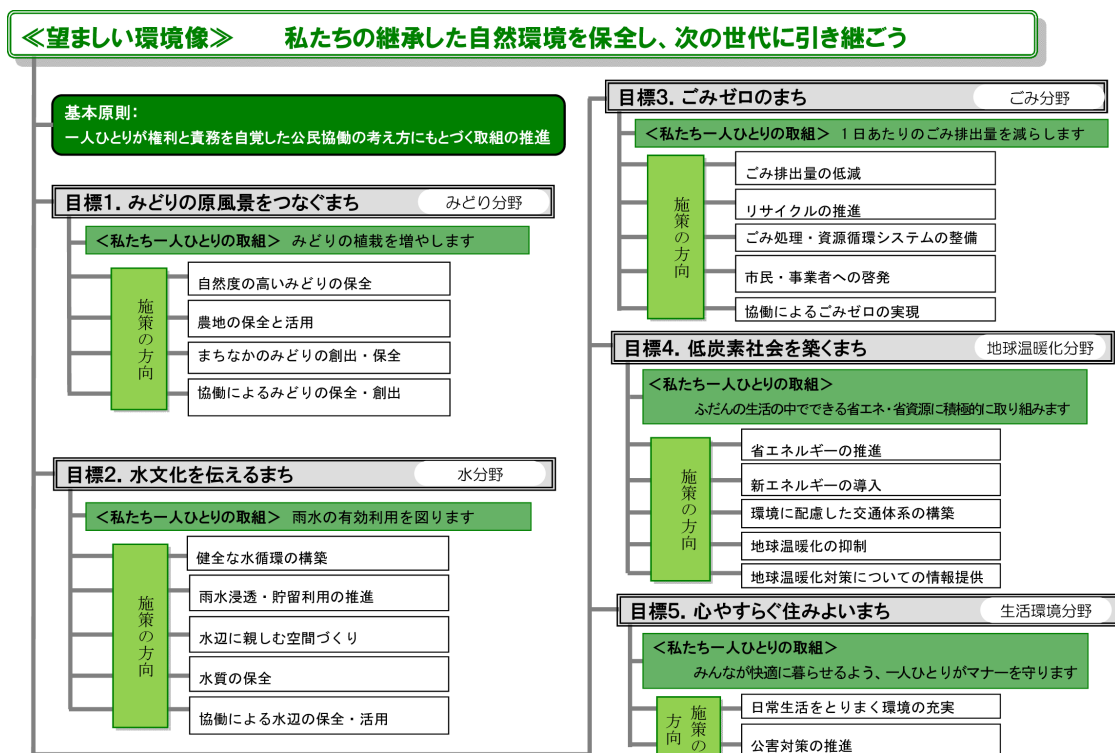
日野市環境基本計画とは

「市民が健康で安全かつ快適な生活を営む上で、必要とする良好な環境を確保するための方向性を示すもの」で、望ましい環境像は「私たちの継承した自然環境を保全し、次の世代に引き継ごう」とし、先人から受け継いだ豊かな自然を守り育て、少しでも質の高い形にして次の世代に引き継げるよう、一人ひとりが自覚をもって行動することを目指します。

【第2次環境基本計画の特徴】

- ① 潤いや安らぎを与えてきた水やみどり等の自然環境を市の財産として守り生かしながら、少しでも良くして次の世代に引き継ぐ。
- ② 計画的な施策の実施に向けた優先順位の設定や、市民一人ひとりの行動や意識をステップアップさせ、自覚と責任ある行動の浸透を目指し、確実に次の一步を進める。
- ③ 市民一人ひとりが日常生活において環境配慮を実践し、市全体の環境についても広い視点で考え行動するよう働きかけるなど、「公民協働」の考えを基本として計画を推進する。

計画の施策体系の柱は、日野市の特徴である水やみどりの分野に、ごみ、地球温暖化及び生活環境を加えた5分野です。推進主体である市民・事業者・市の役割を明確にし、お互いに連携して計画を推進していきます。



「第2次日野市環境基本計画」(2011年3月)より

2015 年度（平成 27 年度）日野市環境白書

— 目 次 —

- ・日野市環境基本条例と 2015 年度日野市環境白書作成の経緯
- ・望ましい環境像

1. 2015 年度の日野市における環境への取組のトピックス	1
(1) 第 2 次日野市環境基本計画の中間検証を行いました	1
(2) 日野市環境情報センターは開設 10 周年を迎えました	3
(3) 第 12 回都市農業シンポジウム ～市民参加により、日野の水田を活かし、残す～を開催しました	4
(4) 水辺のある風景日野 50 選事業の新たな展開	5
2. 環境基本計画目標達成状況	6
(1) 環境指標による計画目標達成状況	6
①指標・目標値と達成状況	6
②各分野ごとの概況	7
(2) 施策の実施状況	8
①重点施策の実施状況	8
②分野別実施状況	9
(3) 分野別実施状況の考察	10
3. 環境の状況と取組状況の評価	11
みどり分野(環境の状況/市の取組状況/市民コメント)	12
水分野(環境の状況/市の取組状況/市民コメント)	21
ごみ分野(環境の状況/市の取組状況/市民コメント)	32
地球温暖化分野(環境の状況/市の取組状況/市民コメント)	40
生活環境分野(環境の状況/市の取組状況)	47
4. 環境への取組状況	56
(1) 市民および市民・行政の協働による環境への取組状況	56
(2) 行政による環境への取組状況	82
(3) 学校等による環境への取組状況	88
(4) 大学による環境への取組状況	97
(5) 事業者による環境への取組状況	98
5. 環境関連決算額	107
6. 市役所の環境配慮の状況	109
7. 環境基本計画の推進体制	111
(1) 環境基本計画の推進	111
(2) 日野市環境情報センターの活動状況	112
8. 環境審議会の意見等	115
9. 省エネ法に関する措置	117
付表 指標・参考データ出典一覧	118



1. 2015 年度の日野市における環境への取組のトピックス

2015 年度に実施された環境問題に対する取り組みの中から、つぎの 4 項目を注目すべきトピックスとして取り上げました。

(1) 第 2 次日野市環境基本計画の中間検証を行いました。

① 第 2 次日野市環境基本計画について

a. 計画の位置づけ

日野市では、次の世代に日野市の自然はもとより、大きくは青い地球を残すため、市民、事業者及び市職員がこれからどう行動し、持続可能なまちをつくるのかを指し示す道しるべとして、1999 年(平成 11 年)に「環境基本計画」を策定しました。

その後、環境をめぐる状況、法律や制度の変化に対応するため、市民、事業者、市職員によるワーキングチームにより議論を重ね、2011 年(平成 23 年)3 月に「第 2 次日野市環境基本計画」(以下「第 2 次計画」と略)を策定しました。この計画は「第 5 次日野市基本構想・基本計画」の目指す将来都市像である“ともに創ろう 心つながる 夢のまち 日野～水とみどりを受けつごう～”を環境分野から実現するための基本計画であり、市全体で環境保全・創出を行ううえでの基本的な考え方を示すとともに、着実に取り組んでいくべき内容や進め方を示しています。

b. 計画の推進

「第 2 次計画」の対象範囲は、自然環境、都市環境、地球環境や身近な生活環境など、私たちを取り巻く環境全体であり、特に市民が快適な日常生活を送ることができ、先人から伝えられてきた自然や暮らしを尊重し、次世代に継承していくことを目的としていることから、主なテーマを「みどり」、「水」、「ごみ」、「地球温暖化」、「生活環境」の 5 項目として扱っています。

第 2 次計画の策定以降、計画の推進主体である環境基本計画推進会議は、みどり、水、ごみ、CO₂の 4 グループに分かれて、市と市民、事業者が定期的に課題を検討して計画を推進しています。

② 「第 2 次計画」の中間検証について

「第 2 次計画」の期間は、2011 年(平成 23 年)から 2020 年(平成 32 年)で、2015 年(平成 27 年)度に策定後 5 年目を迎えることから、昨年度に中間検証を行い、策定時からの社会状況や環境を取り巻く状況の変化等を踏まえて、2016 年(平成 28 年)度からの 5 年間に特に重点的に実施すべき施策を検討しました。

a. 中間検証の背景・目的

これまでは、特に環境保全の面で重要度が高く優先的に展開していくべきものや、日野市らしさの創出につながる個別の施策を重点的に推進してきました。個別の施策を重点的に推進することで、その施策について一定の効果をあげてきましたが、各分野の目標達成に必ずしも直結していない施策もあるということが、計画を推進していく中で市民と市の共通認識となりました。

中間検証では、これまでの成果と課題を確認したうえで環境基本計画の原点に立ち返り、次のような検討のもと、大きな方向を捉え直しました。



1. 2015年度の日野市における環境への取組のトピックス

◆今後5年間でやっていくべき「重点施策の方向性」の検討

成果と課題を踏まえ、「第2次計画」策定時に掲げた将来像に向かって、計画期間の残り5年間で、見えてきた課題等を踏まえ、さらに推進すべきことや補っていくべきことを考慮し、重点施策の方向性を検討する。

◆「重点施策」の検討

上記の「重点施策の方向性」に沿った「重点施策」を検討する。

b. 中間検証の手順について

2015年(平成27年)1月から、環境基本計画推進会議の場において、中間検証について議題とし、「第2次計画」の実施状況の振り返りと今後の課題の洗い出しを行いました。4月からは、市民・事業者・市関係各課(環境基本計画推進会議から引き続き参加する者を含む)による中間検証のためのワーキングチームを設置し、2016年(平成28年)4月からの5年間で重点的に進めるべき施策の検討・策定を目的とした会議を開催しました。

2015年(平成27年)8月に中間検証報告書(素案)のパブリックコメントを実施し、10月に日野市環境審議会の審議を経ました。

③ 中間検証後の推進について

「第2次計画」の推進過程及び中間検証において、主に次のような課題が見えてきました。

- ・目標の達成度合いについて、評価方法が明確でない。
- ・「第2次計画」と関連する各種計画との関係性を整理する必要がある。

以上の課題を踏まえ、中間検証後の推進は次のとおりとします。

a. 進行管理の基本的方針

中間検証後の「第2次計画」の進行管理は環境基本計画推進会議が主体となって実施し、同会議は「みどり」、「水」、「ごみ」、「CO₂」グループ並びに「全体会議」により行います。取り組み内容については、計画の達成状況や社会情勢及び「第2次計画」の理念を踏まえて、「重点施策」について具体的に何を行うのかの年次計画と、その年度の評価基準を策定します。各グループは年次計画を実施し、その結果について定期的に評価を行い、翌年度の年次計画の策定に反映させます。

b. 他計画との関係性

他の計画との関係性については、それぞれの計画内容の整理を進めるとともに、複数の計画で同じ施策を進行管理すること(進行管理の重複)がないように検討していきます。

今後は、検証した「第2次計画」を着実に推進し、「望ましい環境像」「私たちの継承した自然環境を保全し、次の世代に引き継ごう」の実現に向けて、様々な主体と連携して取り組んでまいります。



(2) 日野市環境情報センターは開設 10 周年を迎えました。

日野市環境情報センター(愛称:かわせみ館)が 2015 年(平成 27 年)7 月で開設 10 周年を迎えました。これまでの間、環境情報センターをご利用いただいた皆様、また、環境情報センターを支えていただいた皆様に心より御礼申し上げます。

環境情報センターは 2005 年(平成 17 年)7 月に市民参画により策定された「日野市環境基本計画」に基づいて開設され、愛称の「かわせみ館」は市民から公募し、かわせみが市の鳥でもあることから決定しました。

環境情報センターの主な業務は、環境情報の収集・分析・発信や市民を対象とした環境セミナーの開催、児童向けの環境学習、市民環境団体の活動支援、大学や諸団体との連携などです。

具体的な取り組みとしては、「市民環境大学」や「みんなの環境セミナー」「小学校などへの環境学習支援」などの実施、「日野市環境白書」や「センター年報」「かわせみ館ニュース」の作成、「雑木林ボランティア講座」や「水辺の楽校」「ひの緑のトラスト」などの環境保全活動の支援、「環境フェアへの環境情報センターブース出展」や「かわせみ館フェア」「生きものや植物などの写真展」といったイベント開催など活発に活動しています。

開設から 10 年間で、かわせみ館に来館された方は延べ 24,000 人を超え、環境学習は 50,000 人以上の方々に実施してきました。

このように、今まで多くの皆さんに利用していただいていた環境情報センターですが、平成 29 年に、黒川清流公園に隣接する場所に建設される(仮称)東豊田複合施設に地区センターと融合した新たな環境情報センターとしてリニューアルオープンする予定です。

これからも市民の皆さんに愛され、必要とされる「日野市環境情報センター」であり続けるべく、市民の皆さんと共に日野の身近で大切な自然環境を守り、次の世代へ引き継ぐための活動に努めて参ります。



市民環境大学の様子



(仮称) 東豊田複合施設外観イメージ

※このイラストはイメージにつき、実際とは異なります。



1. 2015年度の日野市における環境への取組のトピックス

(3) 第12回 都市農業シンポジウム

～市民参加により、日野の水田を活かし、残す～ を開催しました

- ◇ 日時：2016年(平成28年)1月16日(土) 13:30～16:00
- ◇ 場所：日野市民会館(ひの煉瓦ホール) 小ホール
- ◇ 主催：日野市、水都日野・水田保全検討会
- ◇ 共催：日野市農業委員会、東京南農業協同組合
- ◇ 後援：農林水産省関東農政局東京地域センター、東京都、東京都農業会議、他

◇ 内容

- ◎ 「日野市の水田や水路の現状と市民による水田利用」の紹介
 - 日野市の水田や水路の現状
 - 水田保全に資する農家と市民の協働事例
- ◎ パネルディスカッション
 - テーマ：「日野の資源である水田・水路を守るために、農家と市民がどのように協働したらよいか」
 - 進行役：一般財団法人都市農地活用支援センター
 - パネリスト：7名
- ◎ ビデオ・スライド上映
 - 田んぼや用水路に関する市民参加の光景
 - 日野の用水路、水辺の様子、公民館事業の「田んぼの学校」、用水守の活動、市民が援農参加している様子等
 - その他、農を活かしたまちづくり、産業振興の取り組み事例
- ◎ 展示
 - パネル展示：市民協働による水田保全事例、日野の用水路等の紹介
 - 農の生け花：日野市女性農業者の会 みちくさ会
- ◎ マルシェの開催
 - 日野産農産物等直売



日野市では、全国に先がけ「農業基本条例」を制定し、市民協働による農のあるまちづくりを進めており、都市における農地の持つ多面的機能と魅力について、市民の皆様理解を深めていただくことを目的とするシンポジウムを開催しています。

2015年度(平成27年度)は、日野市の水田や水路の保全に資するための国土交通省のモデル調査「〈水都日野〉農家と市民の協働による水田保全手法等検討調査」を行なっていたことから、今回のシンポジウムのテーマとしました。

第一部では水田・水路についての現状、保全に係わる市民の参加状況、都市環境に果たす役割等に関する事例紹介を行い、第二部では、農業、水利関係者・水田応援市民・JA職員をパネリストに迎えて“日野の宝である「水田」や水路を守るため、農家と市民がどのように協働したらよいか”をテーマとしてのパネルディスカッションを行ないました。

パネルディスカッションでは「水田があること、残すことの意義について」や「水田を残すための課題」、「水田を残すための方策」について意見が交わされ、農家からは水田の収益性の低さや高齢化による後継者不足の現状、農機具の使用が難しくなっているなどの課題等が挙げられたほか、市民団体等による援農に期待する声も挙げられました。

また、会場の出席者からも水田を残すための提案や課題の提起があるなど、議論は盛り上がりを見せました。登壇したパネリストからは、「今後も水田を維持していくために頑張っていきたい」、「他の登壇者の熱意ある意見を聞いて希望の光が見えてきた。」といった感想が聞かれ、都市農地の保全に向けた前向きな一歩となるシンポジウムとなりました。



(4) 水辺のある風景日野 50 選事業の新たな展開

水辺のある風景日野 50 選事業において選定された場所を広く周知するため、現地に標柱（サイン）を設置しました。

①設置の目的

市制 50 周年を記念して、2013 年度に選定された「水辺のある風景日野 50 選」を単に選定だけで終わることなく、選定された水辺の活用をめざし、生態系豊かで魅力的な潤いと賑わいのある拠点として、環境を核としながら観光や健康、多様なコミュニティの交流などにも着目して新たな 50 年後に向けたステップと位置づけて取り組みました。

さらに具体的な設置目的として、以下の 4 点を挙げます。

- a. 広く市内外から訪れる人に水辺 50 選を知ってもらう。
- b. 子どもたちに水辺の意味や大切さを伝え、大事に思う心や感性を養う。
- c. 標柱設置をきっかけに地域を巻き込み、水辺保全・活用のアクションにつなげる。
- d. 将来的には水辺を軸とした人・物のネットワークを目指す。

②制作・設置に協力をいただいた方々

標柱の設置に当たっては、市民団体「みずとくらす・ひの」が主体となり、デザインや制作には東光寺小学校・七生緑小学校・七生中学校の児童、生徒の皆さんの思いが込められ、「総合的な学習の時間」を活用するなどして、各校の校長先生をはじめ、図工、美術、学年担任の先生方のご指導、ご協力のもと進められました。

また、サインの基礎となった木材は市内で萌芽更新などの際に伐採された樹木を活用し、市内の製材所や造園業の方々のご協力をいただくなど、まさに諸力融合の成果だといえます。

来年度以降も楽しい取り組みとして継続していきたいと考えています。



東光寺小学校



七生緑小学校



七生中学校

2. 環境基本計画目標達成状況

2. 環境基本計画目標達成状況

(1) 環境指標による計画目標達成状況

2011年3月に新たに策定された「第2次日野市環境基本計画」では、“将来の望ましい環境像”が掲げられています。この“将来の望ましい環境像”に対し、分野ごとに指標と目標値が設定されています。これらの指標の目標年次は、基本計画策定時から10年後の2020年度（平成32年度）としており、当白書で年度ごとに各数値を確認することにより、目標の実現に近づいているかどうかを把握することができます。

① 指標・目標値と達成状況

各分野の指標と目標値、現況値は以下の表の通りです。

なお、指標の中には、都や国土交通省などの提供によるデータを用いたものなど、毎年調査されないものも含まれています。各年度における数値が得られないこれらの数値については、調査年度を併記しています。

	指 標	基準(年度)	現況(平成27年度)	目標(平成32年度)
みどり分野	土地利用現況調査「森林」の割合	7.4%(平成19年度)	6.7%(平成24年度)	7.4%
	農地面積	197.0ha(平成21年度)	168ha(平成27年度)	160ha
	市民一人当たり都市公園面積	7.13㎡/人(平成21年度末)	7.12㎡/人(平成27年度)	9.00㎡/人
	緑被率※1	32.7%(平成19年度)	31.7%(平成24年度)	32.7%
	【参考】新しいみどりの面積※2	約200ha(平成20年度)		参考指標のため目標値は設定しません。
水分野	浅川の水位	【浅川橋】年平均0.8m※3	【浅川橋】年平均0.59m(平成27年度)	年平均0.8m
	湧水確認地点数・湧水量	【地点数】179箇所 【湧水量】9888.3t/日 (平成21年度)	調査地点数が少なく評価困難	【地点数】179箇所 【湧水量】10,000t/日
	用水の水質の状況	生活環境の保全に関する環境基準B類型に適合(平成21年度)	生活環境の保全に関する環境基準B類型に適合(平成27年度)	生活環境の保全に関する環境基準B類型に適合
	河川・用水・湧水の水生生物確認状況	底生生物90種、魚類15種、付着藻類42種(平成21年度)	底生生物97種(用水路)、魚類18種(用水路)、付着藻類33種(河川) (平成27年度)	底生生物90種、魚類15種 付着藻類42種
	水辺に親しみやうおを感じる市民の割合	意識調査で、「自然環境が良い(水とみどり、農のある風景など)」という回答率80.4%(平成21年度) (「日野市市民意識調査結果報告書」平成22年3月、企画調整課)	意識調査で、「自然環境が良い(水とみどり、農のある風景など)」という回答率76.3%(平成27年度) (「日野市市民意識調査結果報告書」平成28年3月)	85.0%
分ご分野	1人1日当たりのごみ排出量	721g(平成21年度)	648g(平成27年度)	600g
	資源化率	35.7%(平成21年度)	35.7%(平成27年度)	40.0%
地球温暖化分野	日野市二酸化炭素排出量(全体)※4	763(10 ³ t-CO ₂) (平成2年度)	731(10 ³ t-CO ₂) (平成25年度)	短期目標 10%(75.0kt-CO ₂) (平成27年度) 中期目標 18%(128.6kt-CO ₂) (平成32年度) 長期目標 60%(450.0kt-CO ₂) (平成62年度)
	日野市二酸化炭素排出量(部門別)※4	産業部門 277(10 ³ t-CO ₂)	産業部門 217(10 ³ t-CO ₂)	産業部門 232(10 ³ t-CO ₂)
		家庭部門 162(10 ³ t-CO ₂)	家庭部門 252(10 ³ t-CO ₂)	家庭部門 123(10 ³ t-CO ₂)
		業務部門 100(10 ³ t-CO ₂)	業務部門 95(10 ³ t-CO ₂)	業務部門 70(10 ³ t-CO ₂)
		運輸部門 209(10 ³ t-CO ₂)	運輸部門 147(10 ³ t-CO ₂)	運輸部門 91(10 ³ t-CO ₂)
		廃棄物部門 15(10 ³ t-CO ₂) (平成2年度(1990年);基準年)	廃棄物部門 20(10 ³ t-CO ₂) (平成25年度(2013年度))	廃棄物部門 14(10 ³ t-CO ₂) (平成24年度(2012年度))
	エネルギー使用量※5		8015(TJ)(2013年)	
	公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率	78.2%(平成21年度)	80.1%(平成27年度)	80.0%
	公共交通機関(ミニバス・バス)の利用人数	ミニバス:152万人(平成21年度) バス:1,164万人(平成20年度)	ミニバス:158.8万人 (平成27年度) ワンタクシー:2.8万人 (平成27年度)	ミニバス:158万人※6
	CO ₂ 削減のための行動をしている市民・団体の数(「ふだん着でCO ₂ をへらそう宣言※」の宣言数)及びCO ₂ 削減量(宣言項目の実践により見込まれる値)	6,438世帯・141団体 3,165t-CO ₂ [年間] (平成20年度)※7	40,778世帯・2,553団体 16,117t-CO ₂ [年間] (平成27年度)	35,000世帯・2,500団体 16,160t-CO ₂ [年間] (平成24年度/事業完了時)※7
	生活分野環境	意識調査で、「きれいな水や空気、騒音や臭い捨てがないなど、良好な生活環境が確保されている」という回答率36.0%(平成21年度) (「日野市市民意識調査結果報告書」平成22年3月、企画調整課)	意識調査で、「きれいな水や空気、騒音や臭い捨てがないなど、良好な生活環境が確保されている」という回答率42%(平成27年度) (「日野市市民意識調査結果報告書」平成28年3月)	50.0%

※1 土地利用現況調査の土地利用分類でのみどり率〔公園、運動場等、田、畑、樹園地、採草放牧地、水面・河川・水路、原野、森林の合計面積の市域面積に対する割合〕

※2 市が実施した人工衛星画像解析調査で得られたみどりの面積から東京都土地利用現況調査のみどりを差し引いた面積（企業、工場、学校等のみどり）

※3 国土交通省提供データ（平成21年度）

※4 二酸化炭素排出量（全体・部門別）は、平成23年度策定の「第3次日野市地球温暖化対策実行計画」による。現状値の記載されている年度が最新年度となる。

※5 エネルギー使用量については、「第2次日野市環境基本計画」では目標値を掲げていたが、「第3次日野市地球温暖化対策実行計画」には目標値が設定されていないため、現状値のみを掲載する。現状値の記載されている年度が最新年度となる。

※6 一般路線バスについては、目標値設定していない。

※7 CO₂削減量は一般世帯分のみ換算

*ふだん着でCO₂をへらそうの宣言・・・家庭や事業所からのCO₂排出量を削減するために、ふだん着感覚でできる取り組みを市民・事業者を紹介し、取り組みに繋げるための事業。

② 各分野ごとの概況

○みどり分野：「みどりの原風景をつなぐまち」

「土地利用現況調査における森林の割合」と「緑被率」、「農地面積」、「市民一人当たり都市公園面積」に目標値が定められています。「森林の割合」と「緑被率」については現状維持を目標としていますが、根拠となる土地利用現況調査は5年毎の調査となっています。従って、各年度では「農地面積」と「市民一人当たり都市公園面積」の推移に注視する必要があります。

今年度得られた統計データでは、「農地面積」はさらに減少し、目標値を下回る結果となりました。「市民一人当たり都市公園面積」は微減しているものの、緑量は概ね維持されているものと推察できます。都市公園面積＝緑被面積＝森林面積ではない点に注意が必要です。

○水分野：「水文化を伝えるまち」

浅川や湧水、用水の水量、水質や水生生物の確認状況について、概ね現状を維持するための目標値が定められています。河川の水位は降水量などの不確定要素に左右される部分もありますが、年度ごとの推移をみると、ここ数年減少傾向にあります。湧水量については、今回全地点での調査が行われておらず評価ができませんでした。環境基本計画の目標値を達成するためにも、総湧水量を把握できるような調査が必要です。水質については箇所ごとによっては増減がありますが、全体としては良好です。水生生物の生息状況については、分類群によって増減はありますが、概ね目標とする種数を維持できています。水辺にうるおいを感じる市民の割合については、平成27年度に実施した意識調査で76.3%と、目標値には届かない結果となりました。

○ごみ分野：「ごみゼロのまち」

「1人1日当たりのごみ排出量」は計画策定時よりも目標に近づき、「資源化率」は計画策定時よりもやや減少したものの大きな変化は見られません。経年的な変化などの詳細は次章にまとめられていますが、その他の個別施策の数値とも安定している傾向が認められます。

○地球温暖化分野：「低炭素社会を築くまち」

環境基本計画では、「二酸化炭素排出量」、「エネルギー使用量」について、2013年度（平成25年度）以降の目標値は「第3次日野市地球温暖化対策実行計画」（以下、第3次実行計画）で定めるものとしていました。従って、ここで掲げる目標値は第3次実行計画のものとなっています。また、基準値についても、基準年度は同じですが、環境基本計画と第3次実行計画で用いている統計手法が異なるため、第3次実行計画のものに改めています。

第3次実行計画では「二酸化炭素排出量」について、国の計画に合わせ削減率（量）を目標値とするよう改められています。また、全体として二酸化炭素排出量の削減に目標が集約されており、「エネルギー使用量」は目標としては掲げられないものとなりました。

二酸化炭素の削減量において、2013年度の削減量は基準年比4.2%で2012年度（1.3%）より増加しています。

「ミニバスの利用人数」については、昨年度より112,000人増加し、目標値の158万人を達成することができました。

2. 環境基本計画目標達成状況

○生活環境分野：「心やすらぐ住みよいまち」

目標に掲げる指標は毎年の調査を想定しておらず、数年おきに行われる「日野市市民意識調査」の結果により評価されます。2015年(平成27年)度はこの調査が行われ、「きれいな水や空気、騒音やポイ捨てがないなど、良好な生活環境が確保されている」という回答率は42%でした。

一方、年度ごとの状況を測る指標として、当白書では次章の＜環境の状況＞に示す「苦情の受付件数」の推移をまとめています。2015年度は騒音等の苦情件数がやや増加したものの長期的に見れば減少傾向にあります。市民一人ひとりが快適に暮らすために引き続きマナー啓発を含めた取り組みを進めていきます。

(2) 施策の実施状況

①重点施策の実施状況

環境基本計画における個別施策の中で、重点施策と位置づけられたもののうち、前項の環境指標と同様に目標値が掲げられているものについて、下記に示します。年度ごとの目標値も各主管課により設定されています。

重点施策実施状況一覧

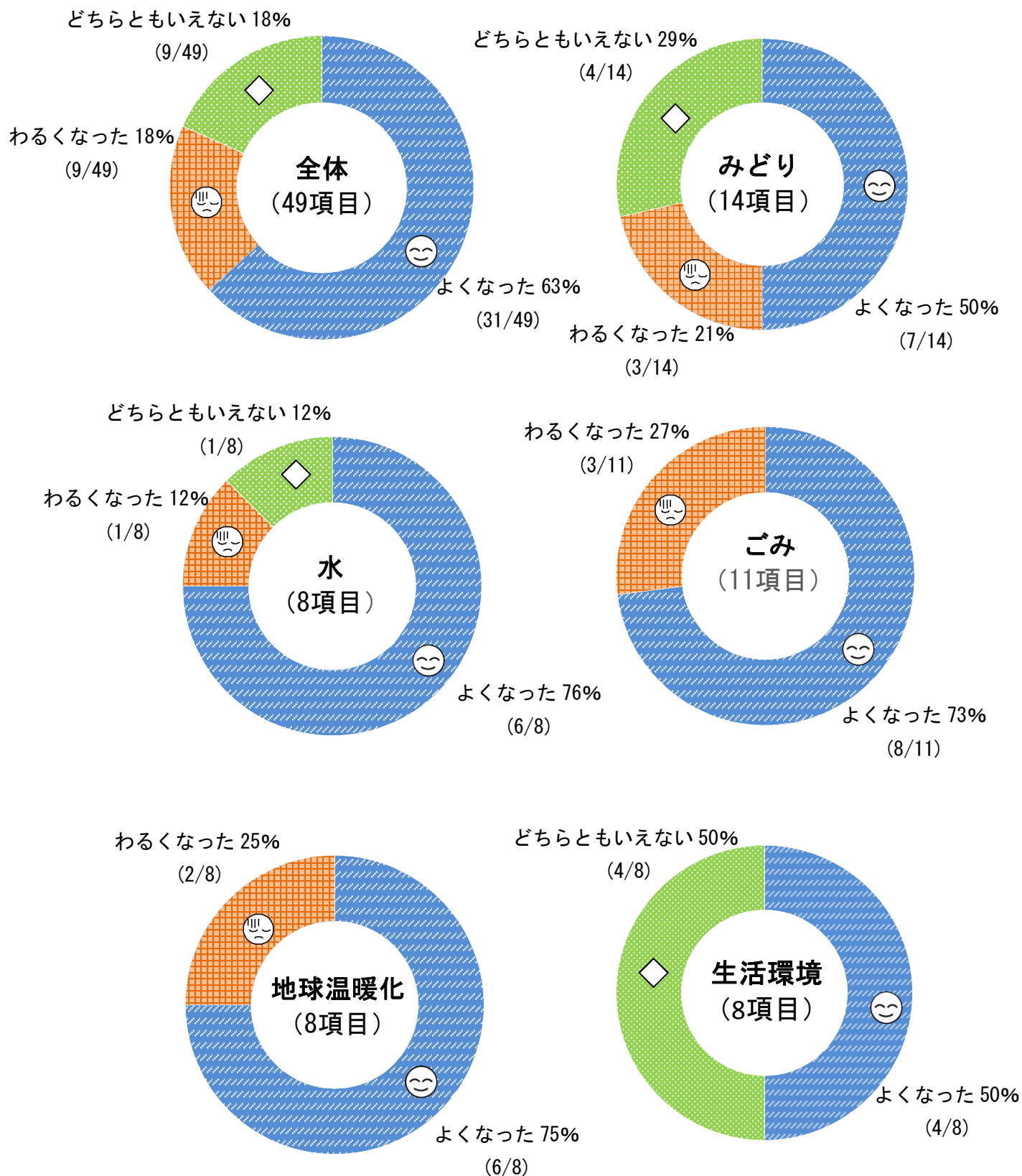
分野	施策の方向	施策	活動指標	年度目標値	実績値	達成
自然環境	自然度の高いみどり	市民緑地活動の積極的支援(環境保全課)	緑のトラストへの寄付件数	累計 3,500(件)	累計 1,602(件)	△
		ボランティアによる里山の管理と活用(緑と清流課)	雑木林ボランティア講座修了者数	243(名)	243(名)	○
	農地の保全と活用	市民農園等の拡充(都市農業振興課)	市民農園等の箇所数	市民農園の数 17(園) 農業体験農園の数 3(園)	13(園) 3(園)	○
		地元野菜にふれる機会の充実(都市農業振興課)	直売所、即売所の箇所数 学校給食野菜等 納品農業者数	直売所 4(箇所) 定期即売会 3(箇所) 給食野菜納品農業者数 45(人)	5(箇所) 6(箇所) 42(人)	○
水	健全な水循環の構築	水循環に寄与する方策の検討(緑と清流課)	水収支の実態把握	湧水確認地点数- 湧水量- (年度目標値なし)	調査地点数が少なく評価困難	△
	協働による水辺の保全・活用	水辺に親しむ活動の推進(緑と清流課)	水辺イベントの開催数	水辺の楽校による水辺での活動実施校 2(校) 水辺の環境教育・学習の実施回数 61(回)	2(校) 61(回)	○
生活環境	ごみ排出量の低減	レジ袋無料配布中止の拡大(ごみゼロ推進課)	マイバッグ持参率	マイバッグ持参率 66(%)	65(%)	○
		容器包装お返し大作戦の展開(ごみゼロ推進課)	ペットボトル、発泡トレーの行政回収量	530(t)	478(t)	○
	リサイクルの推進	生ごみの家庭内循環(自家処理)の普及促進(ごみゼロ推進課)	生ごみ処理器補助の件数 生ごみリサイクルカー 生ごみリサイクルカー- 揭示世帯数	生ごみ処理器補助の件数 累計 5198(件) 生ごみリサイクルカー- 揭示世帯数 累計 4580(件)	5198(件) 1268(件)	△
		市民・事業者への啓発	環境学習出前講座の実施回数 ごみ相談窓口への相談件数 クリーンセンター見学者数	環境学習出前講座の実施回数 52(回) ごみ相談窓口への相談件数 5300(件) クリーンセンター見学者数 2170(人)	31(回) 5786(件) 1428(人)	△
	協働によるごみゼロの実現	新聞紙の民間回収への移行(ごみゼロ推進課)	新聞紙の行政回収量	1218(t)	515(t)	○
	省エネルギーの推進	CO ₂ の見える化の推進(環境保全課)	ワットチェッカー・省エネナビの貸出数 環境家計簿の活用件数	ワットチェッカー-貸出数 50(件) 省エネナビ-貸出数 10(件) 環境家計簿活用状況 1000(件)	35(件) 13(件) 11,841(件)	○
地球温暖化	省エネルギーの推進	省エネ診断の支援(環境保全課)	省エネ診断の参加事業者数	150(件)	1(件)	×
		太陽光発電等導入補助の実施(環境保全課)	太陽光発電等の導入補助件数	40(件)	41(件)	○
	新エネルギーの導入	太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	公共施設の新エネルギー導入状況	累計 133(kw)	157(kw)	○
		環境に配慮した交通体系の構築	渋滞の解消(道路課)	都市計画道路の整備率	92.80%	○
生活環境	日常生活をとりまく環境の充実	PRの実施(環境保全課)	マナーアップのための啓発活動状況	広報、街頭キャンペーン等 実施回数 14(回)以上	18(回)	○

○：達成・実施(70%以上) △：一部達成・一部実施 ×：未達成

②分野別実施状況

※以下のグラフは、「環境基本計画」に関連する、本白書記載の49指標について分野別取り組み状況を示したものです。

😊 よくなった 😞 わるくなった ◇ どちらともいえない



2. 環境基本計画目標達成状況

(3) 分野別実施状況の考察

○みどり分野

本白書掲載の指標数は14項目と、最も多い分野です。また、取り扱う施策が自然環境からまちなかの緑地および農業と幅広いことも特徴です。

達成状況は、「よくなった」が7項目、「わるくなった(未達成等)」が3項目、「どちらともいえない」が4項目となっております。

「わるくなった」の内訳の一つ目は、農地面積（耕地面積）で、年々減少を続けており、農地保全に実現性の高い施策の充実が望まれます。二つ目は、緑のトラスト寄付件数で、年度目標には到達していませんが、着実に緑のトラスト活動を広めていくために、継続した広報活動に努める必要があります。

○水分野

本白書掲載の指標は8項目です。達成状況は「よくなった」が6項目、「わるくなった」が1項目、「どちらともいえない」が1項目です。

「わるくなった」の指標は浅川の水位です。2010年以降減少を続けており、今後も注意深く監視すると共に、流域の大半を占める八王子市との連携を更に強化していく必要があります。

○ごみ分野

本白書掲載の指標は11項目です。達成状況は「よくなった」が8項目、「わるくなった」が3項目です。

「わるくなった」の指標は、生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数、環境学習出前講座の実施回数、クリーンセンター見学者数です。今後も、より一層の啓発活動や施策の拡大が必要となってきます。

○地球温暖化分野

本白書掲載の指標は8項目です。達成状況は「よくなった」が6項目、「わるくなった」が2項目です。

「わるくなった」の一つ目は二酸化炭素排出量です。2011年以降増加傾向であったのが2013年度はわずかに減少していますが、削減量は年度目標値の半分以上となっています。要因としては火力発電稼働増加や多様な家電製品の普及等が考えられます。今後も私たち一人ひとりが省エネ・省資源に努めると共に、再生可能エネルギーの普及・利用に注視していきたいと思えます。二つ目は省エネ診断の参加事業者です。2013年からは市内業者を訪問し、省エネ診断の意義を周知することにより、参加事業者数の増大を図っています。今後とも様々な機会を捉え、工夫した啓発活動が重要となります。

○生活環境分野

本白書掲載の指標は8項目です。達成状況は「よくなった」が4項目、「どちらともいえない」が4項目です。

施策としては直接的な効果が見えにくい分野ですが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、更なるよりよい環境に向けた取り組みが必要と思われます。

3. 環境の状況と取組状況の評価

ここでは、「日野市環境基本計画」における望ましい環境像を実現する5つの分野である、みどり、水、ごみ、地球温暖化、生活環境について以下の流れで順に紹介します。

(1) 環境の状況

「日野市環境基本計画」では、分野ごとの指標となる目標値が設定されています。これらの指標に対する値をみることで、現在の環境の状況を把握するとともに、望ましい環境像に近づいているかどうかを確認することができます。前章では指標の達成状況や実施状況を示しましたが、ここでは、指標の現在までの推移などをみることができます。

各指標の冒頭には変化の方向を示すため、下記の凡例に従って記号を示しています。

😊	よくなった。(目標 70%以上含む)
😞	わるくなった。(未達成等)
◇	どちらとも言えない、判断できない。(定量的な比較が困難なもの等)

(2) 市の取組状況

「市の取組状況」では、分野ごとに各施策と具体的な取り組み、実施状況を表にて整理しています。施策の実施状況については、業務内容が環境に関連の深い市役所の課を対象に実施状況の調査を行い、その結果を分野ごとに掲載しています。

また、施策の実施状況や、進捗状況、効果等を確認するために指標の推移をグラフや表でまとめています。

なお、全ての施策について掲載すると膨大な量となるため、重点施策や定数的な評価が可能な施策を抽出しています。

ここで述べる重点施策とは、基本計画で設定されたもので、2011 年度から 2020 年度まで取り組むべき施策のうち、特に環境保全の面で重要度が高く優先的に展開していくべきものや、“日野らしさ”の創出につながるものを取りあげられています。

(3) 市民コメント

2001 年度以降、白書には環境基本計画作成に携わった方々による分科会ごとのコメントを掲載してきました。引き続き今回も環境基本計画推進会議に参加する市民のコメントを掲載しました。

みどり分野

< 目 標 >

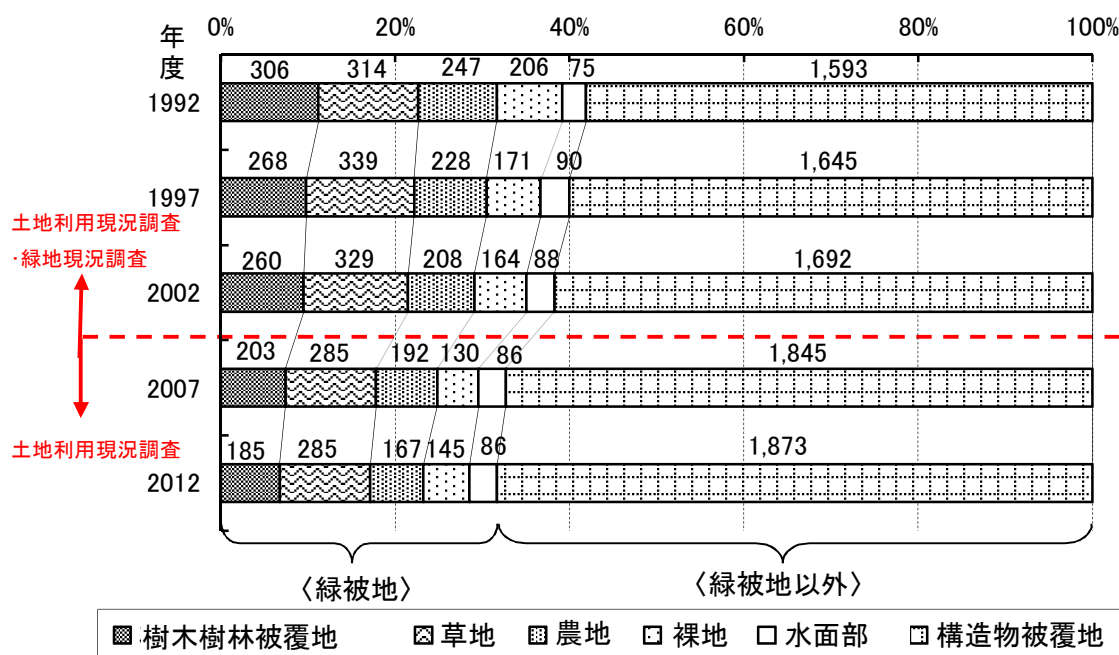
みどりの原風景をつなぐまち

1. <環境の状況>

1.-1 土地利用現況調査「森林」の割合と緑被率

森林の割合
目標値: 7.4%
緑被率
目標値: 32.7%
(平成 32 年度)

指標 1: 緑の構成比〔5 年毎調査〕



(※グラフ中の数字は面積 (ha))

※1992～2002 年度調査は土地利用現況調査と同時に行う緑地現況調査の成果報告値。

2007 年度以降の調査は東京都が行っており、緑地現況調査は実施されなかったため、土地利用現況調査のみどり率から抽出したもので、全く調査内容が異なる。

※本調査は5年ごとに実施しており、本白書では直近の2012年のデータを再掲しています。

上記の調査内容が異なることに注意しながら現状をみても、減少傾向であることに変わりはないと思われます。2012年度の「森林」の割合は6.7%で、2007年度に比べ0.7ポイント減少しました。また、緑被率も31.7%と1.0ポイント減少しています。

環境基本計画では、みどり全体の量の保全を目指しています。みどりの量を計る指標である緑被率と、その中でも自然度が高い「森林」（樹木樹林被覆地）の割合については、2007年度数値の維持を目標として掲げています。

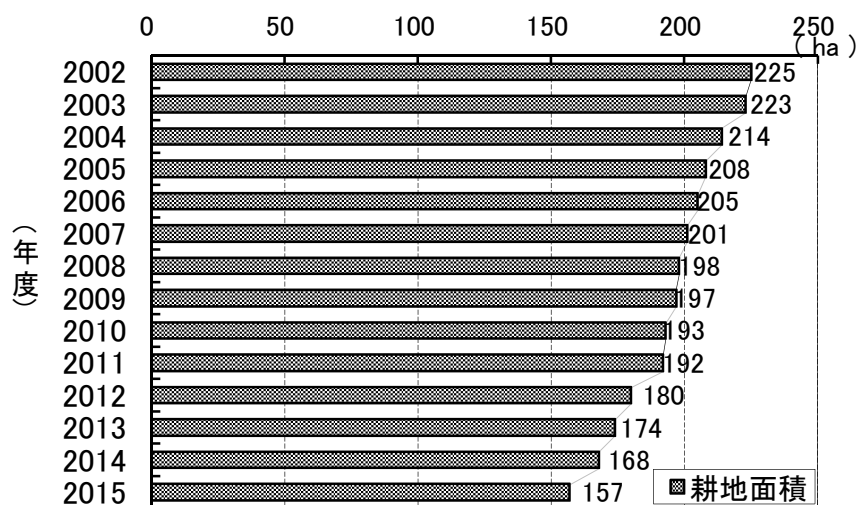
1. -2 農地面積



指標 2：耕地面積

目標値：160ha

(平成 32 年度)

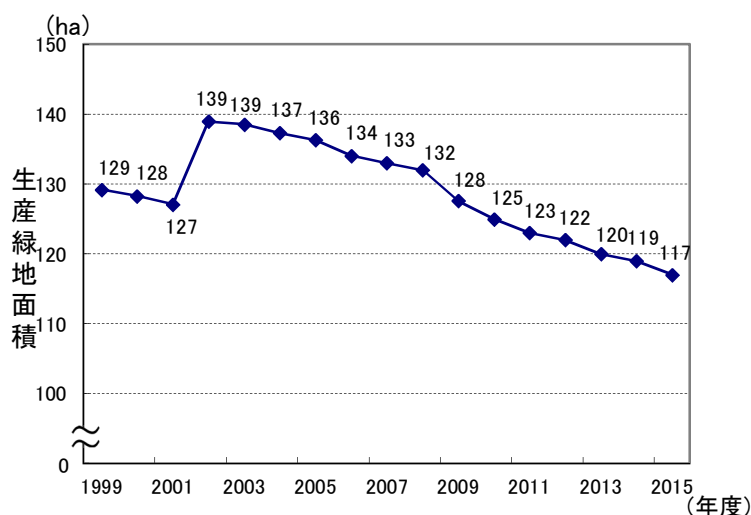


農林水産省発表の耕地面積の数値を使用しています。

年々減少傾向が続いていましたが、2010年度から2011年度にかけては減少に歯止めがかかりました。しかし、2012年度以降再び減少に転じ、2015年度は157haとなり、目標値を割り込んでしまいました。今後の推移を注視していく必要があります。



指標 3：生産緑地面積



生産緑地地区とは

市街化区域内にある農地等の農業生産活動に裏付けられた緑地機能に着目して、農業が営まれている等の一定の要件を満たす一団の農地について、「保全する農地」として計画的に保全し、税制上の優遇措置などにより良好な都市環境の形成を図る都市計画の制度。

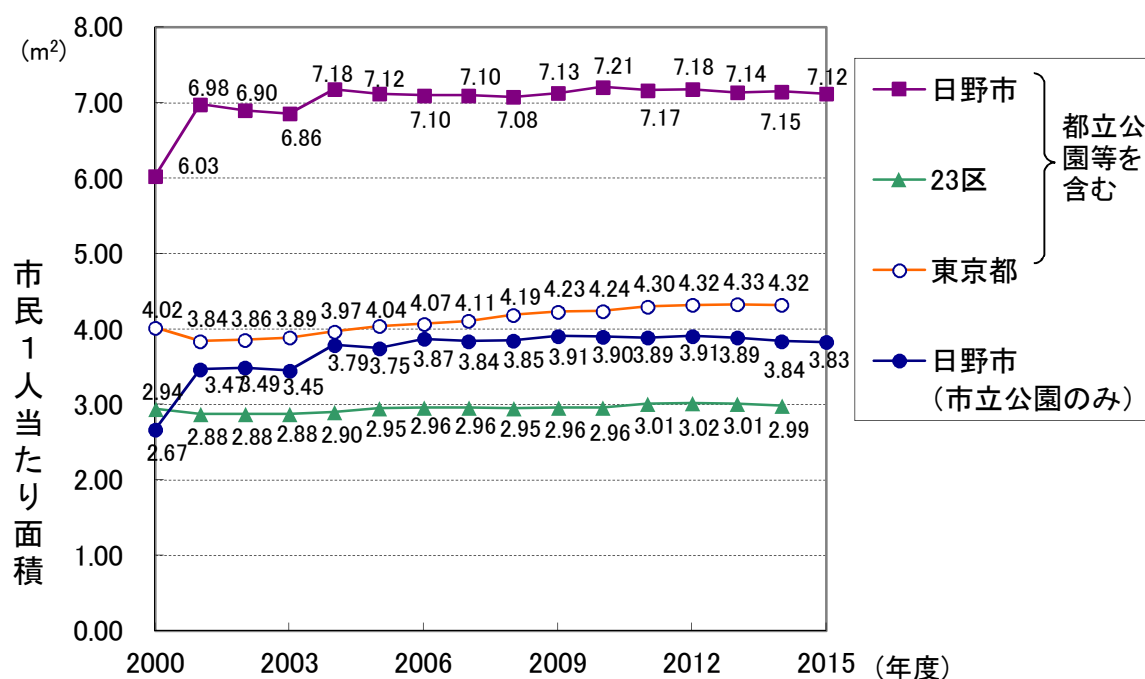
生産緑地は2002年度から他市に先がけて追加指定を行なっていますが、相続や後継者難等の理由で年々減少の傾向が続いています。2015年度は2014年度に比べ、2ha 減少の117ha でした。

3. 環境の状況と取組状況の評価

1. -3 市民一人当たり都市公園面積

目標値: 9.00 m²/人
(平成 32 年度)

◇指標 4 : 一人当たり都市公園面積



都市公園とは

下記に該当する公園または緑地である。

- ・都市計画施設である公園又は緑地で、国又は地方公共団体の設置するもの。
- ・都市計画法による都市計画区域内において、地方公共団体が設置する公園又は緑地。

(参考) : 多摩地区の一人当たり都市公園面積

(2015 年 4 月 1 日現在)

10 m ² 以上	7 m ² 以上	4 m ² 以上	4 m ² 未満
瑞穂町(36.14)	昭島市(9.73)	府中市(6.88)	あきる野市(3.71)
武蔵村山市(17.09)	町田市(9.67)	福生市(6.88)	日の出町(3.23)
多摩市(15.89)	立川市(9.27)	小金井市(6.43)	三鷹市(3.08)
八王子市(11.60)	東大和市(8.11)	羽村市(6.10)	小平市(2.68)
稲城市(11.11)	日野市(7.06) ※	調布市(5.43)	東久留米市(2.08)
	※指標 4 とは用いる人口が異なるため、数値が異なります。	東村山市(5.09)	国立市(1.88)
		青梅市(4.41)	国分寺市(1.76)
		武蔵野市(4.22)	狛江市(1.30)
			西東京市(1.22)
			清瀬市(0.68)

※2016 年 4 月 1 日現在のデータが本白書とりまとめ時に公表されていなかったため参考として 2015 年 4 月 1 日現在のデータを掲載

2. <市の取組状況>

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	重点	実施状況
緑の原風景をつなぐまち	自然度の高いみどり	丘陵地・斜面緑地等の保全	民有緑地の公有地化等の推進		国費、都費を導入し、約 2,550 m ² の用地買収を行なった。 (緑と清流課)
			緑地管理協定等による保全の推進		緑地信託、緑地協定ともに新規追加はないが、土地所有者と協働・連携し、みどりの保全を図った。 (緑と清流課)
			市民緑地活動の積極的支援	★	かわせみ館ニュースや広報により PR を行なったほか、市内のイベントにて取り組み内容について広報活動を積極的に行なった。 (環境保全課)
			「残したいみどり」の選定	★	平成 26 年度末に「残したいみどりの選定」の成果まとめを報告。今後は生き物マップの作成という施策と一緒に進めていく。 (緑と清流課)
		里山文化の継承を兼ねた管理体制	ボランティアによる里山の管理と活用	★	第 11 期の雑木林ボランティア講座を年間を通して 5 月から翌 3 月まで実施し、里山の維持管理について学ばれ、今期は 27 人の方々が修了された。 (緑と清流課)
	農地の保全と活用	構築農のある風景の保全	市民農園等の拡充	★	【状況】 ・市営市民農園は 11 農園(664 区画) ・民営(NPO 法人めぐみ)による市民農園 2 園 ・農家経営による農業体験農園は 3 園(86 区画)と前年度と変わらず。 (都市農業振興課)
			援農ボランティア制度の拡充		平成 17 年 1 月に「農の学校」を開校し、現在まで、11 期 190 名の市民援農ボランティアを輩出した。卒業生は NPO 法人日野人・援農の会でボランティア活動を行なっている。 【状況】 ・11 期生を含む約 90 名が 45 農家で援農。 ・現在 12 期生 26 名が本年 12 月まで受講中。 (都市農業振興課)
		地産地消による生産流通システムの確立	地元野菜にふれる機会の充実	★	【状況】 ・学校給食供給農家は、現在 42 農家が供給。 ・市役所本庁舎 1 階ロビーにて、毎月第 2、第 4 木曜日にファーマーズセンター「みどり処」の出張販売を行い来庁者への販売。また、ファーマーズセンターにて市内農産物を使用したランチの提供。 ・「ひの恵み焼きカレーパン」への素材提供(ジャガイモなど)。 (都市農業振興課)
	まちのなかのみどりの創出・保全	民有地等の緑化	生け垣緑化の推進		ブロック塀撤去と生け垣設置補助に関する実態を把握し、より使いやすい補助制度を検討する。また、地域で生け垣緑化に取り組むモデル事業などを実施するとともに、地区計画で生け垣設置を推奨する。 生け垣設置補助利用により、2 件 10m の生け垣が設置できた。結果としては短い距離となったが、生け垣補助制度の問い合わせは多々あり PR に努めた。 (緑と清流課)
	協働によるみどりの保全・創出	みどりに関する普及啓発	市民・事業者への情報提供・PR	★	11 回の自然観察会を実施。特に平成 27 年度は農地を含む保全の大切さや、みどりの良さを再認識してもらうために、市内の原風景等を中心に市内歩きを実施した。 (緑と清流課)
		協働によるみどりの実態把握	みどり・生き物マップの作成	★	残したいみどりの上に生き物の現状を載せることや整理の仕方など検討している。 (緑と清流課)

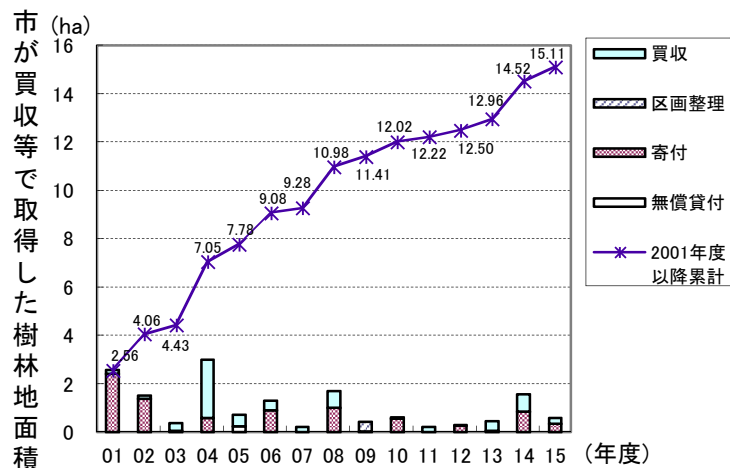
3. 環境の状況と取組状況の評価

2-1 自然度の高いみどり

(1) 丘陵地・斜面緑地等の保全

民有緑地の公有地化等の推進

☺ 指標 5：市が寄付や買収等で取得した樹林地面積

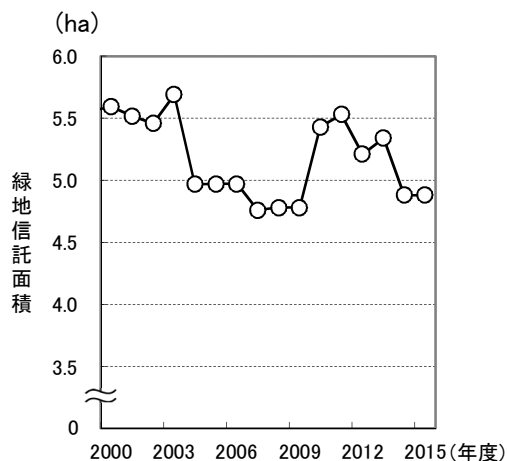


市が取得した樹林地面積は、日野緑地として買収により 2,556 m²、寄附により 3,320 m²の合わせて 5,876 m²が増加しました。

緑地信託面積では、公有化を図るべく先行取得により解除を行ったため2014年度は2013年度から約4,600m²減少し、2015年度においても同様の総面積約48,800m²となりました。

緑地管理協定等による保全の推進

◇ 指標 6：緑地信託面積



緑地信託制度とは

良好な緑地、里山等について、所有者と市が信託契約を結び、市が緑地を管理する制度のことです。市がサポートすることで、安定した緑地維持ができる措置を図っています。

★市民緑地活動の積極的支援 【重点施策】

☺ 指標 7：緑のトラストへの寄付件数

年度	寄付件数(件)
2009	32
2010	85
2011	248
2012	592
2013	281
2014	279
2015	85
累計	1,602

目標値：累計 3,500 件
(平成 27 年度)

ひの緑のトラストとは

貴重な里山の保全を市民自らの力で支援するために 2009 年 12 月に設立されました。市内の市民団体が主体となって、市の公有地化を進めるための取得費として募金活動を実施しています。

2015年度は85件の寄付があり累計では1,602件となりました。累計での目標を達成することはできませんでしたが、着実に緑のトラストの活動への理解が進んでいます。今後も継続的な広報活動に努めていきます。なお、2011年度以降は街頭募金の件数も計上されています。

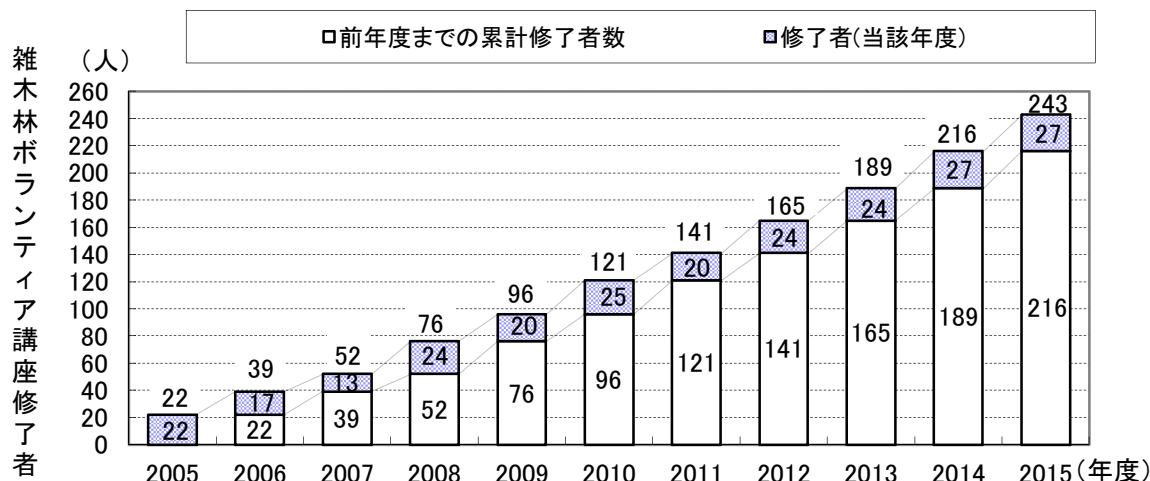
(2) 里山文化の継承を兼ねた管理体制の構築

★ボランティアによる里山の管理と活用【重点施策】



指標 8：雑木林ボランティア講座修了者数

年度目標値： 累計 243 名



雑木林ボランティア講座は、2005 年度に開始されました。2015 年度の修了者は昨年と同数の 27 人となり、累計 243 人に達しました。年度目標値を達成することができたのと同時に、受講者数に対する修了者の割合は 8 割に達し、修了者は順調に増加しています。

2-2 農地の保全と活用

(1) 農のある風景の保全

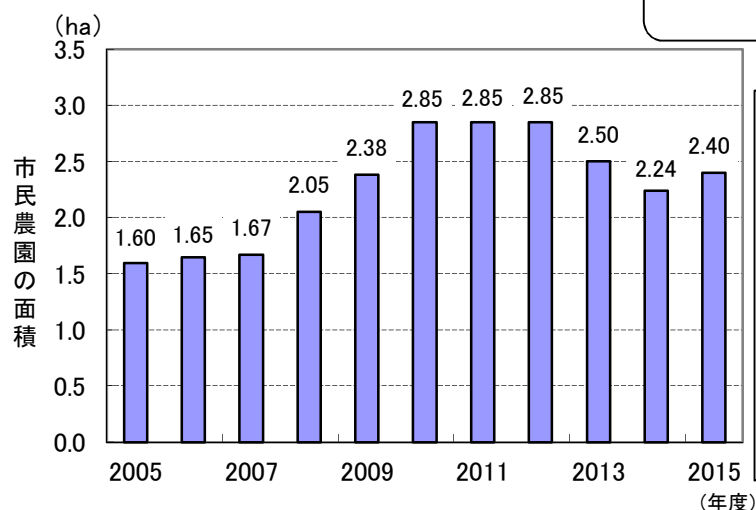
★市民農園等の拡充【重点施策】



指標 9：市民農園の面積

年度目標値:市 民 農 園 の 数:17 農園

農業体験農園の数: 3 農園



2015 年度 市民農園：13 農園

市民農園が農地保全になっている理由

日野市の市民農園では、宅地化農地（生産緑地ではない）を農家から借用しています。様々な理由で、自分で耕作することが困難な農地を市民農園として活用することで、農家の負担軽減・農地の保全・市民が土に親しむ場の提供を行なっています。

なお、市民農園に借用する農地は、固定資産税が免除されます。

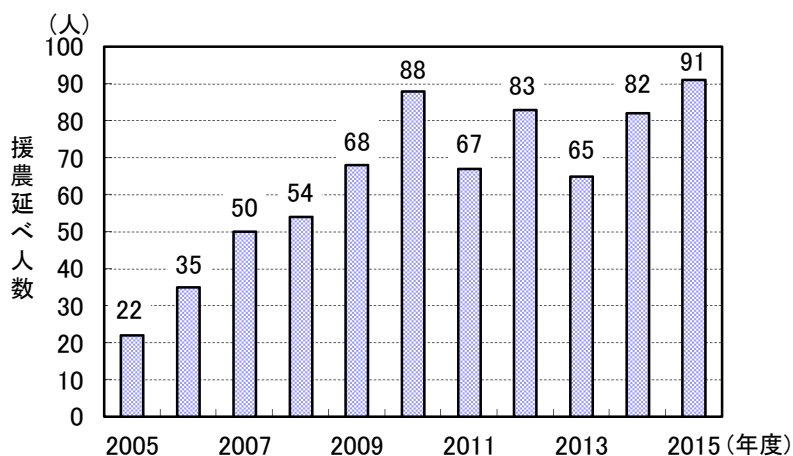
市民農園の面積は、市が開設した市民農園の面積と農業体験農園（3 園）の合計です。面積の内訳は、市民農園 11 園 18,499 m²、農業体験農園 3 園 5,518 m²（岸野農園 1,080 m²、石坂ファームハウス 1,616 m²、コバサン農園 2,822 m²）です。市では民営による市民農園の支援を進めており、民営による市民農園は 2 園開設されていますので、市民農園の数は 13 農園となりました。

※市民農園の数は、日野市直営（11 農園）と民営（2 農園）をあわせて合計 13 農園となりました。

3. 環境の状況と取組状況の評価

援農ボランティア制度の拡充

😊 指標 10：援農人数



(2) 地産地消による生産流通システムの確立

★地元野菜に触れる機会の充実【重点施策】

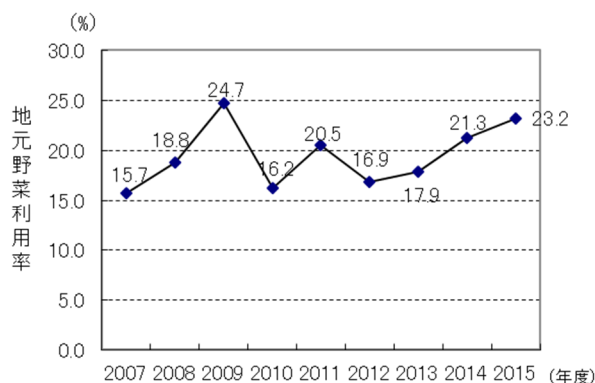
😊 指標 11：2015 年度に実施した「市」の開催日数

年度目標値:共同直売所:4箇所
定期即売会:3箇所
イベント会場での即売実施

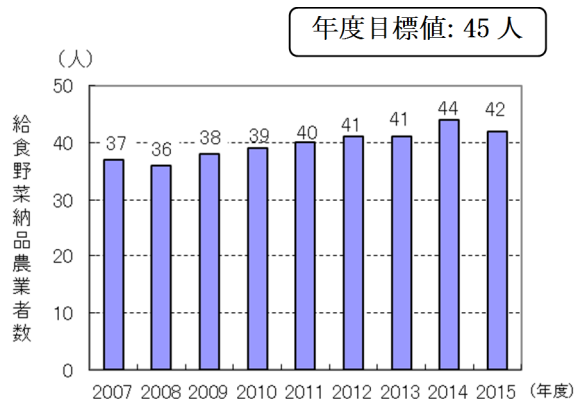
「市」の開催場所(2015 年度)	区分	開催時期	開催日数
日野農産物直売所	共同直売所	通年、月～土曜	304
マルシェひらやま(平山農産物直売所)	共同直売所	通年、月～土曜	304
JA 七生地区農産物直売所	共同直売所	通年、月～土曜	304
日野市立七ッ塚ファーマーズセンター	共同直売所	通年、月～日曜	357
ひののやっちゃ場	共同直売所	通年、月～土曜	304
日野駅東側広場	定期即売会	通年、火・木・土曜	140
多摩平第七公園	定期即売会	通年、火・木・土曜	140
多摩平の森 ユリの木集会所	定期即売会	通年、月～土曜	140
日野市役所(NPO 法人めぐみ)	定期即売会	月 2 回、第 2 木曜・第 4 木曜	24
春の野菜苗即売会(1 ヲ所)	定期即売会	4 月下旬	1
ひのよさこい祭	イベント即売	7 月 26 日(日)	1
産業まつり	イベント即売	11 月 14 日(土)・15 日(日)	2
暮れの野菜即売会	定期即売会	12 月下旬	5
都市農業シンポジウム	イベント即売	1 月 16 日(土)	1
合計			2,027

「市」の開催数は2027回で、2013年度以降同様の開催数を維持しています。

☺ 指標12：学校給食における地元野菜等利用率



☺ 指標13：給食野菜納品農業者数



※学校給食における地元野菜等利用率は、学校給食に使用する野菜等のうちの金額ベースの、地元野菜等の使用比率。

学校給食における 2015 年度の地元野菜等利用率は、前年度の 21.3%と比較して 1.9 ポイント増加して 23.2%となりました。

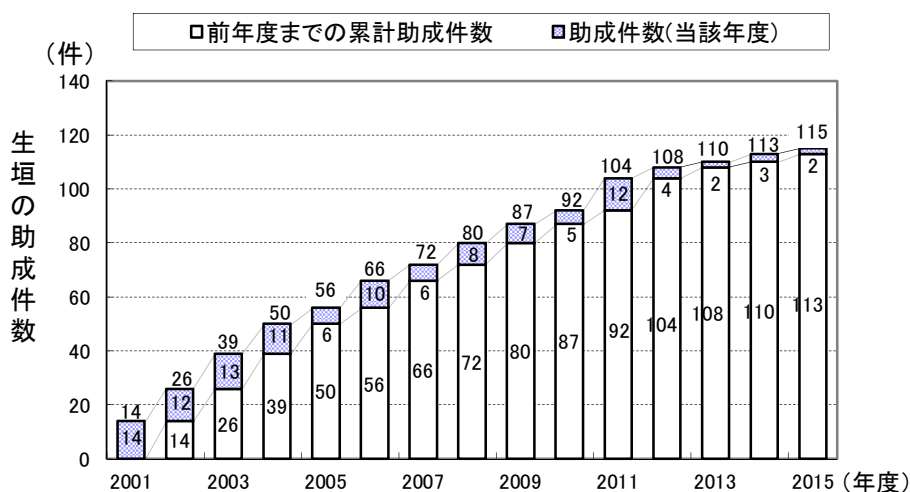
2015 年度の給食野菜納品農業者数は、前年度より 2 人減少し 42 人でした。

2-3 まちなかのみどりの創出・保全

(1) 民有地等の緑化

生け垣緑化の促進

◇ 指標 14：生垣の助成件数



日野市では、住宅地を安全、快適で緑豊かな生活環境にする目的で、生垣設置とブロック塀撤去に、それぞれ 1m あたり 5,000 円と 3,000 円の費用を補助しています。2012 年度から補助予算を大幅に削減したため助成件数は減っており、2015 年度は 2 件でした。

3.<市民コメント>

「みどり」の多さにひかれて日野に住んでずいぶんと経ちますが、年々周囲の木立や田んぼ、ナシ園、草地が消えて宅地や道路となり、指標1の「緑の構成比、緑被率」が示すように、日野市の「みどり」がまず絶対量として減少していつていることを否が応でも実感します。

それでも日野市では、急速に都市化が進む中、他の市町村では既にかなり失われてしまっている「みどり」がまだ市全域の31.7%（2012年）残っていることが示されています。それを都区と比べてまだ3割も残っているとみるか、もっと緑豊かな地域と比較してもう3割しかないとみるかは人それぞれかもしれません。しかし少なくとも「みどりの原風景をつなぐまち」として多くの人がイメージする日野市にとって、この残された「みどり」をまちの良さ、ブランド、そして価値として有効に活かしていくべきではないでしょうか。

既に「みどり」が失われてしまったまちではそうしたくてもできないわけで、他の地域がうらやむまだ残る「みどり」をこれ以上減らさず、まちの誇りとしてどのように守り、日野を「原風景をつなぐまち」にしていけばよいのか。待ったなしの対応が迫られています。

「みどり」といっても、人によってさまざまな捉え方があります。そのイメージを共有し合い、私たち市民がこの目標に向けて何をしていくべきか、すり合わせをしようとすれば、もちろん実際に現地に足を運び、自分たちの目でみて考えることが一番重要なのですが、日野の「みどり」の現況や取り組みを表す指標や情報も、私たちにとって大切な足がかりになると思います。

その観点から改めて指標を見直してみると、やはり日野の「みどり」の現況をその面積や緑被率など、単に量や割合だけで示すのでは不十分なのだと思います。これからも「みどり」の量の減少はやむを得ないのであれば、もっとその内容、たとえばどのようなみどりなのか、構成する植物の種類、空間を占める木々や草本の階層の豊かさ、他のみどりや水辺とのつながりの程度などをもとに定性的にランク付けしてみて、それぞれのランクの「みどり」がどのように増減したかをみていくなど、多少手間はかかったとしても「みどり」の質がイメージできる情報が必要になってくるのではないのでしょうか。

もちろん、量より質という短絡的な発想になってしまっは元も子もありませんが、「みどり」の質に対する情報は、人によってさまざまに異なる「みどり」のイメージや「原風景」のイメージに対して、ただ多数決的に過去のある時代の「原風景」としての「みどり」に戻すといった議論にならないようにするために、そして議論を進める中で、今後私たちが新たな「原風景」を創出していくこともできるようにするために、必要となるものではないのでしょうか。

「市民一人当たり都市公園面積」についても同様で、単に数合わせで一人当たりの公園面積が増えればいいわけではなく、市の人口動態や開発状況なども踏まえて、どういった公園をどのような場所で利用できるようになるのか、他の資料と合わせてみていかないと議論が進まないと思います。

「民有緑地の公有地化等の推進」についても、「市が寄付や買収等で取得した樹林地面積」が累計値で示されていますが、やはり取得面積で見れば「右肩上がり」で順調にもみえてしまいます。そういった数値化だけではなく、市内の雑木林の分布と所有者と管理者の区分、つまり市内の雑木林に対し、どの程度市の所有や管理が進んでいるかが時系列的に分かるとよいと思います。

「ボランティアによる里山の管理と活用」についても、単に「雑木林ボランティア講座修了者数」とその累積数だけでなく、次のリーダーや担い手の不足が課題であることが指摘されていることもあり、卒業生で実際のボランティアに参加している人の割合などを示せばよいと思います。

水分野

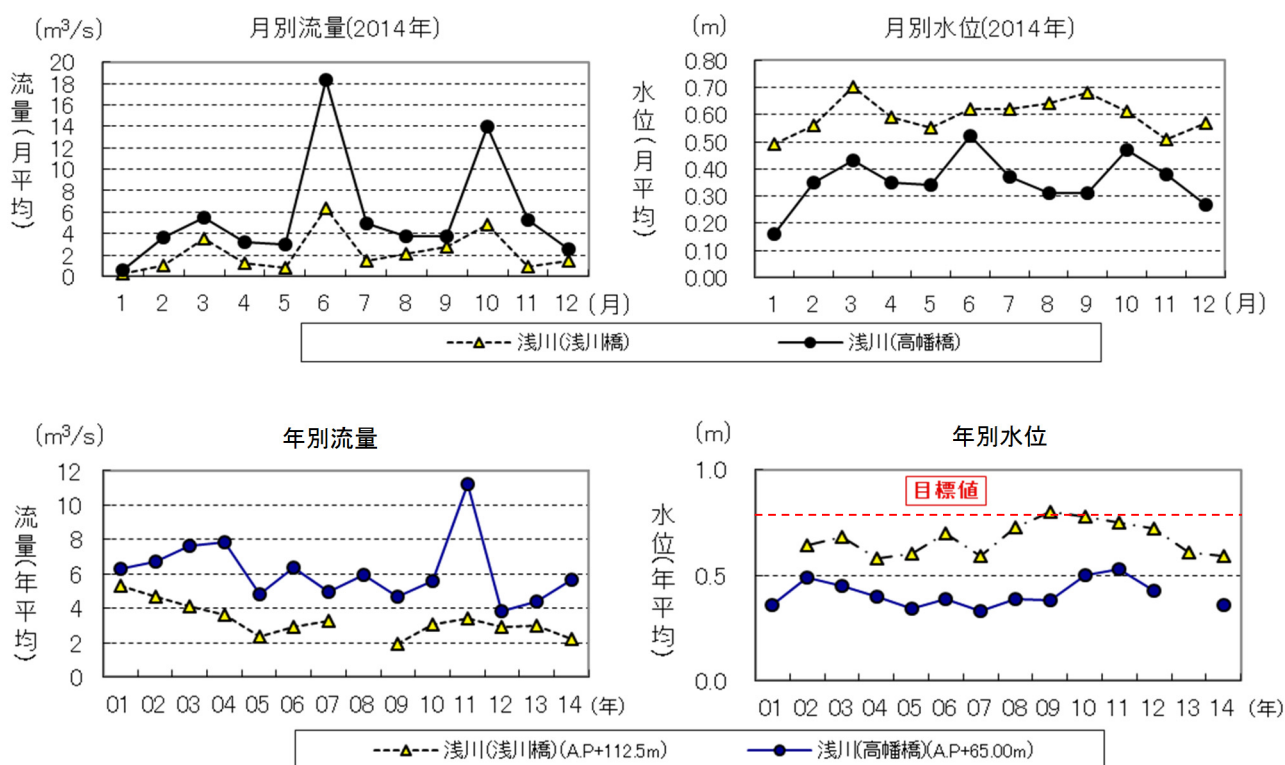
< 目 標 > 水文化を伝えるまち

1. <環境の状況>

1.-1 浅川の水位

目標値: 年平均 0.8m
(平成 32 年度)

指標 15 : 浅川の平均河川水量・水位



浅川橋の2014年の月平均流量は、6月に最大値(6.39 m^3/s)、1月に最小値(0.27 m^3/s)、年平均流量は2.22 m^3/s となりました。6月初旬には関東の南海上に前線が停滞し降水量が多くなりました(6月の降水量: 473.5 mm: 気象庁: 八王子観測地点)。また10月の初旬から中旬にかけ台風18号、19号の相次ぐ接近・通過の影響で降水量が多く(10月: 376 mm)、そのため浅川の流量が大きくなったと考えられます。月平均水位は、0.49m(1月)から0.70m(3月)で変動し、年平均は0.59mとなりました。

高幡橋の2014年の月平均流量は、6月に最大値(18.3 m^3/s)、1月に最小値(0.58 m^3/s)が観測され、年平均流量は5.69 m^3/s となりました。月平均水位は0.16m(1月)から0.52m(6月)で変動し、年平均は0.36mとなりました。

3. 環境の状況と取組状況の評価

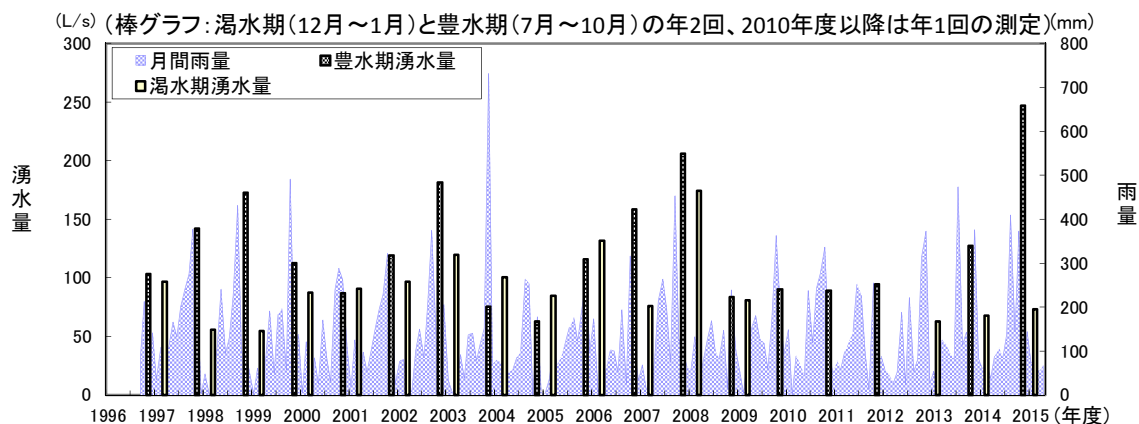
1-2 湧水確認地点数・湧水量

目標値:【地点数】179箇所

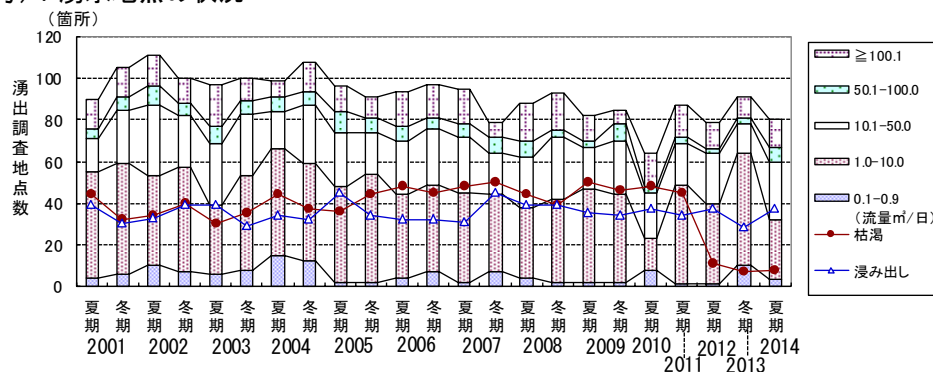
【湧水量】10,000t/日

(平成32年度)

◇ 指標 16：月別雨量と調査地点の総湧水量



(参考)：湧水地点の状況



日野市内の総湧水量の調査は、2015 年度には冬期に 30 地点のみで実施されました。2014 年度には冬期に 127 地点で実施され、市内全域の総湧水量を把握することができました (127.3L/s; 10,999t/日)。しかし 2015 年度の調査地点数は前年度に比べ 1/4 以下に減少し、市内全域の総湧水を把握し、解析することは困難となりました。30 地点での湧水量の合計は 5.96L/s(515t/日)となりました。2015 年度冬期には、30 地点の調査とは別途、定期調査として主要な湧水 8 か所（黒川清流公園、中央図書館下など）の調査が行われ、8 か所の合計湧水量は 26.4L/s(2281t/日)となりました。両調査を合わせた 38 か所の湧水量の合計は 32.4L/s(2796t/日)となりました。この量を従来までの全域で実施された結果と比較することは困難です。

2015年度の降水量(気象庁八王子観測地点)は1733mmで前年度の降水量1745mmとほぼ同じです。

湧水地域の環境を保全するために、また環境基本計画の目標値を達成するためにも、総湧水量を把握できるような調査は必要なことです。

1.-3 用水の水質

☺ 指標 17：各用水路の水質分析結果

目標値:生活環境の保全に
関する環境基準 B 類型に適合
(B 類型環境基準値 BOD 3mg/L 以下)
(平成 32 年度)

市内の河川・用水（調査対象）はすべて「B 類型」に分類され、生物化学的酸素要求量 (BOD) の環境基準値は 3mg/L です。2015 年度は、2014 年度の結果よりやや高い値となりましたが、すべての地点で 3mg/L 以下となりました。

調査地点名	BOD (mg/L)	
	2014年度	2015年度
多摩川(多摩川総合グランド付近)	0.8	2.4
浅川(クリーンセンター付近)	<0.5	1.6
日野用水下堰(東光寺市営住宅前)	0.7	1.0
日野用水上堰(よそう森堀)	0.7	0.9
豊田用水(取水口)	0.9	1.1
豊田用水(堀之内緑道)	0.8	1.0
黒川水路(黒川清流公園)	0.7	1.3
上田用水(延命寺・日枝神社付近)	0.8	1.5
新井用水(新井用水親水路)	0.8	1.4
平山用水(平山東公園・ふれあい水辺)	0.6	0.9
落川用水(落川公園)	0.6	1.3
向島用水(向島用水親水路)	0.6	1.2
谷地川(多摩川合流点前)	0.8	1.0
根川(クリーンセンター付近)	3.5	1.7
程久保川(程久保川ワンド)	0.7	1.8

多摩川・浅川は年1回(8月)の測定値
その他の用水路等は年4回(5月、8月、11月、2月)の平均値

1.-4 河川・用水・湧水の水生生物

(参考) 水生生物による水質の生物学的判定

目標値:底生生物:90 種
魚類:15 種
付着藻類:42 種
(平成 32 年度)

水生生物調査の概要

調査期間

2015 年 8 月 3 日～4 日

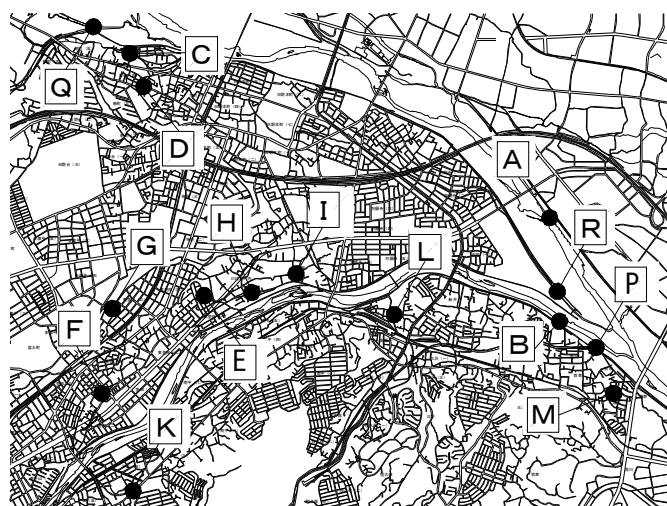
調査地点

河川(多摩川、浅川)、用水路等、流入河川を含む 15 地点(右図 A～R 参照)

調査内容

底生生物、魚類、付着藻類(河川のみ)、
水草(用水路・流入河川のみ)

その他に BOD、DO(溶存酸素)、pH



3. 環境の状況と取組状況の評価

(1) 確認された種数

2015年度の調査は2014年度と同様に8月に実施されました。確認された底生生物の種数は河川で45種（多摩川：33種、浅川：32種）、用水路で97種、流入河川で51種となりました。2014年度に比べ河川および用水路でやや減少しました。魚類の種数は、河川で11種、用水路で18種、流入河川で12種となりました。確認された付着藻類の種数は河川で計33種であり、多摩川で26種、浅川で24種となり、2014年度に比べ増加しました。その中でケイ藻類が最も多く確認されました。確認された水草の種数は用水路で17種、流入河川で10種となりました。

本調査で確認された重要種は、底生生物調査では3種、魚類調査では9種、水草調査では4種の合計16種となりました。

水生生物の確認種数

調査年度 調査地点	2014年度					2015年度				
	底生生物	魚類	付着藻類	水草		底生生物	魚類	付着藻類	水草	
多摩川	43	51	10	–	33	45	11	26	33	–
浅川	39		18	–	32		18	24		–
用水路(10地点)	105	19	–	22	97	18				17
流入河川(3地点)	47	15	–	20	51	12				10

魚類の重要種についてみると、「環境省レッドリスト2007年」で絶滅危惧ⅠBに指定されているムサシノジュズカケハゼが程久保川ワンドで確認されました。その他に「東京都レッドリスト2010年」に記載されているアブラハヤ、カマツカ、シマドジョウ、ニゴイなどが多摩川で3種、用水路で7種、流入河川で4種、合計9種が確認されました。

水草の重要種として用水路でセキショウモ、ササバモ、マコモ、ミクリの4種が確認されましたが、流入河川では確認されませんでした。底生生物調査ではマメシジミ科のマメシジミ属の一種が用水路6地点、流入河川2地点で確認されました。

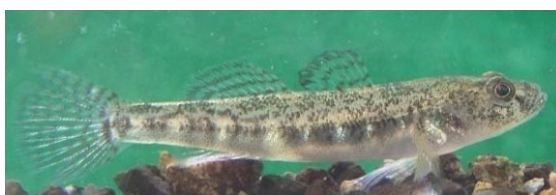
確認された外来種は、底生生物調査で7種、魚類調査で3種、水草調査で5種の合計15種でした。底生生物調査および魚類調査では、特定外来生物に指定されているオオクチバスが浅川および日野用水下堰で、ブルーギルおよびコクチバスが浅川でそれぞれ確認されました。その他に、アメリカザリガニが浅川、用水路9地点、流入河川2地点で、アメリカツノウズムシが多摩川、浅川、用水路8地点、流入河川2地点で、カワリヌマエビ属の一種が全15地点でそれぞれ確認されました。



アブラハヤ



カマツカ



ジュズカケハゼ



シマドジョウ

水草では特定外来種であるオオカワデシヤが流入河川 1 地点およびオオフサモが用水路 4 地点、流入河川 2 地点で確認されました。これらは近年、多摩川水系で分布を広げており、引き続き注視することが必要です。その他に用水路でオオカナダモが 4 地点、オランダガラシが 1 地点、コカナダモが 1 地点、それぞれ確認されました。

(2) 水生生物による水質判定

水生生物による水質判定は長期間の水質変動の平均的な様相を把握することができますが、生物には環境に対する適応性があるため、指標生物と水質の関係は絶対的なものではありません。

・底生生物による水質判定

多くの地点で「きれいな水域」や「きれいな水域～わりあいきれいな水域」と判定されましたが、用水路 4 地点、流入河川 1 地点で「汚れている水域」と判定されました。

・魚類による水質判定

河川では多摩川・浅川ともに「きれいな水域」と判定されました。用水路ではすべての地点で「きれいな水域」～「わりあいきれいな水域」と判定されました。流入河川では 2 地点で「きれいな水域」、1 地点で「汚れている水域」と判定されました。

水生生物による水質判定

分類	調査地点		2014年度			2015年度		
			底生生物	魚類	BOD(mg/l)	底生生物	魚類	BOD(mg/l)
河川	A	多摩川（日野市多摩川総合グランド付近）	A～B	A	0.8	A～B	A	2.4
	B	浅川（クリーンセンター付近）	A～B	A	<0.5	A～B	A	1.6
用水路等	用水路							
	C	日野用水下堰（東光寺市宮住宅前水路）	A～B	B	0.7	A～B	B	1.4
	D	日野用水上堰（よそう森堀）	A～B	B	0.7	A～B	B	1.2
	F	豊田用水（取付口）	B～C	A	0.9	A～B	A	1.5
	E	豊田用水（堀之内縁道）	B～C	B	0.8	B～C	B	1.2
	G	黒川水路（黒川清流公園）	A～B	A	0.7	A～B	A	2.1
	H	上田用水（延命寺・日枝神社付近）	A～B	—	0.8	C～D	B	2.2
	I	新井用水（新井用水水親水路）	A～B	A	0.8	C	A	2.1
	K	平山用水（平山東公園・ふれあい水辺）	A～B	A	0.6	B～C	B	1.4
	M	落川用水（落川公園）	C	A	0.6	C	B	2.3
	L	向島用水（向島用水親水路）	B	A	0.6	C	A	2.1
	流入河川							
	Q	谷地川（多摩川合流点前）	A～B	A	0.8	B～C	A	1.3
	R	根川（クリーンセンター付近）	B～C	—	3.5	B～C	C	2.8
	P	程久保川（程久保川ワンド）	B～C	A	0.7	C	A	2.7

水質階級:その生物がよく出現する水域 A=きれいな水域(O_s) B=わりあいきれいな水域(β_m)

C=汚れている水域(α_m) D=とても汚れている水域(P_s)

(3) 理化学的水質と生物学的水質判定結果の比較

調査地点の BOD 値は、1.2～2.8mg/L であり、全地点で環境基準値（B 類型）を達成していました。BOD による理化学的水質判定結果と生物学的水質判定結果を比較すると、両者の結果は概ね一致しますが、上田用水、新井用水、落合用水、向島用水では底生生物による判定結果と差が見られました。これらの地点では水の流れが遅く、きれいな水域の指標種である水生昆虫類の生息に適していない環境と考えられます。

3. 環境の状況と取組状況の評価

2.<市の取組状況>

目標	施策の方向	施策		具体的な取組	重点	実施状況
水文化を伝えるまち	健全な水循環の構築	水循環に寄与する方策の検討		市内の水収支の実態や、重要箇所における降水量と湧水量の関係、湧水周辺の生態系などを調査する。調査結果をもとに、地下水かん養、水辺の環境保全から水利用、治水までを含めた水循環に寄与する方策を検討する。	★	湧水量及び地下水位計測調査を継続実施した。 谷仲山に三角堰を設置した。 (緑と清流課)
		用水の保全・活用	(仮)用水路改修・補修計画の策定	用水カルテプロジェクトによる用水路実態調査等をもとに、用水路の役割や周辺の状況に合わせた保全・改修・補修・開渠化計画を作成する。	★	用水カルテ策定会議を定期的に開催し、協議を行い完結した。 東京都補助金も取り入れた五ヶ年計画の用水カルテを作成した。 (緑と清流課)
		湧水・地下水の保全	地下水揚水量の把握	法令に基づく揚水量の報告を徹底し、急激な揚水量の増加による地下水位の低下や湧水の枯渇、地盤沈下等が起こらないよう監視する。		揚水量の報告を受け、急激な揚水量の増加がないことを確認した。 (環境保全課)
	雨水浸透・貯留利用の推進	雨水浸透・貯留施設の設置促進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進	家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置を呼びかけるとともに、補助金の交付を推進する。また、公共施設でも積極的に雨水浸透・貯留利用を推進する。		新築・増改築の雨水処理方法の相談時に丁寧に水循環や雨水涵養の大切さ、雨水浸透指導を行なった。 (緑と清流課)
	水質の保全	水質の実態把握	水質調査・生物調査の実施	用水、河川、湧水、地下水の水質調査や、用水、河川の生物調査を実施し、水質や生態系の状態を継続的に把握する。		身近な水辺の一斉調査を実施した。 日野用水にて、ハグロトンボが生息可能な環境づくりに取り組んだ。 (緑と清流課)
		水質汚濁の防止	生活排水及び污水处理の施設整備	污水管の整備や下水道接続の促進(戸別指導、工事費用融資あっせん)、下流部の汚濁状況の情報提供などを実施する。		供用開始後の公共下水道未切替え世帯に対し、水洗化を要請した結果 49 件の切替えが行われた。これに伴う利子補給の融資あっせん者は 1 名。 (下水道課)
	協働による水辺の保全・活用	流域連携による活動の推進		流域連携による水源かん養の活動や、水辺づくりなどを通じた啓発活動を推進する。	★	八王子市との連携により、小学生を対象とした多摩川の干潟見学会(見学のみでなく体験も)を実施した。 (緑と清流課)
		水辺に親しむ活動の推進		用水やビオトープをはじめとする水辺に親しめる場や機会を創出するとともに、水辺の楽しさや大切さなどを伝えることのできる指導者の確保に努める。	★	程久保・七生中のワンドを維持し、そこで活動する人たちと協同作業を行なった。 (緑と清流課)
		水辺の保全・管理活動の推進		用水守制度を充実するとともに、地域や学校、用水守等が用水組合や農業者の用水管理活動を支援するための新たな活動を進める。また、清掃や草刈りなど、河川敷の美化・保全活動を行っている団体や個人への支援を行う。		用水守の皆様のご協力により事故なく、継続した清掃活動が実施された。 (緑と清流課)

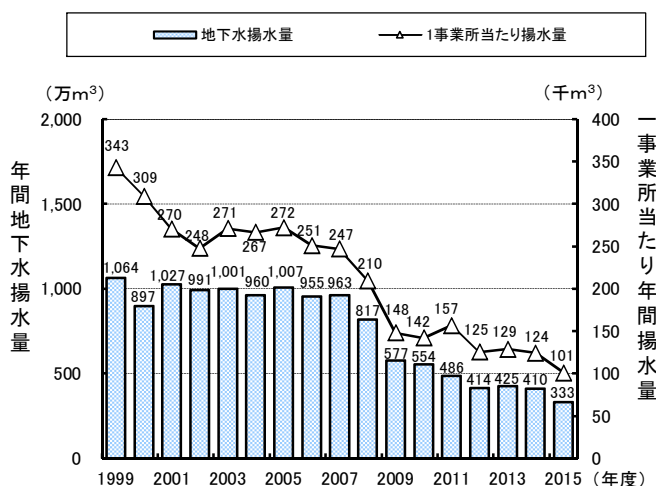
2-1 健全な水循環の構築

(1) 湧水・地下水の保全

地下水揚水量の把握



指標 18：地下水揚水量



揚水量とは

ここでいう揚水量とは、出力が 300 ワットを超えるモーター等で汲み上げた地下水の量のことです。

過度に地下水を汲み上げることによる空洞化が、地盤沈下の原因の一つとされています。

地下水汲み上げによる地盤沈下は、戦前から観測されており、戦争により多くの工場などが休業したため、一時的に下げ止まりはみせたものの、戦後は更に被害が大きくなりました。

このため 1960 年代より工業用水法やビル用法、温泉法、環境確保条例等により規制され現在に至っています。

地下水の揚水量計測は、過度の汲み上げによる地盤沈下が起きないように、規制値を超えて汲み上げていないか監視することが目的であり、監視することで地盤沈下の進行を止めることにつながっています。

年間地下水揚水量 333 万 m^3 、一事業者当たり年間揚水量 10.1 万 m^3 と昨年度より減少しました。

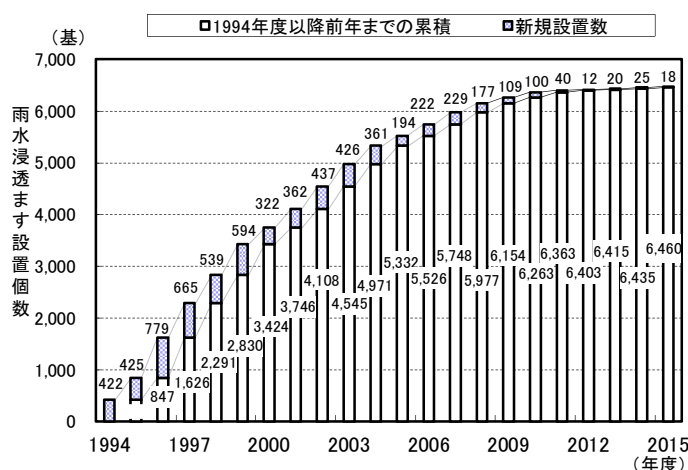
2-2 雨水浸透・貯留利用の推進

(1) 雨水浸透・貯留施設の設置促進

家庭や事業所への雨水浸透・貯留施設の設置促進



指標 19：雨水浸透ます設置個数



雨水浸透ますとは

雨水浸透ますは、屋根などに降った雨水を地下に浸透させるための施設です。雨水を地下に浸透させることで、雨水の分散化による河川の洪水防止等の治水対策への貢献、かん養域拡大による緑の保全と育成、湧水の回復による河川の清流復活、地下水の還元による地盤沈下防止などが期待できます。

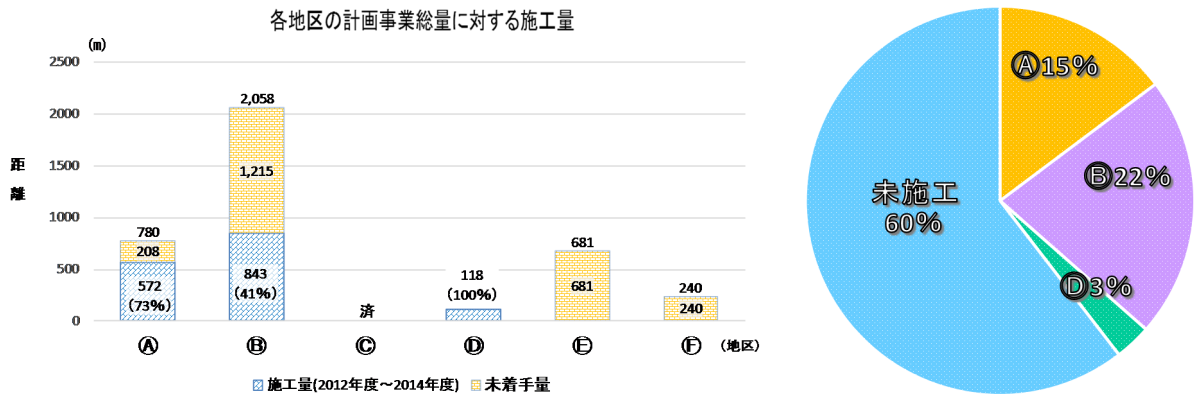
2015 年度の新規設置数は前年度より 7 基減って、18 基となりました。

3. 環境の状況と取組状況の評価

(参考) 第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況

2015 年度は、バリアフリー工事、透水性舗装工事共に実施できませんでした。

計画事業総量に対する各地区の施工量



透水性舗装とは、舗装体を通して雨水を直接路床へ浸透させ、地中に還元する機能を持つ舗装です。
本項では、第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画により設定された計画事業量と、実際の整備状況を示しています。

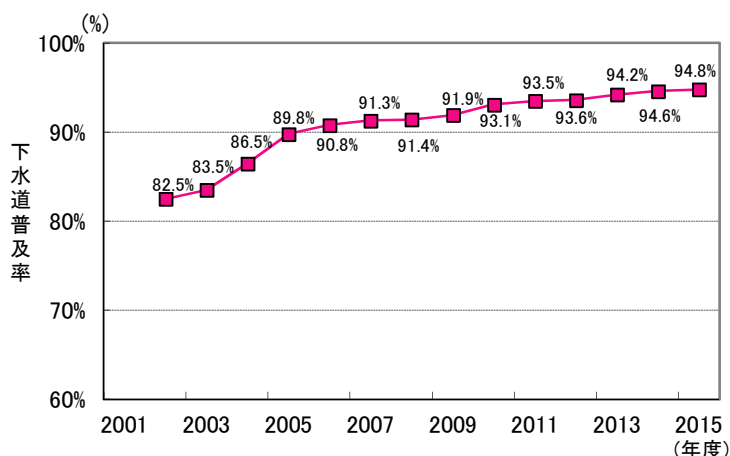
2016. 3. 31 時点				
グラフ凡例: 地区名 (施工量/地区計画事業総量)	路線内訳	計画事業量	施工量	期間、または実施年度
A : 日野駅周辺 (572/780)	幹線市道 I-20 号線	100m	0m	2012 年度～2016 年度
	幹線市道 I-13 号線	100m	100m	2014 年度
	幹線市道 I-14 号線	—	施工済	整備済
	幹線市道 I-9 号線	108m	0m	2013 年度～2014 年度
	幹線市道 I-10 号線	—	0m	未定
	市道 B33 号線	—	0m	未定
	都道 169 号線	472m	472m	2013 年度
	都道 169 号線	—	0m	未定
B : 豊田駅周辺 (843/2, 058)	都道 41 号稲城日野線 (川崎街道)	—	施工済	整備済
	幹線市道 II - 44 号線	173m	173m	2014 年度
	市道 E103 号線	295m	295m	2014 年度
	幹線市道 I - 12 号線	295m	295m	2014 年度
	幹線市道 I - 12 号線	80m	80m	2014 年度
	市管理道路	—	施工済	整備済
	駅前ロータリー (区画整理事業で整備予定)	130m	0m	2014 年度～2017 年度
	日野都市計画道路 3・4・15 号線	310m	0m	2016 年度～2018 年度
	日野都市計画道路 3・4・15 号線	185m	0m	2016 年度～2018 年度
	日野都市計画道路 3・4・19 号線	260m	0m	2014 年度～2017 年度
C : 高幡不動駅周辺 (0/0)	日野都市計画道路 3・4・15 号線	180m	0m	2018 年度～2020 年度
	日野都市計画道路 3・4・19 号線	150m	0m	2014 年度～2017 年度
D : 百草園駅周辺 (118/118)	幹線市道 II - 8 号線	—	施工済	整備済
	河川管理用通路(両側)	118m	118m	2012 年度
	幹線市道 II - 62 号線	—	0m	未定
E : 南平駅周辺 (0/681)	幹線市道 II - 5 号線	—	施工済	整備済
	都道 173 号線 (北野街道)	—	0m	未定～2020 年度
	都道 173 号線 (北野街道)	390m	0m	2012 年度～2020 年度
F : 平山城址公園駅周辺 (0/240)	都道 174 号線 (北野街道)	291m	0m	事業中～2016 年度
	都道 155 号線町田・平山・八王子線 (立体交差部～交差点接続部)	88m	0m	2013 年度～2016 年度
	都道 155 号線町田・平山・八王子線	152m	0m	2014 年度～2016 年度
総 量		3877m	1533m	

2-3 水質の保全

(1) 水質汚濁の防止

生活排水及び污水处理の施設整備

😊 指標 20：下水道普及率



近年の傾向として、公共下水道の未普及地域は、土地区画整理事業の街路未整備地域と重なります。

今後の下水道普及率は、土地区画整理事業の進展と連動して、増加するものとなります。

下水道普及率とは

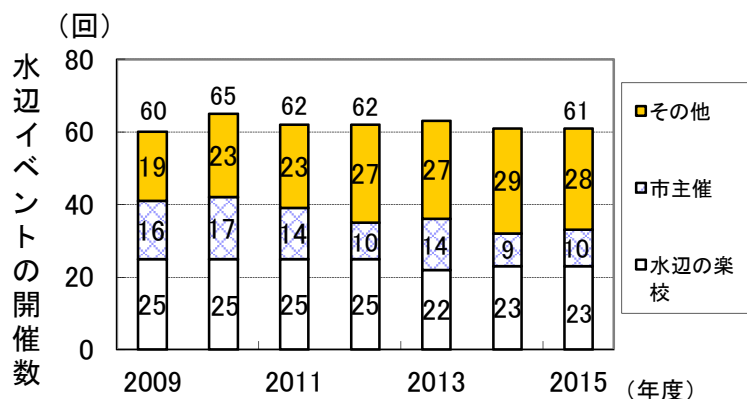
$$\text{下水道普及率} = \frac{\text{公共下水道使用可能人口}}{\text{行政人口}}$$

2-4 協働による水辺の保全・活用

(1) 水辺に親しむ活動の推進 【重点施策】

😊 指標 21：水辺イベントの開催数

年度目標：・水辺の楽校による水辺での活動実施校 2校
・水辺の環境教育・学習の実施回数 60回



浅川潤徳と滝合両水辺の楽校の活動をはじめ、水辺のイベントに関しては、例年通りの規模で行うことができました。

3. 環境の状況と取組状況の評価

(参考) : 「ビオトープづくり」の取組件数

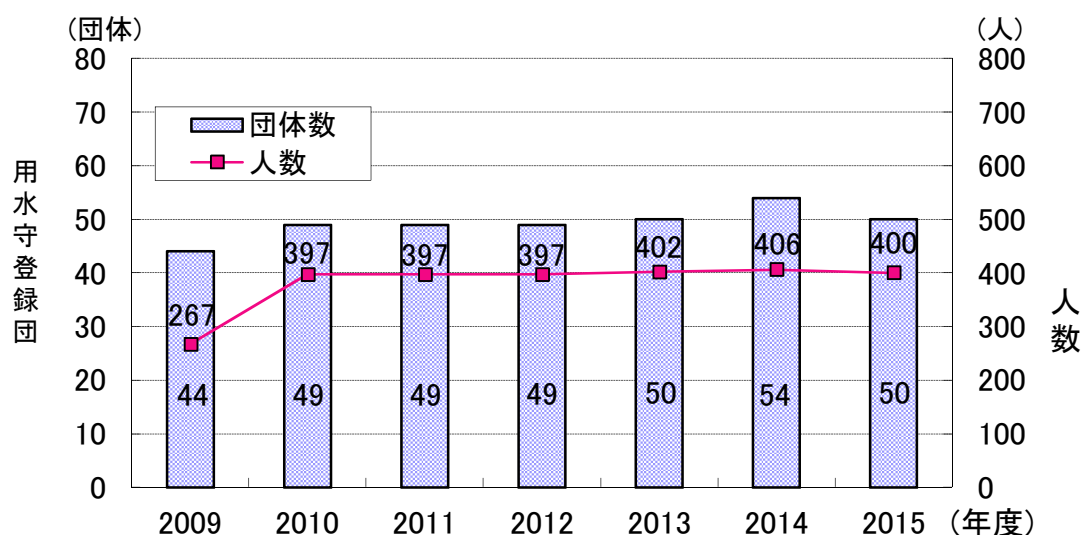
年度	累積件数	取組開始学校・団体
2001	2	七生中、日野三小
2002	2	
2003	4	仲田小、日野一小
2004	7	滝合ワンド、日野二小、南平小
2005	8	日野六小
2006	9	多摩平保育園
2007	10	平山小学校新校舎に設置
2008	11	第四小学校で設置工事実施中(2007 年度より継続)
2009	11	
2010	11	
2011	11	多摩平保育園移転に伴いビオトープも移設
2012	11	
2013	11	
2014	11	
2015	11	

2012 年度以降、新規の取り組みはありませんでした。

(2) 水辺の保全・管理活動の推進



指標 22 : 「用水守」の登録団体数



用水守(ようすいもり)とは

日野市では、恵まれた水環境を次世代に伝えるため、用水路・湧水地等での清掃、草刈、緑化等のボランティア活動をしていただける方を「用水守」として登録いただき、その活動を支援しています。

2009 年度より台帳等で活動実状等について精査を行った結果、記載の数値となりました。

3.<市民コメント>

実施状況のほとんどが 2014 年度と同じであり、このような中以下のような課題や問題を提起して担当課と取り組みましたが、第二次環境基本計画の中間検証が行われたにもかかわらず、課題・問題の共有もできず、環境基本計画推進会議水グループの持ち方も課題にせざるを得ませんでした。

1 水分野における課題と問題

① 水循環に寄与する方策の検討

- ・湧水量等調査の測定回数、方法が 20 年間続けられた結果をフォロー出来るのかの確認
- ・連続計測の導入

② 用水路の保全・活用（用水路改修・補修計画の策定）

- ・計画への行政方針を明確にする。

③ 水質の実施把握

- ・測定時期、回数の検討

④ 水辺の保全・管理活動の推進

- ・用水守制度の在り方の再検討とさらなる充実

⑤ 行政計画である環境基本計画の推進

- ・行政が組織的に責任をもって行う。

2 環境白書は日野市での環境状況、環境活動の現況の報告であると同時に、環境基本計画の推進のための、推進状況・課題・問題の報告であると思います。

環境基本計画推進主体である市は、取り組み状況を適切に報告すると同時に、課題・問題に対しても、正面から取り組んでほしいと思います。中間検証で今後の進め方も出されました。環境情報センターも積極的な取り組みを期待します。

3 環境情報センターが環境基本計画推進-PDCA サイクルでの「Check」、「Action」を確実に担ってもらい、環境基本計画推進会議との PDCA サイクル確立に協働してもらうことを望みます。

4 <市の取組状況> 実施状況については所掌課の報告となっていますが、環境基本計画推進会議各分野グループでチェックしており、その結果が実態と思われます。

実施状況は、従来環境情報センターによる市民ヒヤリングで把握してきており、第 2 次環境基本計画からは環境基本計画推進会議各分野グループでのチェックがそれとなっていました。それを活かすべきと思います。

ごみ分野

< 目 標 > ごみゼロのまち

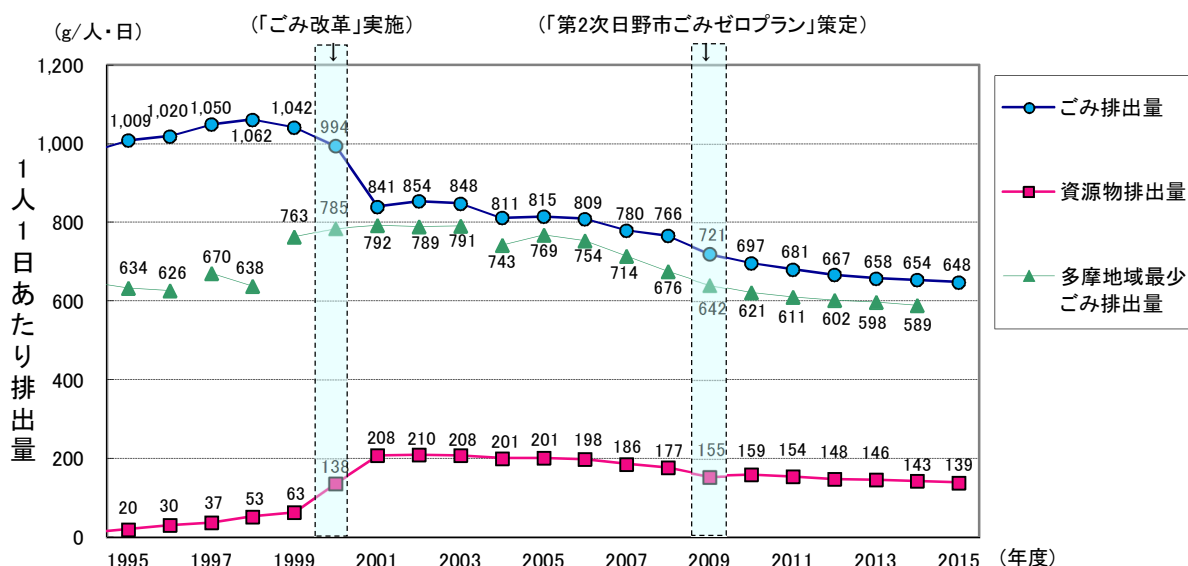
1. <環境の状況>

1.-1 1人1日当たりのごみ排出量

目標値: 600g
(平成 32 年度)



指標 23 : ごみ・資源排出原単位



- ① 1人1日当たりのごみ排出量は、総ごみ量÷各年10月1日現在人口÷年間日数で算出。
- ② 総ごみ量は国や市の統計に準じて、可燃・不燃・粗大・有害・資源物の収集と持込量の合計とした。
- ③ 資源物排出量は、上記の式の総ごみ量を資源物収集量(集団回収量は除く)に置き換えて算出した。
- ④ 多摩地域でのごみ排出最少自治体は次の通り。
1993～1998年 檜原村、1999～2001年 東久留米市、2002～2005年 清瀬市、2006年～2014年 小金井市。

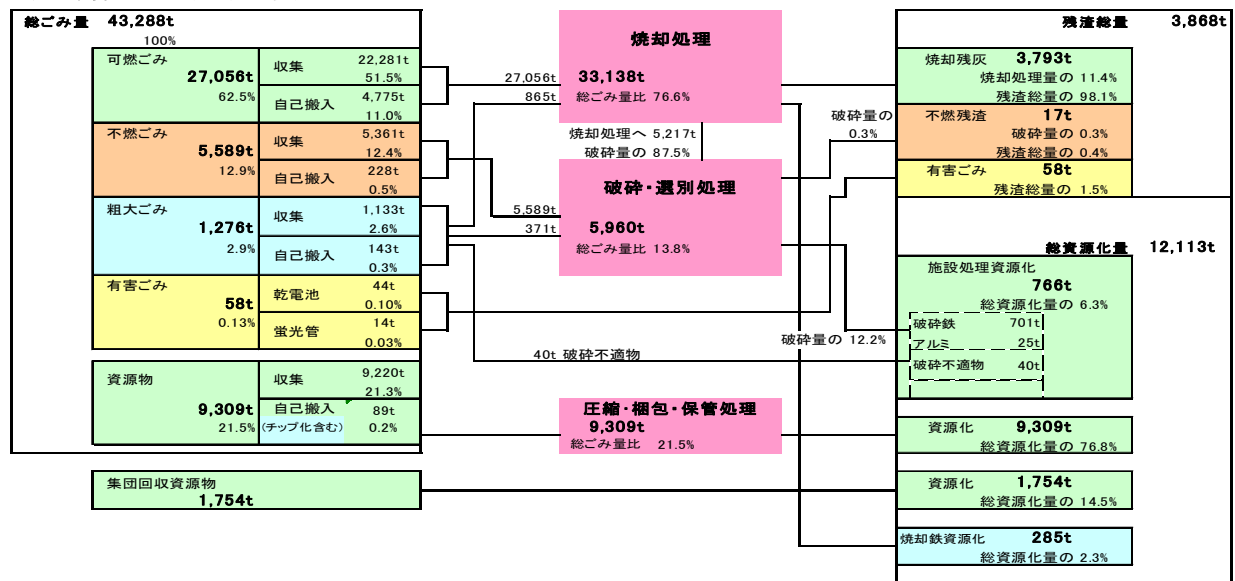
1人1日当たりのごみ排出量は前年度より減少し648gとなりました。また、1人1日当たりの資源物排出量が143gから4g減少し、139gとなりました。

ごみ量の減量については限界が近づいていますが、生ごみ・プラスチックごみの資源化等をすすめる減量を検討する第3次ごみゼロプランの策定を行います。

※2005年度以前は、集計方法が異なっていたため、過去掲載分とは値が異なる。

(参考)：ごみの行方

平成27年度のごみ量及び処理状況



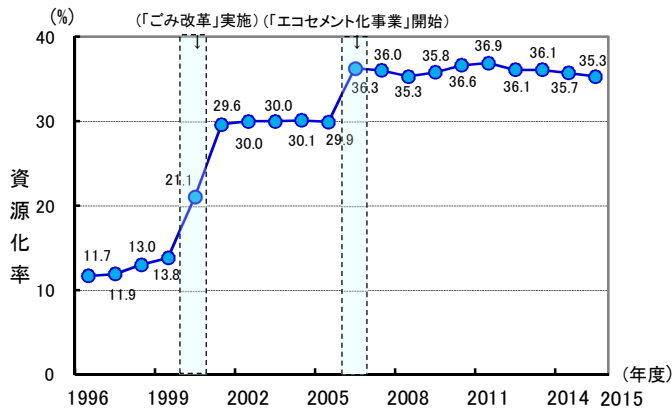
1.-2 資源化率



指標 24：資源化率

目標値: 40%

(平成 32 年度)



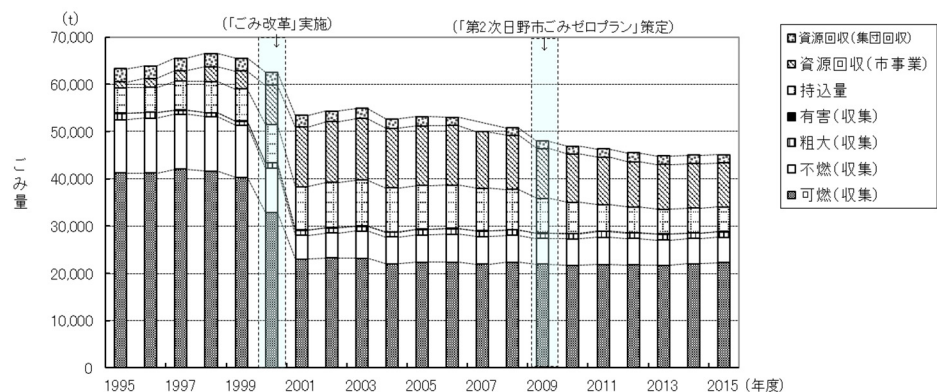
2015 年度の資源化率は前年度より 0.4 ポイント減少し、35.3%でした。2000 年 10 月のごみ改革及び2006 年 7 月より開始された焼却灰のエコセメント化事業等により資源化率は、13.8%だった第 1 次環境基本計画の策定時(1999 年)に比べ大幅に向上し、2006 年度以降は 36%前後で推移しています。

紙ごみの資源化を強化し、可燃ごみの減量と資源化率向上に向けた啓発に取り組んでいます。

$$\text{資源化率} = \frac{(\text{資源ごみ量} + \text{施設処理資源化量} + \text{エコセメント化量} + \text{その他資源化量} + \text{集団回収量})}{(\text{総ごみ量} + \text{集団回収量})}$$

*エコセメントについては、2006 年度データより計上しています。

(参考)：ごみ量内訳



3. 環境の状況と取組状況の評価

2. <市の取組状況>

目 標	施 策 の 方 向	施 策	具体的な取組	重 点	実施状況
「みゼロのまち」	ごみ排出量の低減	リフューズ (発生回避) の促進	レジ袋無料配布中止の拡大	★	一部スーパー等で実施しているレジ袋無料配布中止を市内全域に拡大するために、3者(市民、事業者、市)によるレジ袋無料配布中止に向けた共同会議を継続して進めていく。 (ごみゼロ推進課)
		リターン (回収ボックスのある店頭への返却)の促進	容器包装お返し大作戦の展開	★	容器包装の店頭回収を促進するため、回収を実施している販売店の情報提供、販売店への協力依頼等を実施する。 広報・ごみ情報誌「エコー」・ごみ分別カレンダーで定期的に情報を提供。 店頭回収品目拡大に向け、スーパー事業者に課題等のアンケート調査を実施。 (ごみゼロ推進課)
	リサイクルの推進	資源物回収の推進	分別ルールの徹底		プラスチック製容器包装や古紙類・繊維類、びん・缶類をごみとして排出しないよう、分別方法を周知・徹底する。それにより、不燃ごみの減量化も促進する。 ごみ情報誌「エコー」、ごみ分別カレンダー、市広報などを活用し、ごみの分別徹底についての啓発を実施。ごみ分別アプリを導入し、分別辞典や排出方法などが簡単に検索できるようにした。 (ごみゼロ推進課)
		生ごみリサイクルの推進	生ごみや剪定枝の地域内循環の拡大	★	地域内循環を進めていくためには、堆肥化する土地(施設)、回収に協力できる団体等、排出に協力できる地域が一体となって実施していかなければならない。市民とともに、拡大の検討を行なっているが、実施に至らず。 (ごみゼロ推進課)
			生ごみの家庭内循環(自家処理)の普及促進	★	ダンボールコンポストの普及促進のため、ダンボールコンポスト講習会を9回実施した。 参加者数 94 名、講習会での申込者数 ダンボールコンポスト 48 基、竹バウダー 11 基 生ごみリサイクルステッカー配布 152 名 (ごみゼロ推進課)
	市民・事業者への啓発	市民の意識向上・行動促進	情報提供ツールの充実	★	ごみ回避・発生抑制に重点をおいて、市民がすべきことを広報や HP、市民団体主催の講座等で啓発するとともに、携帯電話サービスの活用など、新たな情報提供方策を検討する。また、市民・市民団体と連携し、各種キャンペーンを実施する。 ごみ情報誌エコーやごみ分別カレンダーで市民のページを設け、ごみ減量推進市民会議や生ごみリサイクルサポーターなどと連携し、ごみ分別や資源化についての啓発を行なった。 携帯電話(スマートフォン)やタブレットなどで利用できるごみ分別アプリを導入した。 (ごみゼロ推進課)
	協働による「みゼロの実現」	コミュニティ単位での取組	新聞紙の民間回収への移行	★	関係機関との調整のもと、新聞紙の分別収集を販売店回収、集団回収へと移行し、地域の取組のひとつとして位置づける。 回収を行なっている販売店に対し、行政回収日と重複した回収を避けていただくように案内を発送した。 (ごみゼロ推進課)

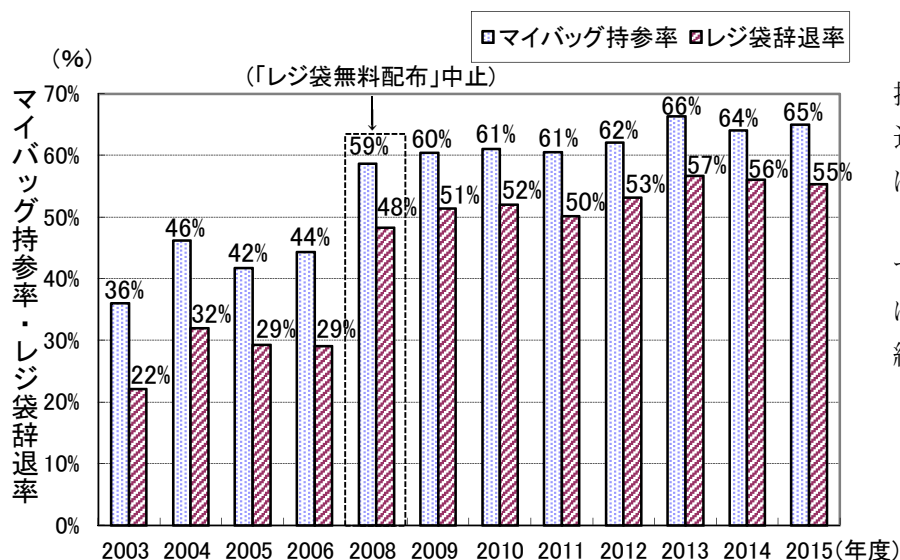
2. -1 ごみ排出量の低減

(1) リフューズ（発生回避）の促進

★ レジ袋無料配布中止の拡大 【重点施策】

年度目標値:マイバッグ持参率 66%

😊 指標 25 : マイバッグ持参率・レジ袋辞退率



2015年度は、マイバッグ持参率が65%、レジ袋辞退率は55%と、前年度とほぼ同程度の割合でした。

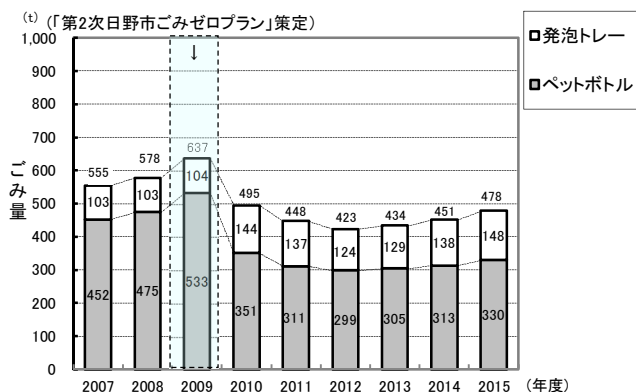
今後もスーパーと連携し、マイバッグ持参率向上に向けた取り組みと啓発を引き続き進めていきます。

(2) リターン（回収ボックスのある店頭への返却）の促進

★ 容器包装お返し大作戦の展開 【重点施策】

年度目標値:ペットボトル・発泡トレーの行政回収量 530t

😊 指標 26 : ペットボトル、発泡トレーの行政回収量



容器包装お返し大作戦と銘打った民間回収啓発を促進し、行政回収の減量に取り組んでいます。

2015年度の行政回収量は478tとなり、総量では、「第2次日野市ごみゼロプラン」が策定された2009年度と比べると25.0%減となりました。

しかしながら、2012年度以降は、僅かながら増加傾向が見られます。

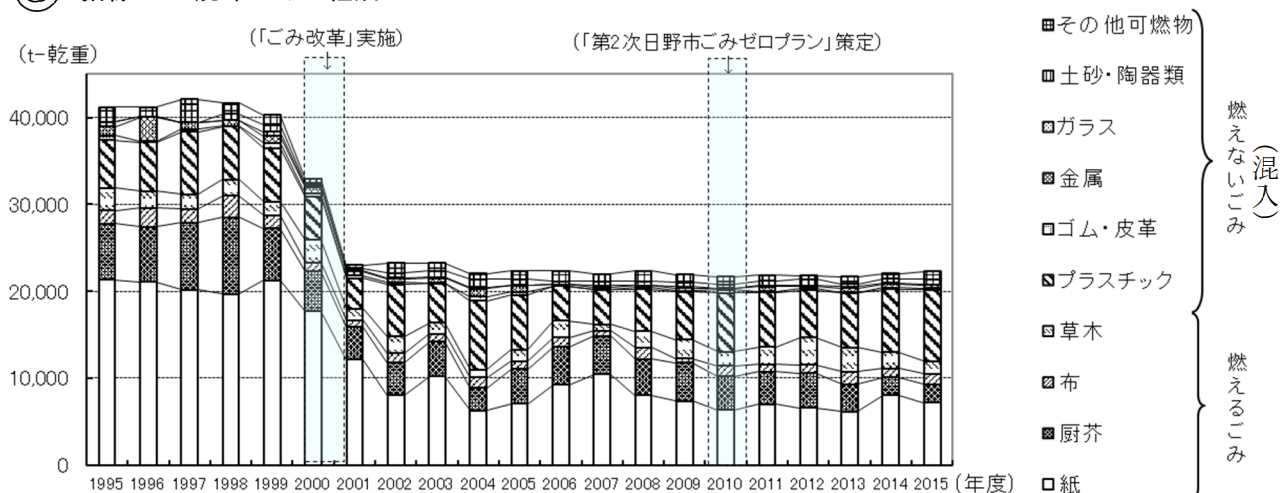
3. 環境の状況と取組状況の評価

2. -2 リサイクルの促進

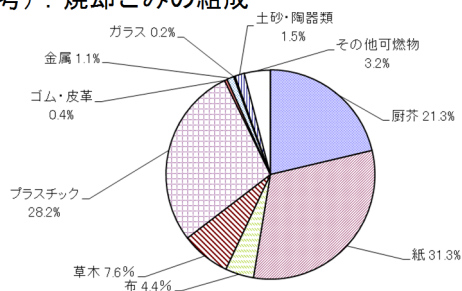
(1) 資源物回収の推進

分別ルール徹底

😊 指標 27：焼却ごみの組成



(参考)：焼却ごみの組成



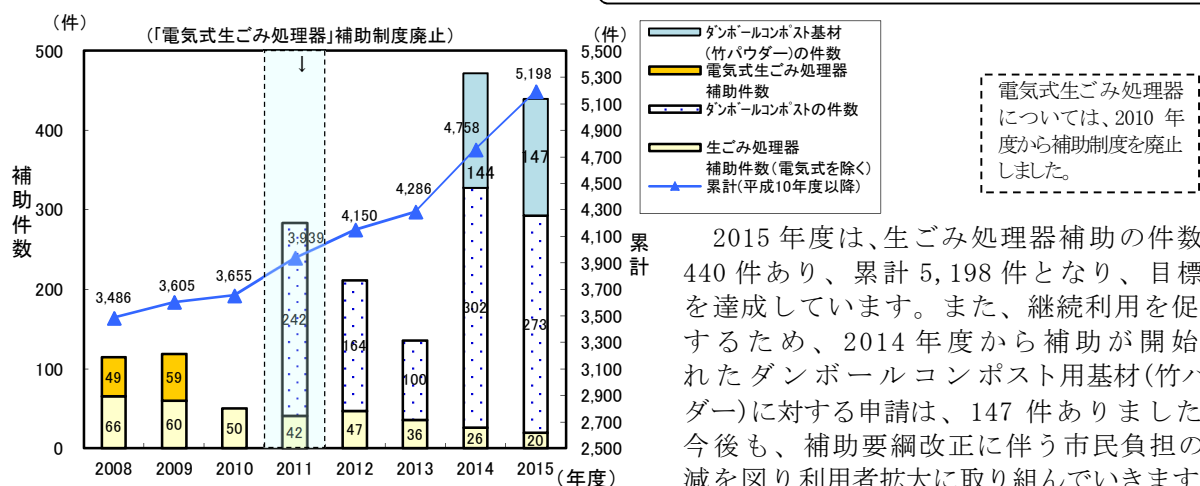
指標27は水分の重量を含まない乾燥重量ベース(「乾ベース」)、参考指標は水分を含めた「湿ベース」の組成を表しています。

(2) 生ごみリサイクルの促進

★ 生ごみの家庭内循環(自家処理)の普及促進 【重点施策】

😊 指標 28：生ごみ処理器補助の件数

年度目標値:生ごみ処理器補助の件数:累計 4,000 件



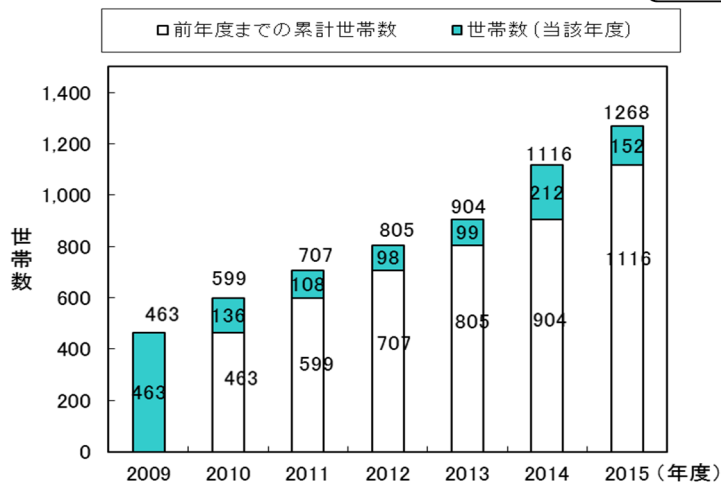
ダンボールコンポストとは

文字どおりダンボールでできており、安価で、プラスチック製品よりも環境にやさしいものです。お庭や畑のない家庭でも手軽に体験できるようにと、市民と協働して開発し、市内福祉施設と協力して作製しました。生ごみを混ぜ込む基材には多摩産の竹から作った「竹パウダー」(竹を細かく破碎したもの)を使用したり、ダンボールに被せる虫除けカバーは、古布リサイクル品から作ったりするなど、工夫と試行錯誤を重ねた日野市オリジナル品です。



指標 29 : 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数

年度目標値:生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数累計4,580



生ごみリサイクルステッカーとは

市では、家庭での生ごみ処理の輪が更に広がるよう、また、生ごみを可燃ごみとして出さない人が市内にどの位いるのかがわかるよう、玄関ドアなどに掲示するステッカーです。



生ごみリサイクルステッカーは、2009年度以降毎年増加し、2015年度は2014年度より152世帯増加しました。累計は、1268世帯と目標値の半分に満たない状況です。引き続き、普及啓発に努めます。

2. -3 市民・事業者への啓発

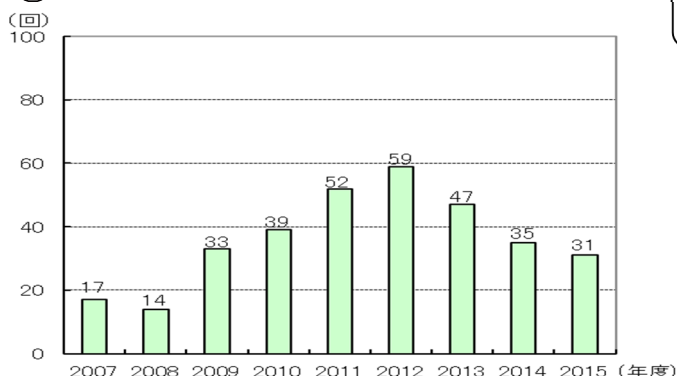
(1) 市民の意識向上・行動促進

★情報提供ツールの充実 【重点施策】



指標 30 : 環境学習出前講座の実施回数

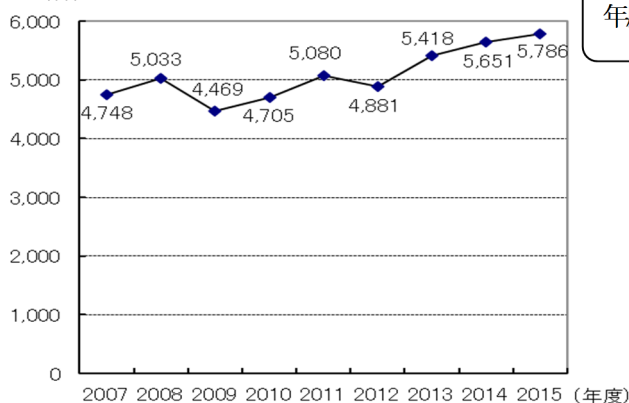
年度目標値:環境学習出前講座の実施回数 52 回



子どもたちからの啓発などで家族への啓発につながるような環境学習に取り組み、環境学習出前講座を行なっています。その実施回数は2009年度から年々増えてきましたが、2013年度から減少に転じました。

3. 環境の状況と取組状況の評価

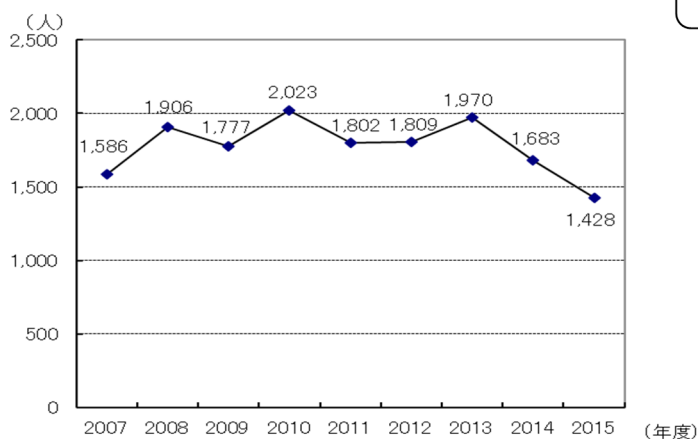
😊 指標 31：ごみ相談窓口への相談件数
(件)



年度目標値:ごみ相談窓口への相談件数 5,300 件以上

ごみ相談窓口は、市役所本庁舎一階に設置しています。ごみ相談窓口への相談件数は、市の人口の増加と共に 2010 年度から増加の傾向が認められ、2015 年度は前年度より 135 件増の 5,786 件となり 3 年続けて目標値を達成できました。これは、多くの市民のごみへの関心や意識が向上したためといえます。

😞 指標 32：クリーンセンター見学者数
(人)



年度目標値:クリーンセンター見学者数 2,170 人

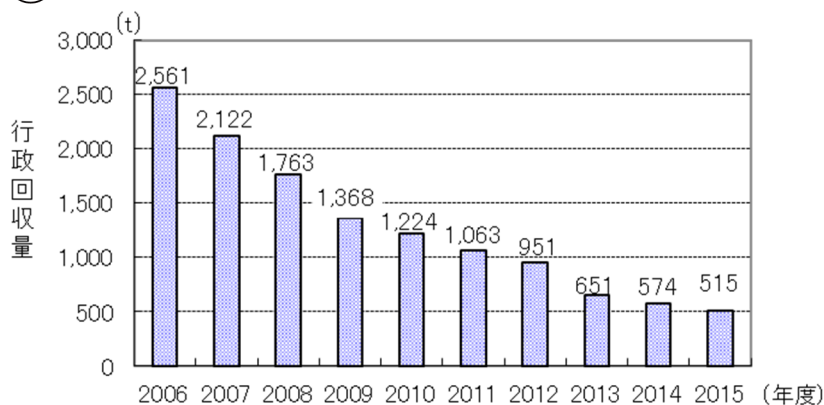
2015 年度のクリーンセンター見学者数は、前年度より 255 人少ない 1,428 人であり、目標値の 2,170 人にはおおよびませんでした。

2-4 協働によるごみゼロの実現

(1) コミュニティー単位での取組

★新聞紙の民間回収への移行 【重点施策】

😊 指標 33：新聞紙の行政回収量
(t)



年度目標値:1,218t

民間回収への移行が順調に進んでいるため行政回収量は、年々減少傾向を続けており、2015年度は、前年度より 59t 少ない 515t でした。

集団回収の推奨、販売店回収への啓発等を行い、今後も減量をすすめていきます。

3. <市民コメント>

ごみ分野では、行政と市民が「ごみ減量推進市民会議」や「ひの・まちの生ごみを考える会」（略称「まち生」）を通して協働し、以下の施策を推進しています。

■レジ袋無料配布中止の拡大

現在市内のスーパー・生協7店舗で実施されているレジ袋無料配布中止を市内全スーパーに拡大するため、スーパー・市民団体・行政による「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催しています。レジ袋無料配布中止を促す法改正は見送られましたので、新しく出た東京都の計画の進捗状況を見守りつつ、実現方法を模索中です。

■家庭での生ごみ減量・自家処理の推進

『エコー』の「市民のページ」などで、生ごみの「3切り」（水切り、食べ切り、使い切り）や庭への埋立や堆肥化を呼びかけています。

また、「生ごみリサイクルサポーター連絡会」（「まち生」の別動隊）は、手軽に生ごみの堆肥化を始められる、ダンボールコンポストを普及させるため、講習会や交流サロン、各種イベントでの展示・説明などを実施し、『生ごみ菌ちゃん通信』を発行しています。

■生ごみの地域内循環の推進

「まちの生ごみ活かし隊」（「まち生」の別動隊）が、第八小学校区域で約200世帯の生ごみを戸別回収し、新井にある約650坪のコミュニティガーデン「せせらぎ農園」の畑に直接すき込んで野菜を栽培しています。ここは、新しい都市農業のかたちとして、また、地域の人たちの楽しい居場所や、農体験を通しての食育や環境教育の場として、各方面から注目されています。

このほかに、市内の幼稚園や小学校での生ごみを使った土づくり・野菜作りを推進しています。

■販売店への返却の促進

ペットボトルと発泡トレイの店頭回収を推進していますが、このところ行政収集量が増加傾向にあり、何らかの追加施策（例えば、ペットボトルや容器包装プラスチックの収集の有料化など）を検討する必要があります。

新聞紙の行政収集量が順調に減り続けており、それを加速するため、新聞販売店が回収している地区については、原則として行政収集を停止する（ただし、新聞販売店の回収に出せなかった家庭については、量が少ない小型家電・金属類の収集日に収集）といった取り組みを、まずモデル地区を設定して始めてみることを提案したい。

■リサイクルの推進

リサイクル率を高めるためには、現行のリサイクル対象品目の分別排出を徹底する一方、リサイクル対象品目の拡大が必要です。

- プラスチックの中間処理施設の整備と全量分別収集の実施。
- 直営または民間生ごみ処理施設による生ごみ処理の検討。
- 剪定枝・落ち葉のリサイクルの検討（民間リサイクル施設の活用を検討）。
- その他の品目のリサイクルとその収集方法の検討（埋立ごみゼロを目指し、不燃ごみはすべてリサイクル）。

地球温暖化分野

< 目 標 > 低炭素社会を築くまち

1. <環境の状況>

1. -1 日野市二酸化炭素排出量

削減率（削減量）

短期目標 10%(75.0kt-CO₂) (平成 27 年度)

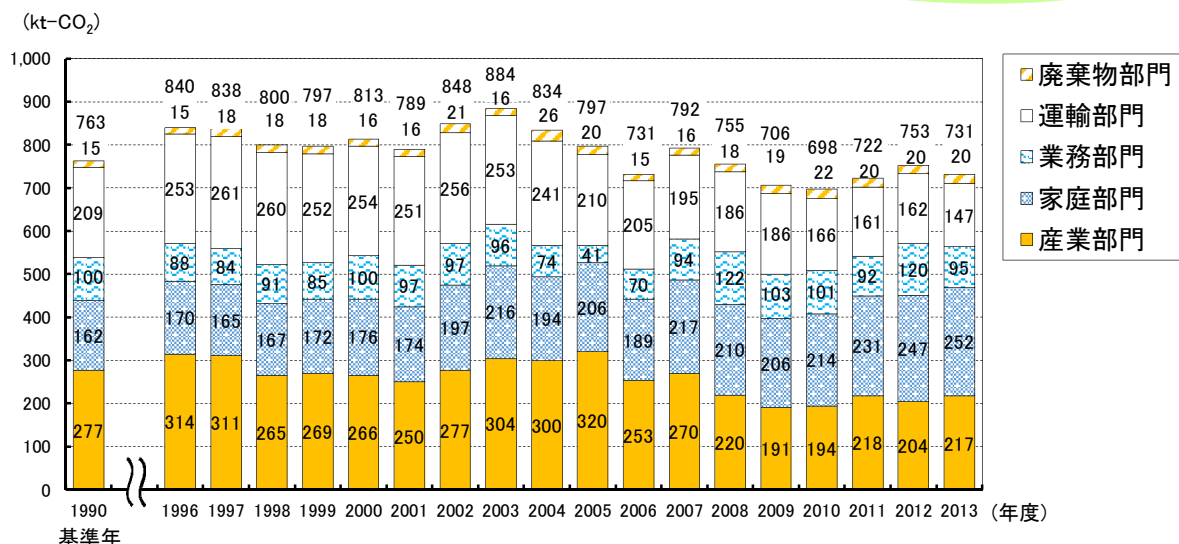
目標値: 中期目標 18%(128.6kt-CO₂) (平成 32 年度)

長期目標 60% (450.0kt-CO₂) (平成 62 年度)

(基準年度:1990 年)



指標 34：二酸化炭素排出量



「第3次日野市地球温暖化対策実行計画」(以下、第3次実行計画)の策定が2012年3月にされましたが、環境基本計画では目標値が設定されていませんでした。従ってここに掲げる目標値は、第3次実行計画によるものです。

二酸化炭素排出量の削減目標は、国の2050年度までに1990年度比60～80%という目標を踏まえ、設定されています。さらに、目標値は環境基本計画の目標年度に併せ2020年度の中期目標値、見直し年度である2015年度の短期目標値が設定されています。

現況の二酸化炭素排出量は、オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」により作成された温室効果ガス排出量算定手法の標準化区市共通版の数値を基準とされています。また、当手法では2013年度が最新データとなっています。この数値を使うことにより、東京都における他自治体と同一の算定条件のもとで比較もでき、有用であることから第3次実行計画策定以降、採用しています。

2013年度における二酸化炭素排出量(731kt-CO₂)は、前年度と比べるとやや減少し、基準年(1990年度)と比べて4.2ポイント(32.0kt-CO₂)減少しています。部門別にみていくと、基準年(1990年度)と比べ廃棄物部門は33.3%、家庭部門は55.6%とそれぞれ増加となりましたが、業務部門は5.0%、運輸部門は29.7%、産業部門は21.7%とそれぞれ減少となりました。

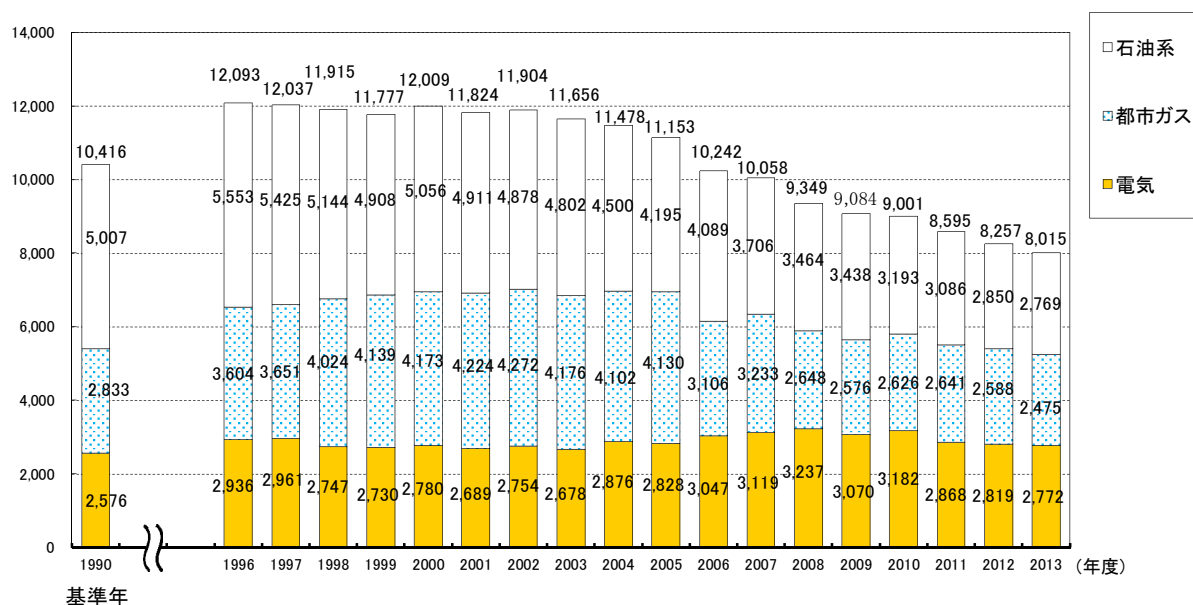
平成 20 年度より、事業者や家庭から排出される CO₂ の削減に向けた取り組み（ふだん着で CO₂ をへらそう事業）を実施しています。

家庭部門から排出される CO₂ は、基準年(1990 年度)から見ると増加傾向が続いていることから、より多くの市民に省エネに取り組むよう、積極的なはたらきかけが必要です。

1.-2 日野市エネルギー使用量

(参考)：エネルギー消費量

(TJ*(テラジュール) (1J=4.18cal)) *1TJ=10¹²J



環境基本計画では目標値が設定されていましたが、第 3 次実行計画では二酸化炭素排出量に目標が集約されているため、エネルギー使用量の目標値は設定されていません。そのため、参考扱いとします。

2013 年度のエネルギー消費量は、基準年(1990 年度)と比べて 23.1%減少しています。部門別にみえていくと、石油消費量が 44.7%と大幅に減少しています。

3. 環境の状況と取組状況の評価

1.-3 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

☺ 指標 35 : 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

目標値: 80.0%

(平成 32 年度)

年度	公共交通機関の整備率
2008	77.7%
2009	78.2%
2010	79.0%
2011	79.0%
2012	79.2%
2013	79.6%
2014	79.6%
2015	80.1%

公共交通の整備率は、ミニバスやワゴンタクシーを含めた、市内にある全ての停留所から半径 200m、駅から半径 500m 以内にある面積が市全域の面積に占める割合です。

2015 年度は、前年度より 0.5 ポイント上昇し、80.1%となりました。2020 年度までの目標としていた整備率 80.0%を達成することができました。

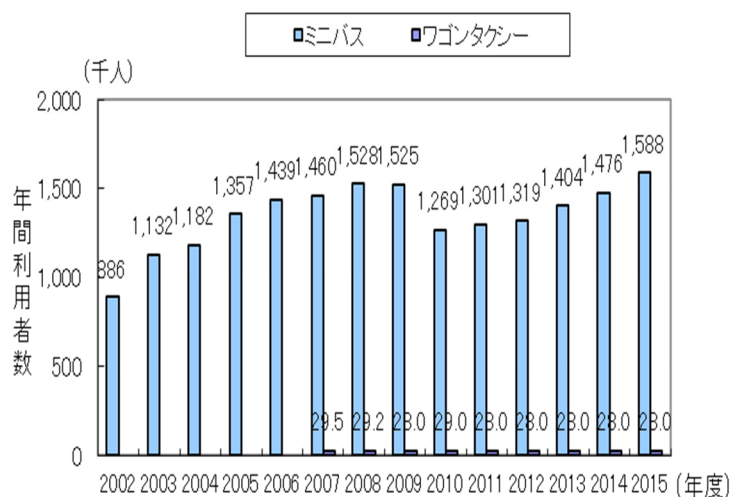
1.-4 公共交通機関(ミニバス・バス)の利用人数

ミニバス

158 万人

(平成 32 年)

☺ 指標 36 : バス路線の整備状況:市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数



2010 年度は、バス路線網の見直しにより、ミニバスの一部路線が一般路線に編入されたため減少しましたが、その後は増加傾向で、2015 年度は、前年度より 112,000 人程増加し 1,588,000 人となりました。2020 年度までに目標としていたミニバス利用者数 158 万人を達成することができました。

ワゴンタクシーは、昨年度と同様 28,000 人程で 2011 年度以降大きな変化は認められませんでした。

2.〈市の取組状況〉

目標	施策 の方 向	施策	具体的な取組	重 点	実施状況
低炭素社会を築くまち	省エネルギーの推進	家庭における省エネルギーの促進	CO ₂ の見える化の推進	★	平成 27 年度は主に、省エネコンテスト(8 月～9 月の 2 か月間の電気・ガス使用量の前年同月比の削減割合と省エネ方法を競うコンテスト)の参加者へ機器の貸し出しを行い、省エネ行動を実践していただく中で、その効果を知ってもらった。 (環境保全課)
			「ひのっ子エコアクション」の推進	★	児童生徒及び教職員の継続的な「環境にやさしい学校づくり」のための実践行動、目的意識の統一につなげた。今後もユニークな発想や効果のあった実践等は全校に情報発信していく。 (環境保全課)
		工場や事業所の省エネルギーの促進	省エネ診断の支援	★	産業振興課と連携し、また、市のホームページや広報等を利用して省エネ診断の情報提供について周知を図った。 (環境保全課)
	新エネルギーの導入	家庭への太陽光発電等の導入促進	太陽光発電等導入補助の実施	★	太陽光発電システム及び高効率給湯機器設置に対する補助を実施した。引き続き、低炭素なまちを目指し、再生可能エネルギーの積極的な利用を働き掛けていく。 (環境保全課)
		公共施設における太陽光等新エネルギーの活用	太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用	★	施設の新設や改修時には、再生可能エネルギーの積極的な活用を呼びかけていく。設置に対する補助金についての情報収集についても努めていく。 (環境保全課)
	環境に配慮した交通体系の構築	自動車利用時の排出ガスの低減	渋滞の解消	★	平成 27 年 12 月に日野都市計画道路 3・4・24 号線の事業認可を取得。平成 29 年度からの工事着手に向け、平成 27 年度は JR 軌道敷内の測量及び道路擁壁の設計、交通量推計を実施した。 (道路課)
			交差点改良や道路の拡幅、バイパス化、路上駐車規制、ITS の導入、荷さばき用の駐車場の確保等により渋滞を解消し、自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO ₂ 排出量を抑制する。		

3. 環境の状況と取組状況の評価

2. -1 省エネルギーの推進

(1) 家庭における省エネルギーの促進

★CO₂の見える化の推進 【重点施策】

☺ 指標 37：ワットチェッカー等貸出状況

年度目標値:ワットチェッカー貸出数 50 件
省エネナビ貸出数 10 件
環境家計簿活用状況 1,000 件

年度	ワットチェッカー		省エネナビ		環境家計簿活用件数
	貸出数	累計貸出数	貸出数	累計貸出数	
2011	55		48		751
2012	42	97	25	73	12,752
2013	36	133	20	93	6,554
2014	53	186	37	130	11,086
2015	35	221	13	143	11,841

2015 年度のワットチェッカー・省エネナビの貸し出しは、あわせて 48 件と前年度より 42 件減少し、環境家計簿活用件数は 11,841 件と前年度よりも 755 件増加しました。環境家計簿の活用状況は目標値を上回る結果となりました。

ワットチェッカーとは

消費電力量等を簡単に測定できる機器であり、コンセントに設置して、対象家電の電源プラグを差し込んで測定します。

省エネナビとは

家庭の分電盤に設置して電力消費量を計測し、モニターに表示するシステムです。

環境家計簿とは

通常の家計簿とは違い、家庭で使用した電気やガスなどのエネルギー量を記録し、どのくらいのCO₂を排出しているか確認するものです。

(2) 工場や事業所の省エネルギーの促進

★省エネ診断の支援 【重点施策】

☺ 指標 38：省エネ診断の参加事業者数

年度目標値:150 件

2011 年度から開始された省エネ診断は 5 年目を迎えましたが、2015 年度の参加事業者数は 1 件で、累計 21 件にとどまっています。このように参加事業者数が少ない理由としては、事業者に対する省エネ診断の意義が周知されてないことが考えられます。そこで、2013 年度から市内業者を訪問し、省エネ診断などを直接ご紹介して受診事業者の掘り起こしに努めています。

2. -2 新エネルギーの導入

(1) 家庭への太陽光発電等の導入促進

★ 太陽光発電等導入補助の実施 【重点施策】

年度目標値: 太陽光発電等導入補助件数
40 件

😊 指標 39: 太陽光発電等の導入補助件数

年度	太陽光発電 (件)	高効率給湯設備 (件)
2010	11	4
2011	33	17
2012	32	17
2013	40	13
2014	45	6
2015	40	1

エコ住宅に太陽光発電・高効率給湯設備を設置したものを補助対象としています。事業は順調で、今年度の補助件数は 41 件と年度目標の 40 件を超えています。

(2) 公共施設における太陽光等新エネルギーの活用

★ 太陽光、太陽熱、風力等の積極的な活用 【重点施策】

年度目標値: 累計 133kW

😊 指標 40: 公共施設の新エネルギー導入状況

年度	新エネルギー導入状況 (kW)	備考
2009	0 (24)	平山小学校 10kW, 第一中学校 10kW 日野駅北側トイレ 4kW
2010	34 (10)	東光寺小学校 10kW
2011	144 (110)	ふれあいホール 100kW, 多摩平保育園 10kW
2012	147 (3)	ファーマーズセンター 3kW
2013	157 (10)	発達支援センター 10kW
2014	157 (0)	
2015	157 (0)	

* () 内の数値は単年度の導入数値

2015 年度において導入はありませんでしたので、累計数値は前年度と同数値の 157kW であり、年度累計目標値を達成しています。

※2009 年度の日野駅北側トイレは、本年度から 1.5kW から 4kW へ修正があり、過年度の数値とは異なる。

新エネルギーとは

「新エネルギー」とは、太陽光発電や風力発電などの「再生可能エネルギー」のうち、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量が少なく、エネルギー源の多様化に貢献するエネルギー。

3. 環境の状況と取組状況の評価

2-3 環境に配慮した交通体系の構築

(1) 自動車利用時の排出ガスの低減

★渋滞の解消 【重点施策】

年度目標値:92.8%

😊 指標 41：都市計画道路の整備率

年度	都市計画道路の整備率 (%)
2009	89.9
2010	89.9
2011	92.8
2012	92.8
2013	92.8
2014	92.8
2015	92.8

自動車のスムーズな定速走行を促進することで、CO₂排出量の抑制を図ります。

現在、3・4・24号線の整備が準備中です。
2015年度も92.8%で、年度目標値を達成しています。

3.<市民コメント>

2013年度の二酸化炭素排出量は、ここ2年の増加から減少に転じ良い結果となりました。部門別に前年度と比較してみると、産業部門が6.4%増加し、次いで家庭部門が2.0%増加しています。業務部門は20.8%も減少し、運輸部門も9.3%減少しました。業務部門は、前年度では大幅な増加でしたが、当年度で元に戻った感じです。この増減は何に起因するのか分かりませんが、今後の動向を注視する必要があります。家庭部門は増加傾向が止まらず、部門別でも一番の排出量となっているため、家庭部門への対応が引き続き最重要課題となっています。産業部門は、ここ7、8年の期間でみると減少傾向にありますが、短期間では増減を繰り返しているため、長い目で見る必要がありそうです。

エネルギー使用量は、ここ11年間減少を続けていて、前年度と比較しても2.9%減少しました。種目別でも電気、都市ガス、石油系の全てで前年度より減少しており、エネルギー使用量削減の努力がみられ望ましい状況と言えます。

地球温暖化が原因と思われる高温に加えて、国内外で異常気象による自然災害のニュースを多く耳にするようになりました。今年の8月1ヶ月間に日本列島に上陸した台風の数も過去最多であり、二酸化炭素排出量の削減は益々重要な課題となっています。

産業部門は減少傾向にあり、業務部門も減少の兆しがありますが、家庭部門は増加傾向が止まりません。家庭部門の排出量は最も多く、市民・家庭の生活様式の結果が反映されていると言えます。電気、ガスの使用量を抑えるにはどうすれば良いか、自動車の使用を抑えるにはどうすれば良いか、私たちに出来ることは何かを一人ひとり、あるいは家族で考え話し合い、実行することが大事であり、その積み重ねが削減につながります。

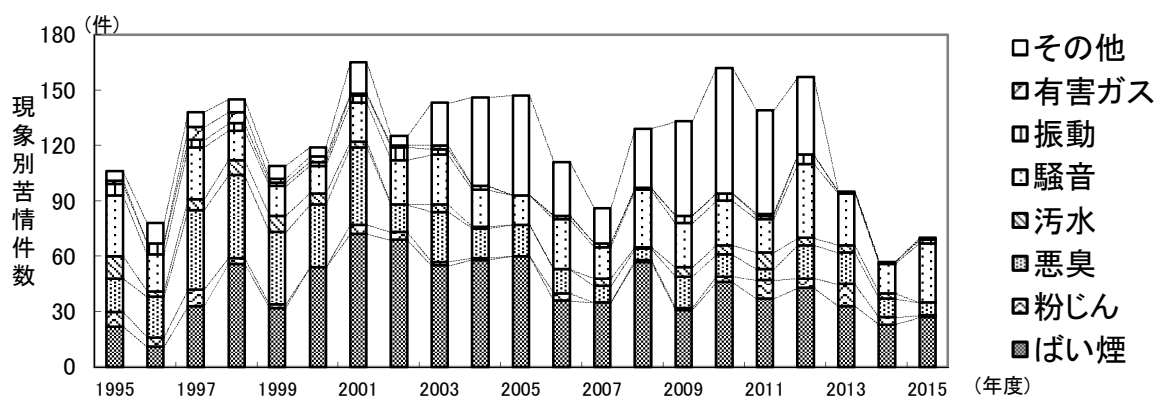
生活環境分野

＜ 目 標 ＞ 心やすらぐ住みよいまち

1.＜環境の状況＞

1.-1 心やすらぐ快適な生活環境であると感じる市民の割合

◇ 指標 42：苦情受付件数



※従来の現象別苦情のうち「その他」については、総務省公害等調整委員会の通達により公害に含めないことになり、2013年度からは公害の件数としてカウントしないため0件となっています。

市に寄せられた環境・公害に関する苦情件数をみると、2015年度の苦情受付件数は70件となりました。騒音の件数には、生活騒音も含まれており、件数としては増加しています。傾向としては、2010年度以降の苦情件数は、減少傾向となっています。

特に2013年度以降、市民一人ひとりのマナーへの関心が高くなってきていると思われます。

なお、意識調査で「きれいな水や空気、騒音やポイ捨てがないなど良好な生活環境が確保されている」と回答した市民の割合は42%でした。

3. 環境の状況と取組状況の評価

2.〈市の取組状況〉

目標	施策の方向	施策	具体的な取組	重点	実施状況
心やすらぐ住みよいまち	日常生活をとりまく環境の充実	快適な生活環境の確保	PRの実施	★	・引き続き、誰もが快適に暮らし安らぐ生活環境を維持・確保するために、一人ひとりが近隣に配慮した行動を心がけるようにPRを実施した。 (環境保全課)
			苦情に対する適切な対応		・市民等から生活環境に関わる苦情・要望等が寄せられた場合には、状況を確認し、適切に対応する。 (環境保全課)
	公害対策の推進	大気・土壌・地下水汚染等の防止	大気汚染物質の監視		・引き続き窒素酸化物、大気中のダイオキシン類の濃度を継続的に測定する。数値の悪化を防ぐため引き続き監視を行うと共に、光化学スモッグなど健康に影響を与える情報は速やかに公表する。 (環境保全課)
			道路交通騒音の測定及び対策の実施		・道路交通騒音を定期的に測定し、現状把握に努めた。また、環境基準(または要請限度)を超過するなどの場合には、関係部署と連携し、適切な処置を講ずるよう努める。 (環境保全課)
		騒音・振動対策の推進	航空機騒音についての対策		・市内の航路に該当する地点の航空機騒音を定期的に測定し、現状把握に努めた。また、環境基準を超えることはなかったが、市民等からの苦情・要望等に対しては、適切な処置を講ずることとした。 (環境保全課)

2. -1 日常生活をとりまく環境の充実

(1) 快適な生活環境の確保

★ PR の実施 【重点施策】

年度目標値：14 回以上



指標 43：マナーアップのための啓発活動状況

(単位：回)

マナーアップのための啓発活動状況(年度)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	備考
禁煙マナーアップキャンペーン	4	4	3	4	3	5	JR 日野駅 2 回、JR 豊田駅 2 回、京王線高幡不動駅 1 回
広報によるマナー啓発	2	3	5	5	8	8	喫煙 2 回、犬 2 回、猫 2 回、動物 1 回、生活マナー 1 回
犬・猫の飼い方講習会	3	5	2	4	4	3	ドックラン 2 回、日野市役所 1 回
自治会によるマナー啓発	1	2	2	2	2	2	一斉清掃のお知らせと同時に実施
計	10	14	12	15	17	18	

市民一人ひとりが快適に暮らすには、周りの人の意見や考えを尊重しながら、自らの行動が周りの人にどのような影響を与えているかなどについて考えていかなければなりません。

2015 年度のマナーアップのための啓発活動は 18 回であり、年度目標を上回る結果となりました。

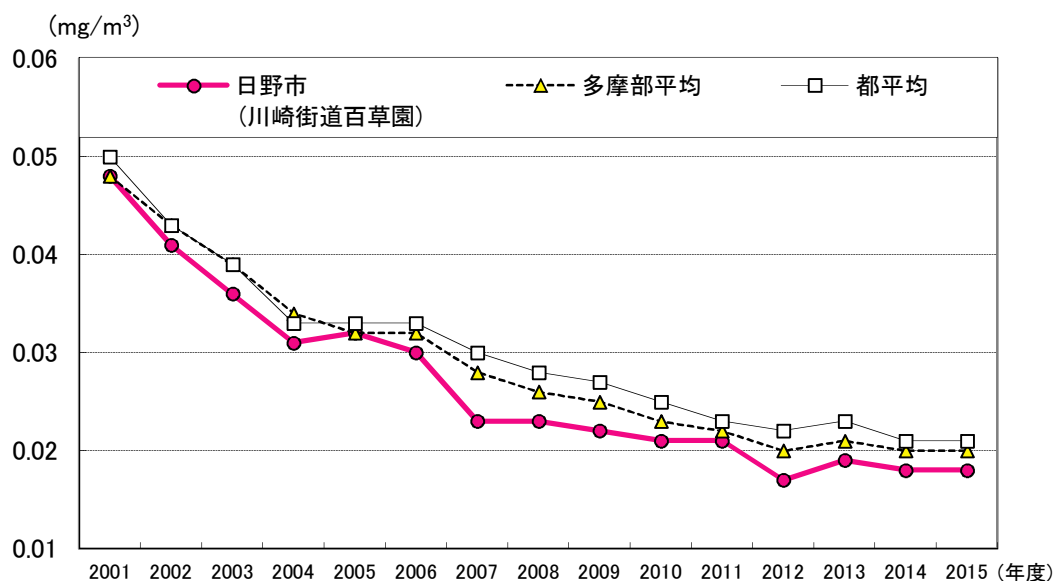
2. -2 公害対策の推進

(1) 大気・土壌・地下水汚染等の防止

大気汚染物質の監視



指標 44：浮遊状粒子物質 (SPM) 年平均値



3. 環境の状況と取組状況の評価

東京都自動車排出ガス測定局の測定結果によれば、日野市(川崎街道百草園)の SPM 年平均値は $0.018\text{mg}/\text{m}^3$ であり、多摩部平均や都平均よりも低く推移しています。2007 年 3 月に開通したバイパスにより、自動車の交通量は分散したことが考えられ、2007 年度以降は低い数値を示しています。

なお、2015 年度の微小粒子状物質 ($\text{PM}_{2.5}$) の同測定局結果は、1 年平均値が $12.5\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、1 日平均値が $28.4\mu\text{g}/\text{m}^3$ となり、環境基準(H21.9.9 環境省告示)である「1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。」を下回るものとなりました。昨年に比べ値が減少し、大気汚染の状態が改善されたといえます。

浮遊粒子状物質

(SPM: Suspended Particulate Matter)とは

大気中に浮遊している粒径 $10\mu\text{m}$ 以下の粒子と定義されています。

その構成成分は多種多様で、例えば自動車(主にディーゼル車)の排気ガスに含まれている燃焼の際のスス等(排気管一次粒子)や、タイヤや路面が摩耗して堆積し、自動車の走行によって巻き上げられるもの、海塩粒子、土壌粒子等も含まれますし、ガス状物質として大気中に放出されたものが粒子に変化して、硝酸塩等になる二次生成粒子と呼ばれるものも含まれます。

環境基準

「1 時間値の 1 日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。」(S48. 5.8 告示)

微小粒子状物質($\text{PM}_{2.5}$)とは

大気中に浮遊している粒径 $2.5\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}$ は 1mm の千分の 1)以下の小さな粒子のことで、従来から環境基準を定めて対策を進めてきた浮遊粒子状物質(SPM: $10\mu\text{m}$ 以下の粒子)よりも小さな粒子です。

$\text{PM}_{2.5}$ は非常に小さいため(髪の毛の太さの $1/30$ 程度)、肺の奥まで入りやすく、呼吸器系への影響に加え、循環器系への影響が心配されます。

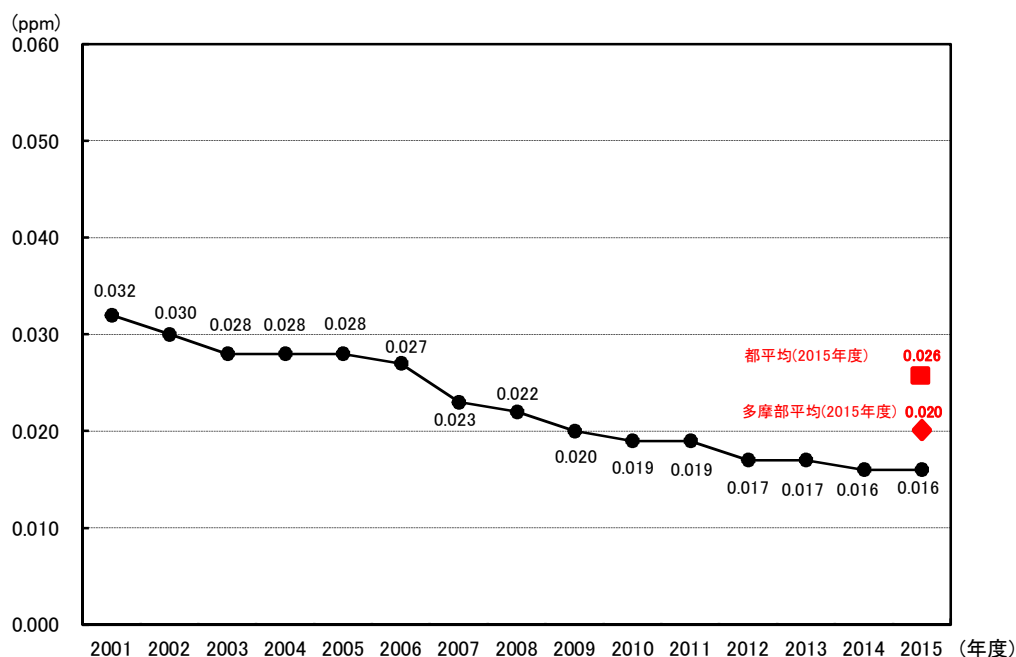
粒子状物質には、物の燃焼などによって直接排出されるものと、硫黄酸化物(SO_x)、窒素酸化物(NO_x)、揮発性有機化合物(VOC)等のガス状大気汚染物質が、主として大気中で化学反応により粒子化したものがあります。発生源としては、ボイラー、焼却炉などのばい煙を発生する施設、コークス炉、鉍物の堆積場等の粉じんを発生する施設、自動車、船舶、航空機等、人為起源のもの、さらには、土壌、海洋、火山等の自然起源のものもあります。

(出典: 環境省_微小粒子状物質($\text{PM}_{2.5}$))に関する情報

<http://www.env.go.jp/air/osen/pm/info.html>

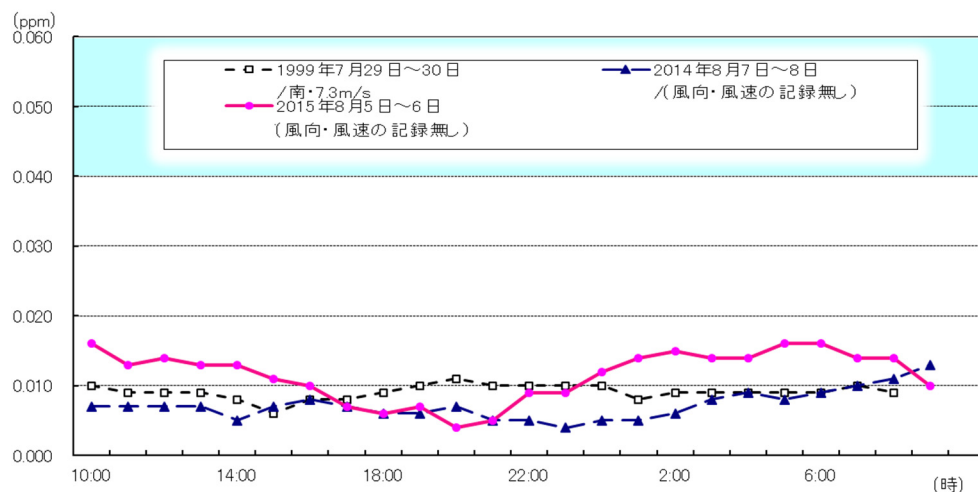


指標 45 : 二酸化窒素の年平均濃度



日野市川崎街道百草園にある東京都自動車排出ガス測定局の調査結果(東京都環境局資料)によれば、2015年度の二酸化窒素濃度平均値は昨年度と同様の0.016ppmを示しています。日野市の値は、都平均値0.026ppm、多摩平均値0.020ppmと比較して低い値となっています。

◇ 指標 46：二酸化窒素 24 時間測定結果

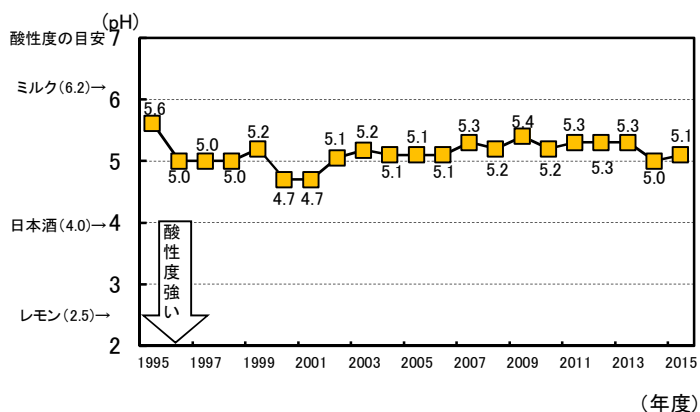


【二酸化窒素24時間測定結果の測定条件 日野市役所屋上(地上高40m)】

環境基準：■ 1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること

1日における二酸化窒素濃度(日野市役所屋上)の変動(2015年8月5～6日)と、1999年、昨年の2014年を比較すると、全体的に増加しています。また、2014年、2015年では、朝方の二酸化窒素濃度が高い傾向となりました。2015年の一日平均濃度は、0.0115ppmとなり、二酸化窒素濃度の環境基準「1時間値の1日平均値が0.04～0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下」をクリアしています。

◇ 指標 47：雨の酸性度



酸性雨とは

自動車や工場から大気中に排出された硫黄酸化物や窒素酸化物により、雨水が pH5.6 以下に酸化する現象です。

pH とは

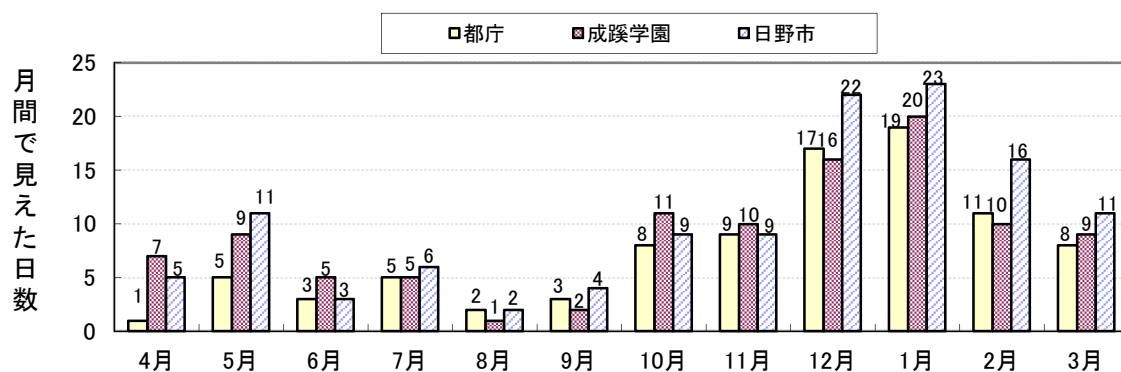
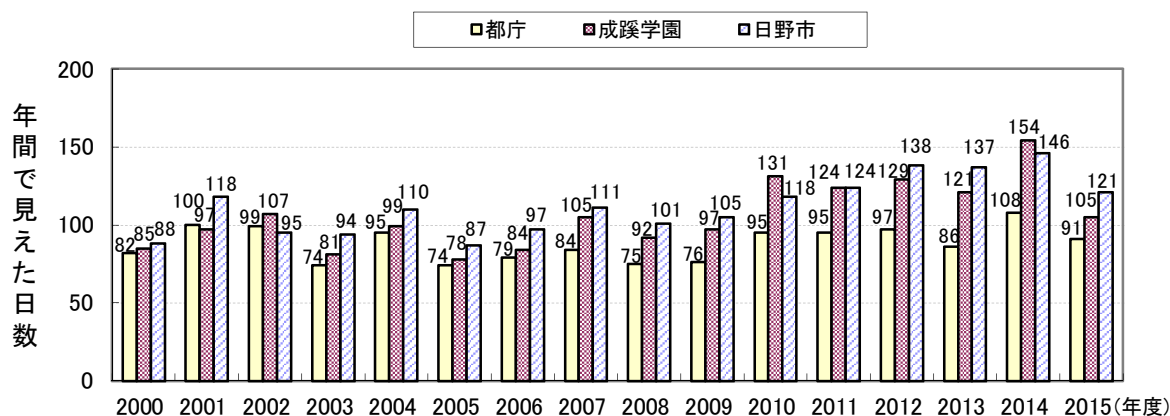
酸性の度合いを示し、中性は pH7.0 です。酸性度が強くなるほど数字が低くなります。

2015年度における雨の pH 値は pH5.1(市内8ヵ所で市民モニターにより測定された87試料の平均値)で、2002年度以降大きな変化はありませんでした。

3. 環境の状況と取組状況の評価

(参考)：富士山ウォッチング(富士山が見えた日数)

※各々、毎日定時に観測し、かすかに見える日を含んでカウントしている。



都庁 = 毎日9時に観測 場所：新宿区都庁舎35階（標高191.5m）

成蹊学園 = 毎日9時に観測 場所：武蔵野市吉祥寺北町（標高56.0m）

日野市 = 毎日8時に観測 場所：南平5丁目（七生中南東角交差点付近：標高75.0m）

（注：日野市の2014年4月は2日の欠測があります）

日野市での観測記録を、インターネット上で公開されている都庁(新宿区)からの観測値と、成蹊学園気象観測所の協力を得て入手した30年以上の実績がある成蹊学園(吉祥寺)のデータと比較しました。データを読むにあたり、都庁は35階(200m弱)の高層からの観測値であり、日野市は観測者の事情で標準観測時より早い8時の観測であることに注意が必要です。

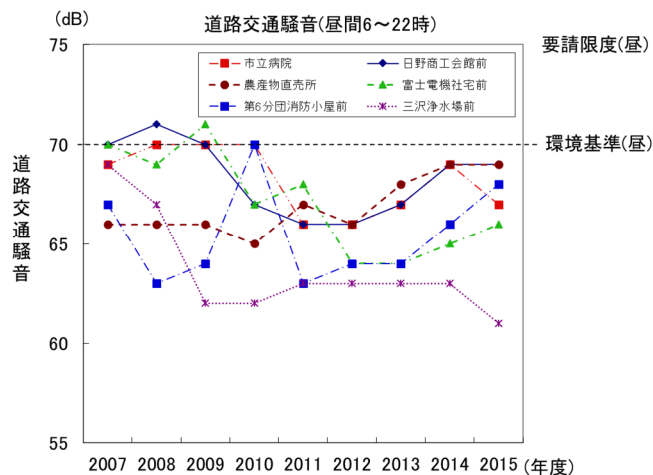
晴天日数等の厳密な気象条件は年によって違いがあり、2015年度は年間で見えた日数が、前年度に比べ3ヵ所とも減少しているものの、都庁(新宿区)と日野市においては過去10年平均の日数より多く見えました。

(2) 騒音・振動対策の推進

道路交通騒音の測定及び対策の実施

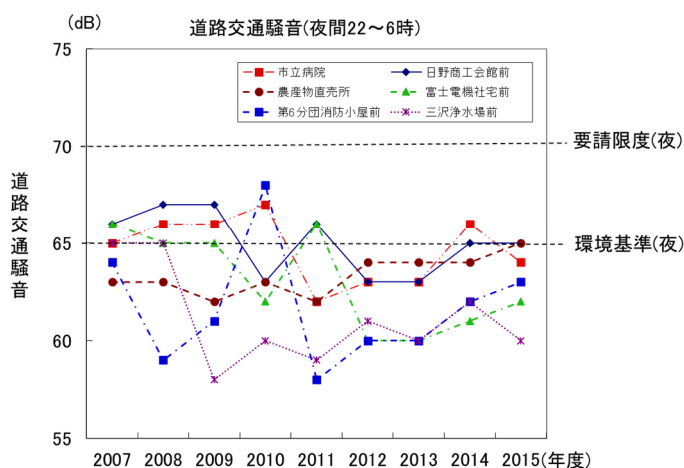


指標 48：道路交通騒音



路線名	測定地点	昼間	夜間
国道20号バイパス	市立病院 (多摩平4-3-1)	69	66
	日野商工会館前 (多摩平7-23-23)	69	65
	農産物直売所 (万願寺6-35-13)	69	64
都道155号	富士電機社宅前 (旭が丘1-8)	65	61
都道173号 (北野街道)	第6分団消防小屋前 (平山5-12-16)	66	62
都道41号 (川崎街道)	三沢浄水場前 (三沢1-19-1)	63	62

調査期日：平成26年11月30日～平成27年1月28日



※騒音測定法について

毎正時から10分間測定を行い、(1時間の等価騒音レベルを算出し)各時間区分の等価騒音レベルを演算。

【等価騒音レベル】時間内で変動する騒音レベルのエネルギー的な平均値で、人に感じられる感覚的なうるささとの対応に優れているといわれる。

【環境基準】人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい騒音レベルで、目標値となる。(環境基本法)

【要請基準】道路管理者に改善を要請することのできる騒音レベル。(騒音規制法)

2015年度の昼間及び夜間の数値は、前年度と同数値または上回る数値が観測され、一部で環境基準を上回る結果となりました。

環境基準：幹線交通を担う道路に近接する空間 昼 70dB, 夜 65dB

要請限度：b 区域(主として居住の様に供される地域)の2車線以上

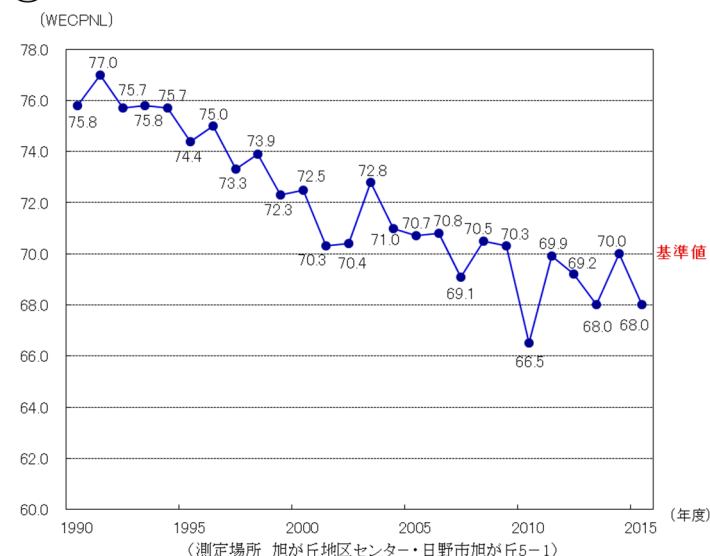
c 区域(相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される区域)の車線を有する
昼 75dB, 夜 70dB

3. 環境の状況と取組状況の評価

航空機騒音についての対策



指標 49：横田飛行場に係る航空機騒音



日野市では、横田基地に係る航空機騒音の測定を1977年から実施してきました。1988年まではリオン社製NA-30により夏期及び冬期にそれぞれ1ヶ月間測定してきましたが、1989年以降はリオン社製NA-33により常時測定を行なっていました。

2013年度より環境基準がLdenに変更となりリオン社製NA-37で常時測定を行っています。2015年度は68.0(WECPNL)と前年度より2.0低く、新基準では53(Lden)となり、環境基準を満足しています。

※環境基準値はWECPNLでは70、Ldenでは57となります。

WECPNLとは

Weighted Equivalent Continuous Perceived Noise Level「加重等価平均間騒音レベル」のことで、航空機の一日の総騒音量を評価する国際単位。同じ音の大きさでも、昼、夕、夜で、人の感じる大きさは異なることから、それぞれの時間帯の音に対して、人の感じ方の度合いを考慮して算出した値です。

Ldenとは

「時間帯補正等価騒音レベル」のことで、各飛行機の騒音を、聞こえ始めから聞こえ終わりまでの人が受ける騒音エネルギーで測定した値です。

2-3 放射線測定

市内空間放射線量測定

2011年3月11日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原発事故により、放射性物質による環境汚染が生じました。市では、2011年7月11日から、市内の空間放射線量の測定を開始しました。国の基準※では、0.23マイクロシーベルト/毎時以上の地域が除染対象となります。2015年度の測定結果は、基準を超える地点はなく、健康に影響を与える数値ではありませんでした。また、局地的に高い測定値を示す場所(ホットスポット)は確認されませんでした。

※国の基準：『平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法』（2011年8月公布）

表-2011年7月11日以降の最小及び最大値

測定区分	場 所	実施日	結 果 (単位:マイクロシーベルト/毎時)
定 点	公園8地点	2011年7月11日～継続中 毎週1回	0.02～0.09

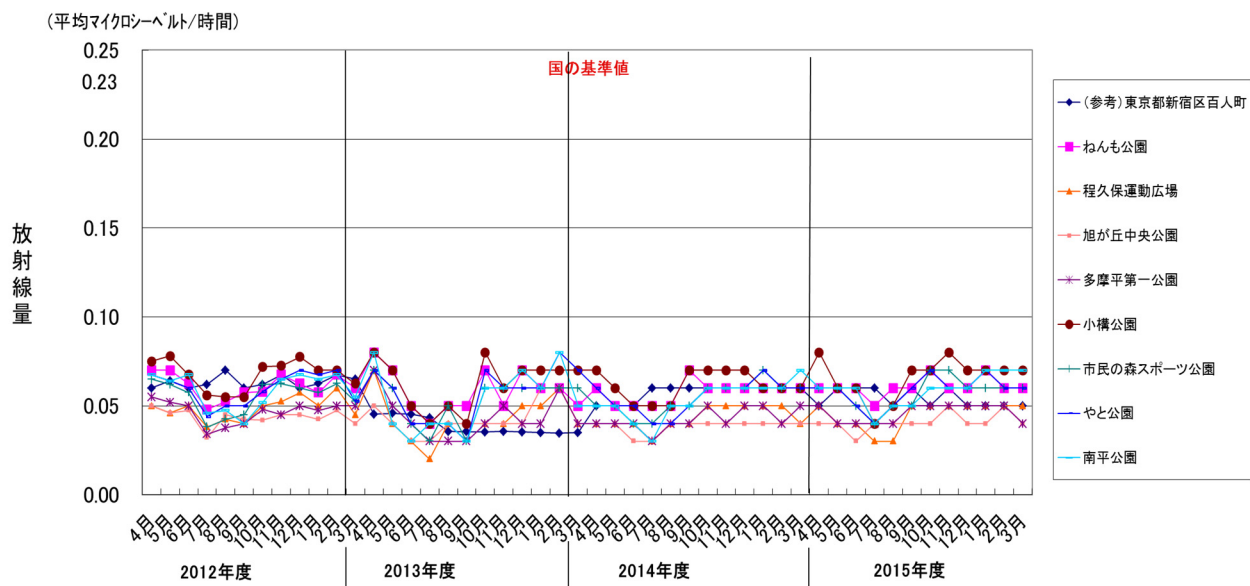
調査期間:週1回(2011年7月11日から)

調査地点:市内の中学校区を基準にして8分割し、各校区内の1カ所を測定場所とする。計8カ所。
(次頁図1～8参照)

調査内容:高さ1メートル位置にて、5分間保持後、30秒ごとに5回測定した空間放射線量の平均値を測定結果とする。

測定機器:RAE Systems 社製「DoseRAE2 PRM-1200」

中学校区	測定場所
三沢中学校区	ねんも公園(高幡)
第三中学校区	程久保運動広場(程久保)
第四中学校区	旭が丘中央公園(旭が丘5丁目)
第二中学校区	多摩平第一公園(多摩平4丁目)
大坂上中学校区	小構公園(日野台1丁目)
第一中学校区	市民の森スポーツ公園(日野本町7丁目)
平山中学校区	やと公園(平山3丁目)
七生中学校区	南平公園(南平4丁目)



災害廃棄物、焼却灰及び排ガスの放射線量の測定結果について

クリーンセンターでは平成24年から放射線量の測定を行い、その結果を日野市のホームページで公表しています。詳しくは「クリーンセンター焼却灰等の放射能測定結果について」をご覧ください。

4. 環境への取組状況

4. 環境への取組状況

本章では、日野市において、市民及び市民・行政との協働、行政、学校等、大学、事業者による環境への取り組みを主体別に紹介します。

(1) 市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

ここでは、日野市において種々の環境問題に対し、市民及び市民と行政との協働で継続的に実施している主な活動事項を紹介します(五十音順)。

① 浅川潤徳水辺の楽校推進協議会

○ 活動目的

川を昔のように、自然豊かな環境に少しでも近づけ、そこで子どもたちが思いっきり遊ぶことができる自然体験の場を「水辺の楽校」といいます。水辺の楽校は、1996年から国土交通省が推進している事業で、すでに全国300か所以上の地区において、この取り組みが始まっています。大人も子どももみんなで楽しく語り合い、浅川でのイベントを中心とした遊びの中から、自然の大切さを学んでもらうのが水辺の楽校です。

○ 対 象：潤徳小学校の児童を中心に、浅川近隣の小学生が対象

○ 活動場所：おもに浅川高幡橋～新井橋区間と向島用水

○ 連 絡 先：代表者 会長 小倉 紀雄

事務局 日野市緑と清流課・日野市環境情報センター

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 4. 19	多摩川・浅川クリーン作戦に参加	浅川ふれあい橋付近清掃	40
5. 9	「浅川で遊ぼう 1」	竹馬、竹笛づくり、竹ぼっくり、天狗の下駄、石絵、豚汁、その他	120
5. 14	稲の種まき(学校内)	潤徳小5年生	152
6. 7	「浅川で遊ぼう 2」 身近な水環境の一斉調査	子供中心に用水で3箇所ふれあい橋下1箇所	38
6. 10	田植え	潤徳小5年生	152
7. 25	「浅川で遊ぼう 3」浅川の源流探検	川は流域で考えることから、浅川の清冽な源流域を体験する。	35
8. 8	「浅川で遊ぼう 4」	思いっきり、水遊び(水泳など)	95
8. 24	田圃の草取り	潤徳小5年生	65
9. 12	「浅川で遊ぼう 5」	バッタ取りと植物観察(杉浦氏)	48
10. 7	稲刈り	潤徳小5年生	152
10. 28	脱穀	潤徳小5年生	152
11. 29	日野市地域清掃に参加	浅川ふれあい橋付近清掃	30
12. 5	多摩川子供シンポジウム	多摩川流域の水辺の楽校が集う発表会	30
12. 13	笹刈り	笹刈り	40
2016. 1. 16	どんど焼き準備	お団子づくり、やぐら作りなど	65
1. 17	「浅川で遊ぼう 6」	どんど焼き	650
2. 23	水辺の楽校発表会	潤徳小体育館	720
3. 12	「浅川で遊ぼう 7」	浅川で野鳥観察	35

② 浅川滝合水辺の楽校運営委員会

- 対 象:滝合小学校の生徒を中心に、同校保護者・卒業生及び地域住民
- 活動場所:滝合小学校の浅川、ピオトープ
- 事 務 局:浅川っ子の会(滝合小学校教員・保護者・地域住民で構成)、日野市緑と清流課
- 活動実績

実施日	内 容	参加人数
2015. 4. 19	浅川清掃&春野菜カレー	68
8. 23	浅川で川遊び	23
11. 22	浅川清掃&七輪パーティ	22
2016. 2. 21	バードウォッチング&焼き芋	56

※ 8月23日の川遊びについては雨の為、スイカ割りに変更。

③ 浅川流域市民フォーラム

- 活動目的

浅川及び大栗川、程久保川、谷地川流域の良好な水辺環境を守り、いい川づくりをしていくことについて、市民の意見交換や行政に対しての提案を行い、交流の機会や場を形成するとともに、流域の行政との良好なパートナーシップを形成していくことを目的として、次世代に身近な自然である河川環境を残していくことを目的としています。

- 活動内容

当会では、毎年日野市・八王子市の市民の参加を得て、「身近な水環境の全国一斉調査」の水質調査を行っています。2015年度における調査地点数は171地点、参加人数は165人でした。この調査結果をもとに、谷地川、程久保川、大栗川を含む浅川流域の水質マップを作り、解説面に流域の情報を写真によってわかりやすく載せています。2015年度では、ごみが日本の沿岸でマイクロプラスチックのごみベルトになっていることを記載しました。

「身近な水環境の全国一斉調査」は2004年から行われていて、12回目になりました。調査開始から水質マップを作り、環境学習での資料として提供し、日野市の水辺の資料館や八王子市の環境フェスティバル、日野市環境情報センターや八王子市エコひろばでの展示・配布、市民活動支援センターでの常設展示などを行っています。

この12年の間、流域の水質が向上してきている事、アユが遡上してきている事、モクズガニ、ホトケドジョウなどが確認された事、工事によってゾウの化石が発見された事、支流で水涸れが起きている事、流域のホテルの状況や湧水の状況、流域紹介などを記載して、身近な河川について関心を持ってもらえるようにしています。

他には、浅川・湯殿川クリーンデー(毎年4月)を開催し、今の浅川流域の状況を伝えるニュースを発行(年3回)、河川改修に関する行政との意見交換などを行っています。

- 人 数:61人、7団体

- 活動場所:運営委員会 毎月 かわせみ館・浅川クリーンデー 湯殿川(北野駅から合流)
浅川(八王子卸売市場～長沼橋下流)4月・身近な全国一斉調査
八王子市・日野市の河川 184地点、参加 151人、45団体(2013年実績)

- 連 絡 先:事務局 諏訪 祥子 TEL:042-621-1779 E-mail:CBB00853@nifty.com

- 情報提供方法:水質マップの展示・ニュースレターの配布

日野市水辺の資料館 日野市環境月間

かわせみ館 常時

八王子市環境フェスティバル 毎年6月第1土曜日

会員への配布

4. 環境への取組状況

④ 石坂ファームハウス(自然の恵みを楽しむ会)

- 活動目的:都市農業の普及と理解・四季を通じての活動・食農教育
- 人 数:登録会員 約 50 人
- 活動場所:日野市百草 672-1 石坂ファームハウス
- 連 絡 先:TEL:042-591-6477
- 情報提供方法:<http://blog.goo.ne.jp/ishizakafarmhouse/> TEL:042-591-6477
- 活動実績

実施月	内容	目的・対象	参加人数
2015. 4	農業体験	トウモロコシ種まき(近隣幼稚園)	20
	農業体験	枝豆・トウモロコシ種まき(自然の恵みを 楽しむ会)	30
5	農業体験	収穫、調理体験	20
	農業体験	里芋植え付け(三中育成会)	60
6	農業体験	田植え(米づくり体験講座)	120
	農園視察	早稲田大学	5
	農業体験	ジャガイモ掘り(都内幼稚園)	30
7	農業体験	ジャガイモ掘り(近隣保育園)	30
	農業体験	ジャガイモ掘り(近隣幼稚園)	30
	農業体験	ジャガイモ掘りと野菜試食会(自然の恵みを 楽しむ会)	30
	農業体験	ブルーベリー摘み(地元自治会)	100
8	体験講座	かかしづくり	10
	農業体験	里芋の写生会(三中育成会)	40
	農業体験	稲刈り(米づくり体験講座)	100
10	農業体験	さつまいも掘り(近隣保育園)	30
	農業体験	さつまいも掘り(七生緑小2年)	80
	農業体験	職場体験(三中)	6
	農業体験	さつまいも掘り(都内幼稚園)	20
	農業体験	さつまいも掘り(近隣幼稚園)	50
11	農業体験	里芋掘り(三中育成会)	40
	ワラ細工講師	(東京みなみ女性大学)	
	農業体験	大根掘り(都内幼稚園)	20
	クリスマスリース講師	環境保全	20
12	校外学習 農業	(某県立高校)	6
	ワラ細工指導	(滝合小学校)	60
	ワラ細工指導	(自然の恵みを楽しむ会・米づくり講座)	30
	もちつき	(近隣幼稚園)	100
2016. 1	もちつき	(近隣幼稚園)	100
	もちつき	(自然の恵みを楽しむ会)	50
	農業講義	(七生緑小3年)	60
3	農業体験	(近隣幼稚園)	20

⑤ 倉沢里山を愛する会

○ 活動目的 活動内容等

《活動目的と経緯》

日野市百草の倉沢地域で一帯の里山的な景観を永く残し、市民の手でエコ循環も実践しながら、緑地の維持・管理活動を通じて雑木林や農地の緑に親しみ、同時に会員並びに地域の市民相互のコミュニケーションを深めていくことを目的として、2000年から活動しています。

2004年、日野市と市有緑地の管理・運営に関するパートナーシップ協定を締結、2007、2008年には活動の成果として複数の地元農家の相続の際、寄付等による緑地保全が実現し、公有緑地が拡大され、本会の管理範囲も拡大しました。

2009年度はエリア内で工場跡地(民有地)を本会が一括して借り受け、アリスの丘ファームⅡとして市民農園化、新しい形での緑地の復元を実現させ、2011年度からは近隣の遊休民有地数カ所を地主さんの理解を得て市民農園として管理しています。

《主な活動内容》

- ・下草刈り、落ち葉掃き、樹木の手入れ等、雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理作業。
- ・里山内の市民農園(アリスの丘ファームⅠ・Ⅱ・Ⅲ)の運営・管理及び雑木林の腐葉土をはじめ、おから、牛糞、剪定枝チップ等地域内でのエコ循環の実践。
- ・里山内の稀少動植物の保護育成・調査。
- ・会の活動の地域住民への広報、参加の呼びかけ。
- ・百草・倉沢地区の里山全体の保全のための市民や行政への働きかけ。
- ・他の市民団体との情報及び意見交換並びに協同活動等。
- ・外部の諸団体・学校等からの見学・体験参加等の受け入れ。
- ・上記活動を通じて、ボランティア参加市民の交流・交歓のためのイベントの実施、コミュニケーションの場の提供、高齢層の社会参加機会の提供。(定例の活動の後にはアウトドアでのランチを通じて交流を深めている。)

○ 会員数: 120 家族、登録人数 約 200 人

○ 活動場所: 日野市百草倉沢地区の公有緑地(数カ所)を拠点として活動。

○ 連絡先: 事務局(田村) TEL:042-592-5859 E-mail:info@alice-fm.info

○ 情報提供方法及び2015年度の活動実績

《情報提供方法》 ニュースレター、ホームページ(<http://alice-fm.info/>)、Eメール等

《活動実績》

雑木林を中心とする緑地の基本的・日常的な維持・管理の公式活動年間約20回のほか、フィールド内の果樹の手入れ・収穫、他の里山ボランティアの見学会、市民農園アリスの丘ファームの運営・管理等、随時必要に応じて活動し、年間参加人数は延約1,000人。

⑥ 市民による都市農業研究会

○ 活動目的・活動内容

当会は、日野にある農地を次世代へと残していくことを目的に、2009年から農地に関する法令の勉強会や、都市農業の現状視察・講演会などを行なっています。2013年・2014年度は、農水省の「農」のある暮らしづくり交付金事業として『都市農業が健康作りに寄与するプロジェクト』を実施し、都市部の農地は生産の場という枠を超え、環境保全や地域防災、福祉、健康づくりにもつながる貴重な空間になりうることを実証しました。

2015年度は、交付金事業で作成した冊子と、2014年度に開催した「農でつながる生き生き会議 in 日野」をきっかけに、コアメンバーが各々活動する場においてサポート・コーディネート活動を行い、それを共有しながらまた新しい顔の見える関係を広げていく活動を展開しました。

4. 環境への取組状況

2015 年度の主な活動

- 農林水産省「平成 26 年度『農』のある暮らしづくり交付金事業」冊子配布
 - ・1 月 16 日 都市農業シンポジウム・日野市民フェア・キョテン 107・ファーマーズセンター
 - ・せせらぎ農園・実践女子大学・講演会 (6 月 29 日 山梨大学生命環境学部地域食物科・1 月 15 日 相模女子大管理栄養科)その他関係各所にて随時
- まちの生ごみ活かし隊とのコラボ企画「おひさまカフェ」開催
日野産野菜を使ったエコクッキングなどを毎月 1 回開催 (場所:キョテン 107)

実施日	事業名	参加人数
2015. 8. 9	バジルソースとブルーベリーソーダを作ろう！	12
9. 13	日野産小麦で水餃子を作ろう！	13
10. 11	シソの実漬けをつくろう！	13
12. 13	食べることは生きること	23
2016. 1. 10	いのちをつなぐ毎日のごはん	18
2. 14	器と暮らし	16
3. 6	日野産大豆でお味噌を作ろう	12

●サポート・コーディネート活動

- ①日野市
 - ・1 月 16 日「日野市都市農業シンポジウム～市民と農家による田んぼの保全～」にパネラーとして参加
 - ・水都日野/水田保全調査会委員(緑と清流課)
 - ・生物多様性地域戦略策定(環境保全課)
 - ・(仮称)東豊田複合施設のソフト検討(地域協働課・環境情報センター)
 - ・地域懇談会(地域協働課)など
- ②実践女子大学
 - ・実践女子大学地域経営論演習の講師 10 月 13 日、11 月 28 日、12 月 1 日、1 月 19 日
 - ・豊田用水まちあるき 3 月 4 日(参加者 19 人)
- ③日野青年会議所
 - ・11 月 14 日・15 日「ひのうばる」・3 月 21 日「ファン・ラン」・「キョテン 107」活用
- ④落川交流センター
 - ・ほぼ毎月 1 回開催「市民協働マルシェ」「炊き出し食事会」にて、周辺農地の野菜を提供。
- ⑤みずとくらす・ひの
日野の田んぼと用水路を活用しながら保全する市民に声をかけ、ネットワーク団体「みずとくらす・ひの」発足のサポート。
- 人 数:コアメンバー 10 人、講演会や勉強会などの参加者で登録済みは約 180 人。
- 連 絡 先
代 表 者:佐藤 美千代 (TEL:080-8891-4930 E-mail:michiyo6969@jcom.zaq.ne.jp)
事 務 局:佐藤 由美子 (TEL:090-2641-1250) 黒澤 由香 (TEL:090-6142-0366)
- 活動場所:特定場所はなし。勉強会、講演会は市内公共施設を利用。
- 情報提供・参加募集方法:メール配信による。

⑦ 真堂が谷戸蛸の会

○ 活動目的・活動内容

真堂が谷戸は、日野市の東側百草地区の最東端にある小さな小さな里山です。ここは、雑木林からの湧水だけで、カワニナ、サワガニ、ホタルなどが細々と生息していることから当会では、ホタルだけではなく、生物多様性を考慮した里山の保全活動と位置づけています。

2010 年 4 月には 40 坪ほどの田圃を復元し、田植えから、稲刈りそして収穫祭(餅つき大会)まで会員一同、楽しく取り組んでいます。

活動内容は、雑木林の下草刈り、萌芽更新作業、流れの管理、畑や田の管理、ビオトープづくり、ホタルの調査などです。

定例活動は月 3 回とし、会員一同楽しい汗を流しています。

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

6月上旬～7月初旬までの1ヶ月間は、毎晩3人1組となり、ホタルの調査活動(個体数のカウント、気温、水温、湿度など)を実施しています。今後も、注意深く調査活動が続け見守っていかねばなりません。

また、市と協働で市民を対象に「ホタルの夕べ」を開催し、この貴重な環境を市民に知ってもらい、守ることに挑戦しています。

私たち「真堂が谷戸蛍の会」は、雑木林で、汗をかき、楽しい1日だった事に、喜びを感じるボランティア活動を目指しています。

○ 会 員 数:26人

○ 活動場所:日野市百草「真堂が谷戸」、百草園前緑地

○ 代 表 者:板坂 泰治

○ 連 絡 先:事務局 笹木 延吉 電話:042-642-0422

○ 活動実績:月3回(第1日曜日、第3木曜日、第4土曜日)

実施日	テーマ	場所	参加人数
2015. 4. 5	田圃の準備	真堂が谷戸	10
4. 16	田圃の草取り	真堂が谷戸	7
4. 25	梅の剪定他	百草園前	8
5. 3	総会	真堂が谷戸	24
5. 21	下草刈り、田圃の取水	真堂が谷戸	6
5. 30	梅の剪定	百草園前	9
6. 7	田圃の準備	真堂が谷戸	11
6. 13	田植え	真堂が谷戸	10
6. 18	流れの草刈り	真堂が谷戸	7
6. 25	蛍の夕べ(日野市と共催)	真堂が谷戸	45
6. 27	下草刈り	百草園前	8
7. 5	雑木林の下草刈り	真堂が谷戸	13
7. 16	道路側の植栽剪定	真堂が谷戸	6
7. 25	下草刈り	百草園前	9
9. 6	刈払機で下草刈り	真堂が谷戸	10
9. 17	下草刈り	真堂が谷戸	6
9. 26	下草刈り	百草園前	8
10. 4	稲刈り	真堂が谷戸	10
10. 15	下草刈り	真堂が谷戸	6
10. 24	梅の剪定	百草園前	9
11. 1	ハヤトウリの収穫、草刈り	真堂が谷戸	11
11. 19	樹木の剪定、	真堂が谷戸	8
11. 28	梅の剪定、下草刈り	百草園前	8
12. 6	蛍の流れ整備	真堂が谷戸	12
12. 17	田圃の掘り起こし	真堂が谷戸	10
2016. 1. 14	落ち葉集め、腐葉土づくり	真堂が谷戸	6
1. 23	梅の剪定、下草刈り	百草園前	7
2. 7	落ち葉かき	真堂が谷戸	12
2. 18	コナラの伐採	真堂が谷戸	6
2. 27	高木伐採	百草園前	8
3. 6	コナラの幼木移植	真堂が谷戸	9
3. 17	コナラの幼木移植	真堂が谷戸	6
3. 26	キンカン、梅の剪定	百草園前	8

4. 環境への取組状況

⑧ 雑木林ボランティア講座

市民団体と行政の協働で開催している第11期雑木林ボランティア講座(2015年度)は10回開講しました。講座内容の詳細は、水と緑の日野・市民ネットワーク(76ページ)をご参照ください。

⑨ まちづくり市民フェア2015

○ 活動目的

市民活動団体が協働し合い、消費者市民社会構築の視点を入れつつ、市民の主導によるより良いまちづくりを呼びかけるイベントとして開催しました。

○ 参加団体数:77 団体

○ 活動場所:日野市市民の森ふれあいホール

○ 連絡先:TEL:042-581-6144(市民フェア実行委員会事務局 ひの市民活動支援センター内)

○ 情報提供方法:展示等

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 10. 18	「くらしを見直そう ～節電でCO ₂ 削減～」	リユース食器の利用、地産地消に配慮した模擬店、環境を意識した物販ブース、CO ₂ 削減への市民の取り組みの発表ブース等を設置。 また、環境保全をPRするDVDの上映、会場内を回るスタンプラリーの際に環境に係る簡単なクイズに答えていただくことで、市民への啓発を実施しました。	1,800

⑩ NPO法人太陽光発電所ネットワーク(略称 PV-Net)

○ 活動目的

PV-Net は、約 2700 人の会員からなる個人太陽光発電所長の全国的な組織で、その目的は、「交流と学びの場の実践による情報共有化、相談室の開設、PV 健康診断の実施、社会への発信、太陽光発電のグリーン電力証書化」などを通して、太陽光発電システムの普及・拡大を図り、環境やエネルギーにまつわる課題や問題を市民の立場で対処し、社会に貢献することです。

○ 活動内容

年に数回会合を開催し、それぞれの発電状況や研究成果の発表など情報共有を積極的に図っています。会合には日野市内の会員だけではなく、八王子市、町田市、稲城市といった近隣市の会員や日野市内の会員以外の方も参加し、活発に情報交換を行なっています。

「日野市民フェア」へ参加し、太陽光発電に関するパネル展示や学習会などの活動を行い、日野市内の環境団体と交流しています。

会合やイベントの開催はメールによる連絡のほか、市の広報への掲載やはがきによる案内もしております。会合にはPV-Netの会員だけではなく太陽光発電に興味や関心をお持ちの方でしたらどなたでも参加できます。

○ 会 員 数:東京都には約 300 人の会員がおり、そのうち日野市内の 15 人の会員が<日野近隣グループ(PV-Net 日野)>として活動しています。

○ 活動場所:平山季重ふれあい館など市内の集会施設。

○ 連 絡 先:本多 一民 (TEL:042-583-2983)

⑪ ツバメのくるまち事業(日野の自然を守る会)

○ 活動内容

日野の自然を守る会が日野市環境情報センターから引継いだ当事業の1つが「ツバメのくるまち絵はがき」です。

市内小学校の協力をいただき、2015年度の応募数は248点でした。この中から優秀賞3点と入選作品7点選ばれ、賞状と副賞が贈られました。

優秀賞の3点は絵はがきになり、イベント会場などで無料配布します。

<優秀賞受賞>は写真の上から順に

- ・田中 楓美さん(南平小学校3年)、
 - ・藤田 知勇気さん(南平小学校3年)、
 - ・吉村 優希さん(第四小学校3年)です。
- 五十音順、応募時(2015年度)の学年です。-



⑫ 農の学校

○ 活動目的

農業者の高齢化など担い手不足を補うため、「農の学校」を開設し、農業知識と技術を習得してもらい、援農ができるよう援農ボランティアを育成し農業者を支援していくことを目的としています。

○ 人数: 26人 ※平成28年1月より「農の学校」12期生開校

○ 代表者: 農の学校 校長 日野市長

○ 活動場所: 日野市立七ツ塚ファーマーズセンター(日野市新町5-20-1)

○ 連絡先: 日野市役所都市農業振興課農産係 電話:042-585-1111 内線 3411

○ 情報提供方法

・2004年度開校(2005年1月より)

※第3次日野市農業振興計画・アクションプラン、第2次日野市農業振興計画・アクションプラン、第2次日野市農業振興計画・後期アクションプラン、第5次日野市基本構想・基本計画に基づく。

○ 活動実績

<内容>

・講座による知識の習得(月1回)

農業基礎講座テキスト(野菜の栽培)、農薬の使い方

・圃場(畑)での実習により技術の習得(月2回~5回)

土づくり、鋤・草かき等の道具の使い方、種まき、除草、間引き、収穫など

※作物(ジャガイモ、トウモロコシ、サツマイモ、スイカ、カボチャ、サトイモ、ヤツガシラ、大豆、ダイコン、カブ、ニンジン、ハクサイ、ホウレンソウ、コマツナ、長ネギ)

○ 参加者募集方法

・11月15日、12月1日の広報及びホームページ等で募集予定

※ひのよさこい祭り、産業まつり農業展でPR活動

4. 環境への取組状況

⑬ 八王子・日野カワセミ会

○ 活動の目的

日野市内及び八王子市内で野鳥を観察する市民団体です。浅川や多摩川で野鳥の観察を通じて自然に接し楽しむこと、及びそのために野鳥が安心して棲める環境を作ることに関与することを目的としています。

○ 活動の内容と取り組み状況

- ・ 月 1 回会員及び一般市民を対象に浅川や多摩川で探鳥会を実施
- ・ 20 ヶ所の地域で毎月 1 回、野鳥の生息数をカウント調査
20 ヶ所のうち、日野市内では以下の 4 ヶ所で実施
浅川(長沼橋～一番橋)、浅川(一番橋～多摩川合流付近)
多摩川(谷地川合流付近)、多摩川(浅川合流付近)
- ・ 8 ヶ所の東京都指定保全緑地地域での野鳥の生息数をカウント調査
8 ヶ所のうち、日野市内では、東豊田地区で実施
- ・ その他、冬鳥・夏鳥の一斉調査、カルガモ・ツバメ・イワツバメ営巣調査、サシバの渡りなどの調査
- ・ 小中学生に対する野鳥観察支援、他団体からの野鳥観察依頼に対し野鳥観察の支援
- ・ 日本各地の野鳥観察地に出向き、地元の関係者との交流を通じた野鳥観察

○ 設 立 年:1985 年設立

○ 会 員 数:228 人、会員は随時募集(年会費 1000 円)

○ 連 絡 先:粕谷 和夫(八王子・日野カワセミ会会長) TEL:090-6125-5769

E-mail :kasuya.kazuo688@gmail.com

○ 情報提供方法:活動の結果の公表

年 2 回(3 月と 9 月)会報「かわせみ」を発行、日野市内の図書館に寄贈

ホームページで広報 <http://kawasemi.fan-site.net/>

⑭ 東豊田緑湧会

○ 活動目的・活動内容等

東豊田緑地保全地域の自然環境を荒廃させないため、定期的に手入れを行い、身近な自然を永く保存し、明るい雑木林として維持するために緑地保全等を継続して 19 年になります。企業の社会貢献活動(グリーンシップアクション)も積極的に受け入れ、2005 年度の「水と緑の日野・市民ネットワーク」の設立にも関わり、市の緑環境行政にも精力的に協力しています。

○ 主な活動項目

- ・ 下草刈り、間伐、除伐、枯損木処理、剪定、枝打、萌芽更新地管理、実生の移植
- ・ 特殊植物保護、清掃活動
- ・ 湧水群・流水路の保全・保護
- ・ 企業や学校との社会貢献活動の協働
- ・ 東京都及び日野市との保全計画の協働策定

○ 人 数:23 人

○ 活動場所:東豊田緑地保全地域(黒川清流公園、多摩平第1緑地、多摩平第6公園を含む)

○ 連 絡 先:小太刀 智明 (E-mail:tweety-satopi@u01.gate01.com)

○ 情報提供の方法:東京都ウェブサイト「里山へ GO !」・清流ニュース・広報・チラシなど

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数 (延人数)
毎月 第1・第3土曜	下草刈り・笹刈り	萌芽更新地の下草や笹を刈り、雑木の再生を助長し健康な樹木を育てる。	153
9月・2月・3月	倒木処理・剪定	台風や雪害等で風倒した木の処理と既存樹木の剪定及び樹形整備	56
1月・2月	除伐	常緑照葉樹類の除去・込み合い樹木の間引 不法に植栽された園芸種の除去	39
6月・9月	外来種除去活動	オオブタクサやキシノウエなどの外来種を除去する作業。	30
4月・5月	特殊植物保護活動	希少植物の株数記録、生育補助の為に除草、盗掘防止のための花摘み。	45
7月・8月・12月	湧水の保全・保護	流水路の除草と落葉採り 湧水口の整備	28
5月・10月	草地管理	草地の環境を維持する為の選択除草 外来種・先駆的植物の調整及び除去	52
4月・12月	大規模清掃活動	保全地域全域の不法投棄物回収と巡視 小規模な清掃活動は随時実施	48
8月・11月	グリーンシップ アクション	企業の社会貢献活動に対応し、保全活動の体験作業を開催(3社2日間)	83

⑮ 日野産大豆プロジェクト

○ 活動目的

「地元で採れた大豆を学校給食で子供たちに食べてほしい。」と日野市内の小・中学校の栄養士、調理員、農業者、大学生、市民ボランティアなどが協力して立ち上げたプロジェクトで、2015年度で12年目となりました。収穫された大豆は、市内の全小中学校の学校給食で活用されます。また、大豆の種は小学校の学童農園用の種にも提供され、収穫した大豆は豆腐づくりや味噌づくり等の食農教育に活かされます。なお、11月の日野市産業まつり等で、日野産大豆プロジェクト活動を市民に広くPRしています。

○ 人 数：約70人

○ 活動場所：東光寺地区

○ 連絡先：事務局：日野市役所 都市農業振興課 農産係

TEL:042-585-1111 内線 3412

○ 代表者：小林 和男

○ 参加募集方法等：市HP、チラシ等

○ 活動実績：種まき、除草作業5回、収穫、脱穀3回、選別、遺伝子組み換え大豆講演会、枝豆食べ比べ体験、豆腐作り体験

⑯ ひの市民リサイクルショップ回転市場

○ 活動目的・活動内容

日野市の支援のもと1992年創立。市民から無償で提供された中古衣類・雑貨品等の販売を通して、「使い捨てのくらしを見直し、①物を大切に使うくらし ②ごみになる物を買わないくらし ③ごみを出さないくらし」に変えていく呼び掛けをし、それに役立つ情報の発信と実践活動をしています。また、安全で環境に負荷の少ない石けん製品の販売もしています。売上金を環境

4. 環境への取組状況

情報誌「21 世紀の地球」作成や市民還元イベント等に活用したり、開店当初から買物袋持参を呼び掛けています。

- 人 数:17 人
- 活動場所:万願寺店 多摩平店 日野市生活・保健センター
- 連絡先:万願寺店 (TEL:042-587-1787)・地域協働課 (TEL:042-581-4112)
- 代表者:吉田 克美
- 情報提供・会員募集・イベント参加募集:店頭・広報ひの・ポスター・チラシ
- 活動実績

実施日	内 容	参加人数
2016. 1. 24	市民還元イベント 市民から無償で提供された絹地の着物を活用した「古裂で作るリメイク小物」の講習会(ティッシュボックスカバー)	42

他に「会員学習会」「着物特別販売」「出張キャンペーン」を開催。「まちづくり市民フェア」「日野市レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」「くらしの輪連絡会」に参加。

⑪ 日野団塊世代広場

○ 活動目的・活動内容

「日野団塊世代広場」は、『生きがい、働きがい、地域がい』を持って、健康で生活を楽しみながら地域づくりに貢献することを目的として活動しています。新選組まつり等のイベントのお手伝いやパソコン、太極拳などの教室も開催しています。

活動の一環として 2009 年から百草山での「明るい雑木林」作りに取り組んでいます。11 人で雑木林チームを編成しており、8 人は「雑木林ボランティア講座」の修了生です。活動としては、林の手入れ作業を行いながら次のような取り組みを行なっています。

- ・植物の貴重種の確認など現況の調査及び観察会の実施
- ・竹ぼっくりの製作、イベントにて子供たちに配布を行い子供の運動能力向上に資する。
- ・作業後放置していた竹・笹に生ごみ発酵促進剤を使って早期腐葉土化の試み、市民無償配布時に『生ごみを燃えるごみとして出さない』よう呼びかける。
- ・どんぐりクラフトづくりをイベントにて子供たちに実施、工作の楽しさを教える。
- ・産業まつりや市民活動フェアに出展し、日野団塊世代広場の活動のPRや手作り品等の販売

- 人 数:21 人 百草山活動者 延べ 137 人/2015 年度
- 活動場所:京王百草園駅から徒歩5分、百草園の北側に隣接した雑木林主体の緑地
- 活 動 日:第2日曜日、第4土曜日9時～15時
- 連絡先:日野団塊世代広場事務所(日野市平山台健康・市民支援センター内)
TEL:042-843-8723 E-mail:info@dsedai.com
- 情報提供・参加募集方法等:ホームページ <http://www.dsedai.com/>
“日野団塊世代広場”で検索

⑩ ひの緑のトラスト

○ 活動目的・活動内容

日野市の百草地区には、地元の方々の努力などで、市内で唯一、貴重な里山の景観が残されています。日野市ではこの地区に相続があった場合、雑木林相続面積の1/2 を寄付、残りの1/2は国に物納し、何年か後に市が買収するという方法を相続人のご好意で実施し、多くの雑木林を保存してきました。

しかしながら、現在市は稀にみる財政危機に直面し、何年か前に物納された百草の真堂が谷戸の雑木林(3,509㎡)を国から買い取ることが難しい状況になっています。

この土地は、クヌギ、コナラなどの雑木林で、湧水が流れ、日野市では珍しくなったホタルが生息しており、エビネなどの貴重植物も自生しています。また、歴史的遺物も多く出土している貴重な場所です。

この貴重な雑木林を公有化して保全を進めることを強く願う緑関連の市民団体が協議し、2009年12月に「ひの緑のトラスト」を設立しました。取得資金の一助となるよう「募金」へのご協力を市民の皆さまに呼びかけています。

○ 構成団体

倉沢里山を愛する会、真堂が谷戸蛸の会、南丘雑木林を愛する会、東豊田緑湧会、日野市環境基本計画推進会議 みどりグループ、日野の自然を守る会、百草山の自然と文化財を愛する会、緑地管理ボランティアの会、市民環境大学OB会

○ 代 表 者:白石 研三

連 絡 先:ひの緑のトラスト事務局 日野市環境情報センター TEL:042-581-1164

○ 情報提供・参加募集方法:広報ひの、緑のトラストパンフレット

環境情報センターホームページ:<http://kankyo-hino.com/>

○ 活動実績

実施日	取組紹介や募金活動を行なったイベント
2015. 11. 14、15	日野市産業まつり
11. 21	みんなの環境セミナー「日野の雑木林は今」

⑪ ひのどんぐりクラブ(日野市環境学習サポートクラブ)

○ 活動目的・活動内容

ひのどんぐりクラブの主な活動は、市内小・中学校の生活科、理科、総合学習など、児童・生徒たちの野外での体験学習の付き添いや指導、自然物を使った工作などの学習支援です。2015年度の学校などへの支援数は92回、支援対象人数は延べ8,744人でした。

○ 人 数:10人

○ 代 表 者:有馬 佳代子

○ 活動場所:日野市内小・中学校等 かわせみ館

○ 連 絡 先:日野市環境情報センター内 杉浦 TEL:042-581-1164

4. 環境への取組状況

○ 活動実績

月	回数	支援先	対象生徒 人数	対象大人 人数
2015. 4	1	南平小3年	87	0
5	6	南平小1年、四小1年、南平小3年、潤徳小4年、浅川潤徳水辺の楽校、南平児童館	513	30
6	13	七生緑小2年(2回)、四小3年、南平小2年、南平小1年、七小2年、豊田小3年、南平小3年、四小1年(2回)、三小4年、四小2年、小教研生活課	1,082	20
7	6	三小2年、南平小1年、南平小2年、七小2年、五小1,2年、日野高校、	665	60
8	0	なし	0	0
9	16	南平小1,3年(合同)、七小4年(2回)、南平小2年、平山小3年、三小3年、潤徳小3年、四小2年、三小4年、四小1年、潤徳小1年、仲田小3年、八小2年、一小2年、三沢中1年、浅川潤徳水辺の楽校	1,424	30
10	21	七小1年(3回)、四小1年(2回)、仲田小3年、四小3年(2回)、三小1年、五小クラブ4-6年、潤徳小1年、一小3年、一小2年、八小1年、南平小3年、南平小2年、六小5年、平山小2年、七生緑小1年、学芸大学、多摩平・旭が丘児童館	2,042	35
11	13	南平小1年、六小5年、三小4年、東光寺小2年、旭が丘小理科委員会、一小1年、三小1年、潤徳小2年、四小1年、三小2年、四小2年、六小5年、潤徳小1年	1,153	0
12	5	六小1年、平山小2年、一中1年、四小3年、平山小1年＋若草学級	438	0
2016. 1	7	南平小1年、四小2年、七小2年(2回)、七小1年、潤徳小2年、四小1年	748	0
2	4	八小1年、八小2年、六小2年、東光寺小2年	417	0
3	0	なし	0	0
計	92	延べ人数	8,569	175

㊼ 日野の自然を守る会

○ 活動目的・活動内容

本会は、日野の自然を守り、市民の間に自然尊重の心を養い、その保全と復元に努力し、人間性豊かな社会の発展に寄与することを目的とする。(会則第三条 目的)

活動内容としては、本会の目的を達成するため、日野の自然を守る市民運動、調査・研究、自然保護に関する啓蒙普及、自然観察会・研究会等の実施、会誌その他出版物の発行、その他本会の目的達成に必要な事業を行う。(会則第四条 事業)

○ 会 員 数：189人(2015年度末)

○ 代 表 者：山本 浩

○ 活動場所：日野市を中心として首都圏・関東一円

○ 連 絡 先：事務局 〒191-0052 日野市東豊田3-15-12(片岡方) TEL:042-582-0696 FAX:042-582-0698

○ 情報提供：会誌 日野の自然(月刊)、会ホームページ <http://hinonosizen.sakura.ne.jp/>

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 活動実績

実施日	行事名	参加人数	備考
2015. 4. 5	中央線沿線ウォッチング 120「上野原駅・不老山」		雨天中止
4. 10	植物・昆虫ウォッチング 33「スマレ・虫・南アルプス眺望ー長坂の春」	16	
5. 06	より鳥みどり観察会 53「南平丘陵公園～七生公園・夏鳥を探す」	40	
5. 09	植物・昆虫ウォッチング 34「新緑の南高尾・草戸山」	19	
5. 31	地球の窓シリーズ 11+奥多摩ウォッチング 15「身近な地質ハイキング 横沢入り」	25	
6. 07	より鳥みどり観察会 54「ツバメと浅川の夏鳥たち」	18	
6. 20	中央線沿線ウォッチング 121「立川駅・根川緑道」	10	
6. 21	植物・昆虫ウォッチング 35「初夏の小野路」	10	
7. 20	植物・昆虫ウォッチング 36「岩殿山のチョウと植物を観る」	13	
7. 26	夏の夜の林の昆虫たち	14	
8. 19	親子観察会「川の生き物を探そう」	7	
8. 30	中央線沿線ウォッチング 122「武蔵小金井駅・野川緑道」	10	
9. 12	観察会「秋の夜長にマツムシ、スズムシ、カンタンの音を聞く」	5	
9. 21	観察会「秋の植物と大木島自然公園に咲くヒガンバナを観る」	20	
9. 27	植物・昆虫ウォッチング 37「初秋の長沼公園で植物とムシを観る」	22	
10. 04	より鳥みどり観察会 55「城山鳥見ハイク&日影沢の秋の花」	27	
10. 10～11	宿泊観察会「八ヶ岳高原の自然」	21	
10. 18	植物・昆虫ウォッチング 38「横浜自然観察の森で秋の植物・昆虫を観る」	15	
11. 08	より鳥みどり観察会 56「秋の浅川の身近な野鳥たち」		雨天中止
11. 15	地球の窓シリーズ 12+奥多摩ウォッチング 34「身近な地質ハイキング長瀬町」		雨天中止
11. 29	植物・昆虫ウォッチング 39「紅葉の高幡不動からかたらいの路」	28	
12. 13	より鳥みどり観察会 57「よくばりバードウォーク 2015」	12	
12. 27	中央線沿線ウォッチング 123「相模原駅・矢ノ音」	13	
2016. 1. 11	より鳥みどり観察会 58「黒川公園ニューイヤーカウント 2016」	32	
1. 17	中央線沿線ウォッチング 124「京王高尾山口駅・中沢山」	27	
1. 24	植物・昆虫ウォッチング 40「平山城址公園・冬越しの植物・昆虫を観る」	18	
2. 14	より鳥みどり観察会 59「多摩丘陵の冬の野鳥と生き物たちの冬越し」		雨天中止
2. 21	中央線沿線ウォッチング 125「相模湖駅・孫山」	19	
3. 13	より鳥みどり観察会 60「多摩川浅川合流点・渡前の冬鳥達と河原の春」	34	
3. 20	地球の窓シリーズ 13+奥武蔵ウォッチング 35「身近な地質ハイキング長瀬町」	10	
3. 27	植物・昆虫ウォッチング 41「春の日野歩き」	25	
参加者小計		510	
特別行事			
2015. 4. 26	第 44 回定期総会	14	
2016. 1. 9	新春自然へのお誘い	34	
参加者小計		48	
総合計		558	

4. 環境への取組状況

㊦ 日野の水車活用プロジェクト

○ 活動目的・活動内容

プロジェクトの活動目的は水車が回る環境を活用して市民が共通の話題で集うコミュニティの場として、また水車による精米と用水の関係を研究、子供たちの環境学習に日野の歴史と用水の大切さを学ぶ場としての出前授業等、そして近き将来は再生可能エネルギーの一つである小水力発電(マイクロ発電)の可能性を追求する事です。

○ 人 数 :40人

○ 活動場所:水車小屋、市内会議室、市外

○ 情報提供:会報、E-mail:michiyo6969@jcom.zaq.ne.jp、リーフレット等

代 表 者:多田 啓介 TEL:042-594-3739

事 務 局:佐藤 美千代 TEL:042-594-0745

○ 活動実績

実施日	テーマ	内 容	参加人数
2015. 4. 4 ～ 9	かわせみ館フェアに出展参加	活動状況のパネル展示及び模型の水車と水車による発電型模型の展示	7
5. 16	日野塾の向島用水まち歩きと共催	台風の影響で浅川の導流堤が崩れ水車は回らず精米の体験は中止、まち歩きの案内に3人、水車の案内に1人と分かれて説明案内する。	25
7. 14	日野市小水力発電導入検討委員会に参加	当プロジェクトのメンバー4人が参加、委員になる。	4
8. 1	環境情報センターと合同イベント	石臼による米粉ひき、一升びんによる精米体験、スケッチ、動画の投影、水車発電の実験と盛りだくさんのイベントで子どもたちは大いにハッスルした。	26
9. 12	学習会(地域で考える自然エネルギー)	日野の歴史(水車)について上野氏の講義を受ける。明星大学準教授藤村和正氏による(通年観測の結果からみた根川の発電ポテンシャル)の講義を受ける。	30
10. 9	福生市民団体の用水見学を案内	向島用水とせせらぎ農園の見学と説明、水車は回らなかったので動画投影による説明と小屋内での水車の説明をする。	25
10. 18	まちづくり市民フェア2015に出展参加	活動内容のパネルや市内水車の説明と写真の掲示、水車発電機の展示、模型の水車を子供たちに作らせた。	11
10. 31	市内手話サークルに用水の案内	向島用水とせせらぎ農園の見学と説明、水車は回らなかったので動画投影による説明と小屋内での水車の説明をする。	24
11. 24	潤徳小学校「水辺の楽校」の支援	潤徳小学校5年生4クラス120人に、精米・石臼による黄粉挽き・木臼による粳すり・一升瓶による精米の体験を4組に分けて実施、保育園の園児も加わり大賑わい、子供たちへの環境教育に一役かった。	172
毎月第二土曜日	定例会	前月の活動報告、今後の活動予定、勉強会などを行う。	10～

㊦ 日野みどりの推進委員会

○ 活動目的・活動内容

東京都が緑地保全活動の目的で1974年に「緑の監視員」制度を設立し、後に「みどりの推進委員」に名称変更して2003年度まで存続しましたが、都の組織改革に伴い廃止になりました。その後、日野地区会はボランティア団体として名称を「日野みどりの推進委員会」に変更して活動を続けてきました。南平丘陵公園を中心とした自然観察会を毎月実施し、観察会を通して「緑地の保護・保全の必要性」を参加者にアピールし、「保全作業へのボランティア参加・協力」を呼びかけています。

- ・自然観察会:毎月(原則第4土曜(8月を除く))市と共催して実施。観察会を通して緑地保全がいかに大切かを市民に紹介している。
- ・その他:市の行事等への協力

○ 人数:13人

○ 活動場所:南平丘陵公園ほか市内及び近隣市外緑地

代表者:会長 杉浦 忠機

連絡先:事務局 緑と清流課 TEL:042-585-1111

○ 参加応募方法

毎月の自然観察会への参加応募は市の広報紙「広報ひの」で毎月案内します。マスコミにも連絡して広く案内されるよう努力しています。

○ 活動実績 (定例観察会)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 4. 25	晩春の長沼公園を散策しよう	京王相模原線南大沢駅から長池公園を散策し、長池見附橋で解散	38
5. 23	新緑の小宮公園を訪ねよう	JR 八王子駅北口から、浅川を渡り小宮公園へ、公園内を観察し弁天池出口まで	24
6. 27	南平丘陵公園でキノコの観察	京王線南平駅集合、南平丘陵公園内を散策してキノコを観察	16
7. 17	昆虫博士と夜の雑木林を探検しよう	昆虫博士(川那部氏)と南平丘陵公園で、親子向け夏休み夜の観察会	59
9. 19	日野の原風景①百草、倉沢地区に残る里山の農家と原風景を見学しよう	京王線百草園駅から百草八幡宮のスタジオの森を見学、倉沢の石坂ファームハウスを訪ね、農家の生活や裏山など見学	24
10. 31	秋の雑木林の観察会	京王線南平駅から平山三丁目東を通り、都立七生公園(南平地区)へ入り、公園内を程久保地区まで散策、多摩動物公園駅で解散	33
11. 28	日野の原風景②よそう森から東光寺緑地を散策しよう	JR 日野駅から薬王寺、多摩川堤、成就院を経てよそう森、東光寺緑地を散策し、日野駅に戻る	28
12. 5	木の実やつるなどでお正月やクリスマスに使えるリースを作ろう	ミニバス倉沢バス停に集合、石坂ファームハウスでリース、しめ縄作り	16
2016. 1. 23	冬の雑木林を散策しよう(都立長沼公園)	京王線長沼駅から長沼公園に入り、栃本尾根を登り、野猿尾根道を通り殿ヶ谷の道を降り、公園口で解散	19
2. 27	平山城址公園付近の雑木林で冬芽の観察	講師に菱山先生を迎え、平山城址公園駅前に集合、宋印寺に寄り、公園内で冬芽の観察	27
3. 26	東京薬科大学で早春の草花を観察しよう	講師に筒井先生を迎え、平山城址公園駅前に集合、東薬大の薬用植物園内に咲く、カタクリやアズマイチゲなど早春の野草を観察	32
		参加者数合計	316

4. 環境への取組状況

㊸ ひの・まちの生ごみを考える会

○ 活動目的・活動内容

当会は、家庭の生ごみを可燃として出さずに資源として循環させるしくみを作りたいとの思いから、2002年に発足しました。発足以来、ごみゼロプランに基づき、ごみゼロ推進課と協働で生ごみリサイクルの拡大に取り組んでいます。その中で、下記の「まちの生ごみ活かし隊」「生ごみリサイクルサポーター連絡会」などを立ち上げてきました。

当会は、毎月1回定例会を開き、毎回ごみゼロ推進課の職員も出席して、各団体の活動について情報交換や協議を行っており、協議体の役割を果たしています。また、独自の活動としては、「日野市民フェア」「かわせみ館フェア」等のイベントへの参加、各種講座の実施、講演会開催、日野市のごみ情報誌『エコー』の「市民のページ」の編集、玄関ドアなどに掲示してもらう「生ごみリサイクルステッカー」の配布などを通じて、市民への啓発を行なっています。

＜まちの生ごみ活かし隊＞（詳細は次項参照）

2006年に発足。2008年10月に新井にコミュニティガーデンとして「せせらぎ農園」を開設し、約200世帯から回収した生ごみを畑に直接すき込み、土ごと発酵させて、野菜や草花を栽培しています。

＜生ごみリサイクルサポーター連絡会＞

2009年3月に発足。2011年9月から生ごみを手軽に堆肥化できる「ダンボールコンポスト」（基材は竹パウダー）の販売を開始しました。普及のために、自治会と連携しての講習会に力を入れており、2015年度末までに38ヵ所で講習会を開催し、1,081個を販売しました。また、購入者に対するアフターフォローとして、「交流サロン」（偶数月の第4金曜日13:30～15:00、ひの市民活動支援センターにて）を開催し、『生ごみ菌ちゃん通信』（隔月）を発行しています。さらに、回転市場やイベントなどで展示・実演を行なっています。

○ 人数：11人＋日野市ごみゼロ推進課職員

○ 活動場所：ひの市民活動支援センター（多摩モノレール甲州街道駅より徒歩3分）

○ 連絡先

代表者：佐藤 美千代 電話042-594-0745

ごみゼロ推進課（TEL：042-581-0444）も可

参加募集：常時募集。問い合わせは、ごみゼロ推進課（TEL：042-581-0444）も可。

○ 情報提供方法：ごみ情報誌『エコー』と『ごみ・資源分別カレンダー』の「市民のページ」、『生ごみ菌ちゃん通信』、イベントでの展示・説明、日野市のホームページ。

○ 活動実績：「まちの生ごみ活かし隊」と「生ごみリサイクルサポーター連絡会」の活動を除いた、主な独自活動のみ掲載。

実施日	テーマ	目的・内容	参加人数
毎月第4金曜日	定例会議	活動報告と活動計画の検討	毎回10人前後
2015. 4. 4～4. 9	かわせみ館フェア参加	ダンボールコンポストの展示	—
9. 2	3回連続講座「菌ちゃん野菜作り教室」第1回開催	講師：吉田俊道氏 生ごみ堆肥と草堆肥の実践・講義	20
10. 16	3回連続講座 第2回開催	1ヶ月後の確認及び種まき実践・講義	20
10. 18	日野市民フェア参加	ダンボールコンポストの展示・説明	—
2016. 1. 30	後藤逸男氏講演会開催	生ごみを使った土づくり・野菜づくり	36
2. 15	熊谷清掃社・久喜宮代衛生組合見学	HDM 生ごみ処理システム見学	20
2. 22	3回連続講座 第3回開催	野菜の収穫及び食べ比べ・講義	20
3. 19	服部美佐子氏講演会開催	韓国とドイツに学ぶごみ減量	25
2015. 9. 2、9. 7～9. 10、10. 6 2016. 2. 22	市内11幼稚園での食育講座	講師：吉田俊道氏 生ごみでの菌ちゃん野菜作り講座 園児には体験講座、保護者向けには食育講座	園児823、保護者・見学者196、支援者44

② まちの生ごみ活かし隊

○ 活動目的・活動内容

日野第八小学校区約 200 世帯の生ごみを回収してコミュニティガーデン「せせらぎ農園」で堆肥化し、野菜や花を育てることで年間約 30 トン以上の生ごみを減量しています。農体験を通じた食育や環境教育も行なっており、年間延べ 5000 人が訪れる生ごみリサイクル情報発信の場となっています。27 年度より田んぼの復活。毎月 1 回「キョテン 107」にてエコサロン「おひさまカフェ」をスタート。幼稚園などにも出張して生ごみを使用した菌ちゃん野菜作りをサポートし、畑とお腹(腸)の微生物の働きを関連づけた食育活動を推進しています。

○ 人 数:農園登録メンバー:149 人・生ごみ回収参加者会員:176 世帯

○ 活動場所:「せせらぎ農園」 連絡先:佐藤 美千代 (TEL:042-594-0745)

○ 情報提供方法:ホームページ <http://ikasitai/info/>

ブログ <http://ikasitai.at.webry.info/>

○ 活動実績

2015 年度	農作業		来訪者 (人)	生ごみ回収・投入作業以外の主な活動 (食育・環境教育・生ごみリサイクル授業など)
	活動日	参加人数		
4 月	19	238	92	・第五幼稚園とジャガイモ草取り・田起こし
5 月	26	222	499	・みさわ児童館/みさわ保育園/第五幼稚園とジャガイモ草取り・サツマイモ植え付け・天ぷらパーティ ・田んぼ荒代掻き
6 月	22	378	323	・みさわ児童館とタマネギ収穫・みさわ保育園/児童館/第五幼稚園とジャガイモ収穫祭・田んぼ畔塗り・田植え
7 月	20	241	78	・みさわ保育園/児童館とサツマイモ草取り・バジルソース作り・田んぼ草取り・万願寺交流センター子ども祭り参加・落川交流センター防災炊き出し・クリーンセンターごみ探検
8 月	18	153	16	
9 月	17	195	166	・みさわ児童館/みさわ保育園と草取り ・市内 9 幼稚園(百草台・みのり・第五・多摩平・第四・ふたば・第七・第二・第三)にて菌ちゃん野菜作り
10 月	20	251	547	・シソの実漬け作り・だいすき日野市民フェア参加 ・みさわ児童館/みさわ保育園と共催でサツマイモ収穫祭 ・杉野幼稚園にて菌ちゃん野菜作り
11 月	18	180	202	・南新井自治会と里いも収穫祭・ごみゼロ収穫祭・第五幼稚園大根収穫とたくあん作り・みさわ保育園と宝探し
12 月	16	236	94	・みさわ保育園麦踏みと落ち葉堆肥・望年会
1 月	14	172	26	・七草がゆづくり・燻製づくり・みさわ保育園/京王キッズと麦踏み宝探し
2 月	12	167	120	・たこ焼きパーティー・第七幼稚園サポート ・わかくさ幼稚園にて菌ちゃん野菜作り
3 月	17	247	298	・第五幼稚園/みさわ保育園/京王キッズとジャガイモ植え付け・第七幼稚園土づくり・青年会議所ファンラン給菜所
合計	219 日	2,680	2,461	
総計		5,141		

4. 環境への取組状況

㊸ 比留間塾環境プロジェクトクラブ

- 活動目的・活動内容
小学生及び中学生に環境教育・環境活動の支援を行うとともに、高校生、専門学生、大学生、さらには広く社会人に対して、環境学習の機会を提供します。
- 人数： 確定した人数はいません。
- 活動場所・連絡先： 比留間塾(塾長:比留間文彦)
日野市旭が丘 4-7-5 シティハイツ日野旭が丘 4 号棟 510 号室
TEL:042-584-0900 FAX:042-581-9909
- 情報提供方法：環境学習、セミナーなど
- 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 4. 7 ~ 7.28	公害論Ⅰについて	公害論についての講義を行なった。 大学生を対象	300
2015. 9. 1 ~ 2016. 1.26	公害論Ⅱについて	公害論についての講義を行なった。 大学生を対象	300
2015. 11. 23	第1回環境学懇談会	環境学についての懇談会を行なった。 社会人を対象(山梨県上野原市)	10
2016. 2. 4	第2回環境学懇談会	環境学についての懇談会を行なった。 社会人を対象(山梨県上野原市)	40
3. 8	第3回環境学懇談会	環境学についての懇談会を行なった。 社会人を対象(山梨県上野原市)	20

㊸ ふだん着で CO₂ をへらそう事業

○ 活動目的

ふだん着で CO₂ をへらそう事業は、二酸化炭素(CO₂)を削減し、次世代へふるさとひのを引き継ぐと、市民、関係団体、企業、市による「ふだん着で CO₂ をへらそう実行委員会」を立ち上げ、平成 20 年度から全国に先駆けて開始した。

市民や事業所の方々に、ふだんの生活の中で無理なくできる省エネ活動に取り組むことを啓発することで、省エネ行動を全市的な取り組みとし、日野市から排出される CO₂ を削減する事を目的とし、また、省エネ行動に向け、市民や事業所の方々に省エネ行動を宣言するという形で意思表示をしていただいている。

本事業開始時(平成 20 年度)の宣言目標数は一般世帯 35,000 世帯、事業所 2,500 事業所であったが、これまでに目標数を大きく超える 40,778 世帯、2,553 事業所からの宣言が集っている。(平成 28 年 3 月末現在)今後も引き続き普及啓発を行うことで、省エネ行動の定着を図っていく。

○平成 27 年度の主な活動内容

・事業の PR 活動

市内及び各地で開催されたイベント等に参加し、日野市・ふだん着事業及びキャラクターの PR を行った。



日野市エコキャラクター
エコクマ・エコアラ

・子ども関連施設での環境学習(小学校 4 校、幼稚園・保育園 26 園)

・日野市環境フェアの開催(産業まつりと同時開催)

環境フェア式典、環境かるた大会(個人戦)、ご当地キャラ大集合

・環境かるた事業

地球温暖化を防止するため、私たちの暮らし方を見直し、地球温暖化の原因とされている CO₂ の排出量を少しでも抑えるために、市内の多くの小学生から環境かるたの標語を募集し、環境かるたを作成した。また、環境かるた大会(個人戦・団体戦)を開催した。

(1) 市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況



・キャラクターを用いた物品の販売事業

エコクマ・エコアラのキャラクターを用いた物品を製作・販売し、地球温暖化対策に向けた省エネ行動を広く PR した。(日野市役所環境保全課にて販売中)

㊦ 程久保川を考える会

○ 活動目的・活動内容

水源から浅川との合流まで日野市内で終結する程久保川を身近な川として親しんでほしく、まず汚れていた川を何とかしたいということで始めました。どれだけ汚れているかを知る為の水質検査、そしてごみ拾いを行なっています。

○ 人 数:8 人

○ 活動場所:程久保川

○ 連絡先:日野市三沢 850-4-201「程久保川を考える会」藤村

○ 情報提供方法:クリーンデーは日野市の広報に出しています。

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
5月・10月	クリーンデー	年2回ですが、川の中に下りてのごみ拾いです。	ボランティア 40～60
毎月(第2か第3) 水曜日	水質検査	どれだけ汚れているか、人が入って大丈夫かが 気になり、5ヶ所を検査。	会員 4

㊧ 南丘雑木林を愛する会

○ 活動目的・活動内容

日野市の雑木林を守るため、市民と行政との協働で開催している「日野市雑木林ボランティア講座」の卒業生を中心に、“明るく健全な雑木林を次世代に”をスローガンに2007年にスタートした雑木林を守るボランティア団体です。

南平丘陵公園を拠点に、雑木林の下草刈り、粗朶(そだ)柵作り、萌芽更新(ほうがこうしん)作業等を中心に活動しています。チェーンソーや刈り払機の使用に際しては、会員を積極的に安全講習会に派遣し、専門的な技術を習得しています。また、イギリスの BTCV(British Trust for Conservation Volunteers)のように、近隣の雑木林や他の団体などに、応援ボランティアを派遣できる成熟した団体を目標に活動しています。

「ボランティアは人のためにやるのではなく、自分のために(目的意識のため)活動するものです。」を合言葉に楽しい汗をかいています。

○ 会 員 数:34 人

○ 活動場所:南平丘陵公園、近隣の雑木林など

○ 代表者:橋本 幸久

4. 環境への取組状況

- 連絡 先:事務局 笹木 延吉 TEL:042-642-0422
- 活動 日:毎月第二日曜日、第四木曜日(9:00～15:00)
- 活動実績

実施日	活動内容	場所	参加人数
2015. 4. 12	新入生紹介、植物班の報告、四つ目垣	南平丘陵公園	24
4. 23	四つ目垣	南平丘陵公園	16
5. 10	総会、バーベキュー	南平丘陵公園	26
5. 28	枯損木伐採、チェーンソー分解清掃	南平丘陵公園隣	11
6. 14	四つ目垣	南平丘陵公園隣	20
6. 25	原課長と意見交換、四つ目垣	南平丘陵公園隣	11
7. 12	愛宕山応援ボランティア	愛宕山	17
6. 23	瓢箪池の整備、安全管理等話し合い	南平丘陵公園	13
6. 30	日野工業高等学園ボランティア指導	南平丘陵公園	110
9. 13	ススキ刈り、シラカシの剪定	南平丘陵公園	18
9. 19	学習会「虫や風を利用する花たち」	ウイング	30
9. 24	階段設置工	南平丘陵公園	11
10. 11	植物勉強会	南平丘陵公園	15
10. 22	道路づくり	南平丘陵公園	9
10. 24	「里山づくり」倉本明大教授	南平丘陵公園	30
11. 8	チェーンソーのメンテナンス	南平丘陵公園	13
11. 26	話し合い	南平丘陵公園	7
12. 13	道路づくり、ほだ木づくり	南平丘陵公園	19
12. 8	忘年会		
12. 24	「丘陵の公園の昆虫」森川氏講義	南平丘陵公園	18
2016. 1. 10	萌芽更新、ほだ木づくり	南平丘陵公園	18
1. 28	イヌシデの大木伐採、たま切り練習	南平丘陵公園	13
2. 14	萌芽更新、ほだ木づくり	南平丘陵公園	16
2. 25	ほだ木づくり	南平丘陵公園	11
3. 13	さつきの移植	南平丘陵公園	20
3. 24	チェーンソーの講習会(やまびこ)	南平丘陵公園	10

㊸ 水と緑の日野・市民ネットワーク

○ 活動目的・活動内容

緑や水の保全・育成等を行っている市民団体等が情報を共有し、「団体相互が緩やかに有機的に連携・協力することにより、日野市の水と緑を守り、育て、次世代へ引き継いでいく。」ことを目的として、様々な実践活動を推進していく協力体です。環境保全に携わる人材育成事業として雑木林ボランティア講座を2005年度から、地球環境を正しく知ることを通して、地球規模の環境をみんなで考えていく「市民環境大学」を2009年度から開講しました。

○ 参加団体:11団体

○ 活動場所:日野市内

○ 代表者:会長 飯島 利三

○ 連絡 先:事務局 日野市緑と清流課 TEL:042-585-1111

日野市環境情報センター TEL:042-581-1164

(1)市民及び市民・行政との協働による環境への取組状況

○ 活動実績

雑木林ボランティア講座

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 5. 16	講座 1 開校式・講義	日野の自然環境 講師:杉浦 忠機氏(日野の自然を守る会) 講師:原 正明氏(日野市緑と清流課)	29
6. 20	講座 2 視察	市内の緑地めぐり	26
7. 18	講座 3 実習	正しい道具の使い方(鎌、のこぎり他)	28
9. 19	講座 4 講義	雑木林の植物 講師:田中 肇氏 (フラワーエコロジスト)	23
10. 24	講座 5 講義	里山づくり 講師:倉本 宣氏 (明治大学農学部教授)	26
11. 21	講座 6 見学・体験	明治大学黒川農場見学と下草刈り実習 講師:倉本 宣氏(明治大学農学部教授)	17
12. 19	講座 7 実習	刈払い機の実習、落ち葉かき、腐葉土づくり 講師:飯島 利三氏(水と緑の日野・市民ネットワーク)	22
2016. 1. 30	講座 8 実習	チェーンソーの安全管理、使い方実習	25
2. 20	講座 9 実習 (雨天中止)	萌芽更新作業・粗朶柵処理の実習	—
3. 19	講座 10 実習・修了式	椎茸のほだ木作り実習・修了証授与	25

市民環境大学

実施日	回数	目的・対象・内容	参加人数
2015. 5. 7	前期①	地球環境問題の概要	19
5. 14	前期②	炭素・窒素の循環	18
5. 21	前期③	地球温暖化	16
5. 28	前期④	温暖化の影響	18
6. 4	前期⑤	ヒートアイランド現象	20
6. 11	前期⑥	水の文化と特性	18
6. 18	前期⑦	水の循環	16
6. 25	前期⑧	水資源、仮想水	18
7. 2	前期⑨	公開講座(谷仲山の水と緑)	19
7. 9	前期⑩	前期のまとめと討議	18
10. 8	後期①	水質汚染	17
10. 15	後期②	富栄養化	18
10. 22	後期③	地下水汚染	15
10. 29	後期④	降水のメカニズム	11
11. 5	後期⑤	大気汚染と雨の組成	14
11. 12	後期⑥	酸性雨	18
11. 19	後期⑦	酸性雨の生態系影響	17
11. 26	後期⑧	オゾン層の破壊	17
12. 3	後期⑨	公開講座(向島用水の水と緑)	20
12. 10	後期⑩	地球環境問題の総括と討議	16

4. 環境への取組状況

市民環境大学 OB 会（環境学習会）

実施日	テーマ	参加人数
2015. 4. 16	黒川清流公園観察	13
5. 21	環境学習会(水、大気、緑)	15
6. 18	学習会(日野の環境と地名)	13
7. 16	環境学習会(水、大気、緑)	7
8. 20	環境学習会(水、大気、緑)	11
9. 17	環境学習会(水、大気、緑)	11
10. 15	環境学習会(水、大気、緑)	11
11. 19	学習会(日野用水調査結果)	12
12. 17	環境学習会(水、大気、緑) (第7期市民大学修了生参加)	17
2016. 1. 21	環境学習会(水、大気、緑)	15
2. 18	環境学習会(水、大気、緑)	18
3. 17	環境学習会(水、大気、緑)	10

市民環境大学OB会（空間放射線量測定）

実施日	場所	参加人数
2015. 4. 23	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	8
4. 23	市役所周辺 6 地点	8
5. 28	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	7
5. 28	市役所周辺 6 地点	7
6. 25	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	8
6. 25	市役所周辺 6 地点	8
7. 23	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	8
7. 23	市役所周辺 6 地点	8
8. 27	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	7
8. 27	市役所周辺 6 地点	7
9. 17	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	11
9. 17	市役所周辺 6 地点	11
10. 22	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	5
10. 22	市役所周辺 6 地点	5
11. 26	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	6
11. 26	市役所周辺 6 地点	6
12. 24	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	8
12. 24	市役所周辺 6 地点	8
2016. 1. 28	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	8
1. 28	市役所周辺 6 地点	8
2. 25	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	8
2. 25	市役所周辺 6 地点	8
3. 24	仲田小、多摩川堤防周辺 7 地点	8
3. 24	市役所周辺 6 地点	8

その他

実施日	目 的	内 容	参加人数
2015. 6. 7	身近な水環境の全国一斉調査に参加	浅川、程久保川、豊田用水の水質検査 (全国水環境マップ実行委員会)	-
9. 26	シンポジウム「黒川清流公園の自然・シリーズ③生き物たち」	講師:金子 凱彦氏(日野の自然を守る会) 講師:森川 正昭氏(日野の自然を守る会) 講師:古田 慎二氏(日野の自然を守る会) 於 多摩平の森ふれあい館	60

③〇 南平・緑と水のネットワーク

○ 活動目的・活動内容

当会は2012年「南平駅前や周辺の用水沿いを緑豊かな水辺にしたい」という住民の提案でスタートしました。

地域住民・行政・法政大学エコ地域デザイン研究所の協力を得て、ワークショップや勉強会を開催。緑化計画案を作成し、都市緑化機構の「緑の環境デザイン賞」に応募したところ、見事国土交通大臣賞を受賞し、整備費用の助成を受けることができました。

現在は南平地域で定期的な活動を行なっています。会の目的は、地域の特徴である用水など歴史的環境資源を守りつなげ、またその過程で南平のまちを再発見し、安心して安全な、南平らしい豊かな暮らしを目指すことです。

○ 人 数:活動参加者 83人 どなたでも参加自由なオープンな会です

○ 活動場所:南平児童館、南平駅周辺用水路沿い

○ 代表者:清水 守男

○ 連絡先:みなみだいら児童館ぷらねっと(館長:梅崎 満州夫) TEL:042-599-0166

○ 情報提供方法:自治会回覧、市の掲示板、ぷらねっとたより、市内団体掲示板HiKnow!

Facebookページ(アカウントがなくても閲覧可能)、Jcom番組他

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的 内容等	参加人数
2015. 4. 4	まち歩き	まち歩きルートにて、活動説明	24
4. 5	野点・南平の四季	南平高校茶道部と児童館で野点開催 地域・学校との交流	52
4. 26	4月定例会	定例の清掃・除草・植栽手入れ 花オクラ種まき講習	18
5. 24	まほうの草で遊ぼう	“みなみだいら児童館ぷらねっとまつり”に参加	77
5. 31	5月定例会	定例除草・ラッピング・育て方講習、花オクラ苗の配布	27
6. 1	夏の植栽植え付け	植え付け	4
6. 28	6月定例会	定例清掃・除草・植栽手入れ	12
6. 28	学習会	「活動の課題と広がりについて」	14
7. 25	7月定例会	定例清掃・除草・植栽手入れ	10
7. 25	自然観察会(植物と生き物)	町中・用水路の自然観察(植物と生き物)	10
8. 29	用水守懇談会	日野市緑と清流課主催。行政・関係団体等の情報交換	2
8. 30	8月定例会	定例清掃・除草・植栽手入れ	9
8. 30	収穫のおすそ分け	みなみだいら児童館ぷらねっとの、夕涼み会に参加	99
9. 20	植え付け講習会	植え付け(さんかく花壇の緑地再生)講習会	12
9. 27	9月定例会	定例清掃・除草・植栽手入れ・床づくり	9
10. 25	10月定例会	定例清掃・除草・植栽手入れ・剪定講習会	11
11. 29	11月定例会	定例清掃・除草・植栽手入れ・緑地再生講習会	17
12. 12	自然観察会準備	除草・クラフトづくり打ち合わせ・準備	8
12. 13	自然観察会(クラフト作り)	みなみだいら児童館ぷらねっとで、冬のクラフト作り	19
2016. 1. 25	1月定例会	植栽手入れ・来年度企画会議	11
2. 28	2月定例会	植え付け・植栽手入れ、来年度企画会議	7
3. 28	3月定例会	年間企画確認・定例清掃・植え付け・野点準備	10

※この他に、七生中地区地域懇談会等に参加しています。

4. 環境への取組状況

㊼ 百草山の自然と文化財を守る会

○ 活動目的

多摩丘陵の一角、日野市百草山の自然を保全し、そのなかに含まれる古代・中世寺院跡(真慈悲寺)などの遺跡の調査・保全を目指しています。

○ 現在までの活動内容

- ・百草山斜面の開発抑制のための署名活動
- ・百草山の散策イベントの実施
- ・百草山の文化財調査
- ・市と協力して三沢中学校区探検隊を組織して散策マップを作成
- ・百草山の清掃活動(西斜面<三沢>の周辺)
- ・現在は、倉沢里山を愛する会、幻の真慈悲寺調査の会と合流して、日常活動をしている
- ・百草山の一角の大規模墓地開発計画を中止させた募金活動
- ・百草山の一角、真堂が谷戸の市の買い取りを求める募金活動

○ 設立年月日: 1995年(平成7年)11月3日

○ 代表者名: 峰岸 純夫

○ 活動場所: 日野市百草山

○ 活動日: 特定せず、随時活動

○ 活動日: 若干名(中心層 60~70代)

○ 活動日: 若干名(中心層 60~70代)

○ 募集: 無

○ 連絡先: 峰岸 純夫 住所: 日野市百草971-250 TEL:042-591-0605 FAX:042-591-0605

E-mail:mime3gisi2@ab.auone-net.jp

五十子 満大 住所: 日野市百草971-250 TEL:042-591-6086 FAX:042-591-6086

E-mail:ablamenroku@yahoo.co.jp

㊽ みずとくらす・ひの

○ 活動目的・活動内容

2013年度にスタートした「水辺のある風景日野50選プロジェクト」は、市民、行政職員、法政大学エコ地域デザイン研究所メンバーによるワーキンググループにより水辺の選定などを行いました。2014年度は市内小、中学校や選定された場所の所有者や関係者への選定書の配布などを行いました。2015年度は選定された水辺への標識設置プロジェクトを行なっています。2015年にワーキンググループは市民団体「みずとくらす・ひの」としてとして再スタートし、行政などと連携しながら水辺を後世に残すための活動を行なっています。

○ 人数: 25人

○ 活動場所: 主に日野市内

○ 代表者: 井上 博司

○ 連絡先: 090-8024-7933(井上)

○ 情報提供: web Facebook -水辺のある風景 日野50選-

○ 活動実績

<東光寺小学校(6年生全員) 水辺の案内オブジェづくり>

- ・期間: 2015年5月~2016年1月
- ・設置箇所: 水車堀公園、よそう森公園、日野用水上堰及び下堰
- ・作成方法: 水辺学習の後、児童がそれぞれの水辺で見たものの発見したものを描いた作品(木の絵札)を多摩平産の標柱に貼り付け作成

<七生緑小学校(6年生全員) 水辺の案内オブジェづくり>

- ・期間: 2015年10月~2016年3月
- ・設置箇所: 小沢緑地、真堂が谷戸、倉沢の田んぼのある風景

- ・作成方法:水辺学習の後、児童がそれぞれの水辺で見たものの発見したものを描いた陶板を作成してもらい、多摩平産の標柱に貼り付け作成

〈七生中学校(3年生有志) 水辺の案内オブジェづくり〉

- ・期間:2016年2月～3月
- ・設置個所:七生中学校自噴井(七生中学校南東角植え込み内)
- ・作成方法:多摩平産の標柱に七生の自然や校内の湧水をイメージし絵を描いた

〈その他〉

2016年2月11日 水車掘公園(東光寺小学校)水辺の案内オブジェお披露目式

2016年3月11日 第一小学校 水辺の学習授業(5年生)「日野の用水のこと知ってる?」

2016年3月16日 七生中学校自噴井(七生中) 水辺の案内オブジェお披露目式

2016年3月16日 小沢緑地、真堂が谷戸、倉沢の田んぼのある風景(七生緑小)
水辺の案内オブジェ巡り

③ 緑地管理ボランティアの会

○ 活動目的・活動内容

日野東光寺緑地保全地域の植生と風景を豊かにするため、手入れを行い、崖線の緑を永く保存し、明るい雑木林として維持するために緑地保全等を継続して行なっています。

2010年度からは明星大学の緑地保全活動サークル「クローバー」の学生とも一緒に活動し、同校のグリーン・キャンパス・プログラムの事業も実施、指導しています。

主な活動項目

- ・下草刈り、間伐、除伐、枯損木処理、剪定、枝打
- ・竹林の管理
- ・特殊植物保護、植生調査、清掃活動
- ・学校との社会貢献活動の協働
- ・東京都及び日野市と保全計画の協働策定

○ 人数:30人

○ 活動場所:日野東光寺緑地保全地域、東光寺第1,2緑地

○ 連絡先:小太刀 智明 E-mail:tweety-satopi@u01.gate01.com

○ 情報提供・参加募集方法等: 東京都ウェブサイト「里山へGO!」・清流ニュース・チラシ、大学内情報誌・など

○ 活動実績

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 5. 10	竹の植生管理	筍と竹の調整・伐採、間引き	17
5. 24	笹・下草刈り	笹・草刈り、筍の調整・伐採、間引き	7
6. 13	竹の植生管理	筍の調整・伐採、間引き	7
6. 28	除伐・間伐	竹伐採・枯損木伐採・特定外来種除去	8
8. 2、8. 16	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	延 13
9. 6	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	10
9. 27、10. 4	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採	延 16
10. 18	自立と協働 (一年生必修授業)	グリーン・キャンパス・プログラム (竹伐採・草刈り)	54
11. 1	笹・下草刈り	笹刈り、常緑樹伐採、灌木処理	5
12. 6	除伐・間伐	竹伐採・常緑樹伐採	9
2016. 1. 24	除伐・剪定	常緑樹伐採・障害木剪定	6
2. 7、3. 8	竹林整備	竹の間伐	延 16

4. 環境への取組状況

(2) 行政による環境への取組状況

郷土資料館（日野市程久保 550 TEL:042-592-0981）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 4. 18 ～ 7. 12	企画展「どっき土器展～掘り出された昔の暮らし～」	市内から発掘された土器や石器、木製品や鉄製の道具を展示。自然とともに生きた大昔の暮らしを紹介。	341
2015. 5. 9 ～ 7. 18	農業体験講座 「親子でスイカ・マクワウリを作ろう」（公民館と共催）	親子を対象とした農業体験。農作業をとおして、地球環境や自然に触れ、緑化の一步に貢献。食べ物のできる仕組み、食べ物大切さを学んだ。	85
2015. 11. 14 ～2016. 1. 16	農業体験講座 「親子で楽しむ豆腐作り」（公民館と共催）	上記と同様の親子を対象とした農業体験。さらに、収穫物で豆腐作りを行なった。	48
2015. 7. 18 ～ 10. 4	企画展「日野市内の自然をさぐる」	多摩川・浅川で発見のアケボノゾウやヒノクジラや貝などの化石、動植物などの標本や写真など自然環境豊かな市内の自然を紹介した。	267
2015. 7. 25、 8. 22	体験学習会「石田散薬を作ろう」	用水沿いに生えるミゾソバを採取し、ほうろくで黒焼きして薬研で粉薬にした。野草を用いた土方歳三家に伝わる家伝薬を再現した。	50
2015. 12. 12	体験学習会「お正月飾りを作ろう」	日野の年中行事を体験する講座として、正月飾りのしめ縄を作成した。主食である稲の藁を活用することが、当たり前だった頃の生活を考える機会となった。	20
2016. 1. 11	どんど焼き	人々の健康を願う小正月の火祭り行事。茅で作った小屋とともに正月飾りなどを燃やす。家族連れも多く参加した。	562
2016. 1. 14 ～ 2. 12	パネル展「七生丘陵散策コースの昔と今」	かつての七生散策コースや周辺の歴史や現在の様子を紹介する展示。高幡不動駅の通路の通行者が対象のため、巡回時の確認人数のみ。	566
2016. 3. 12	体験学習会「化石でたどる大昔の日野」	多摩川の河川敷で見られる化石を含む地層の観察会を行なった。過去環境変化を学び、自然の不思議さを伝えた。	19
2016. 3. 26	体験講座「昔の野猿峠ハイキングコースを歩く」	高幡不動から八王子の野猿峠へ至るハイキングコースのうち、日野市内を中心にコースの歴史、自然、見晴しを楽しんだ。	39
通年	七生丘陵の自然と歴史調査	人の暮らしと自然とのかかわりを調査し、散策会やパネル展示などの普及活動も行なった。市民との協働調査。	426
通年	幻の真慈悲寺調査研究事業	中世に存在した大寺院「真慈悲寺」の調査、研究と共に、緑地の紹介や保全に貢献。また、百草里山ミュージアム構想の地域内にあり、環境保護にも意識して取り組んだ。市民との協働調査。	1, 296

(2) 行政による環境への取組状況

ごみゼロ推進課（クリーンセンター 日野市石田 1-210-2 TEL:042-581-0444）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 7. 9 ～7. 10	職場体験	三沢中	4
2015. 9. 10 ～9. 11	職場体験	平山中	4
2015. 9. 17 ～9. 18	職場体験	日野第四中	2
通年	クリーンセンター施設見学	日野第一小、豊田小、日野第三小、日野第四小、日野第六小、日野第七小、日野第八小、日野第五小、仲田小、夢が丘小、七生緑小、潤徳小、J I C A、自治会・ごみゼロ推進員ほか	1, 501
通年	講師派遣出前講座	豊田小、日野第四小、日野第五小、日野第六小、日野第八小、潤徳小、東光寺小、仲田小、夢が丘小、七生緑小、たかはた台保育園、たまだいら保育園、ひらやま保育園、みなみだいら保育園、もぐさ台保育園、つくしんぼ保育園、芝原保育園、みさわ保育園、至誠いしだ保育園、しんさかした保育園、むこうじま保育園、日野第二保育園、あさひがおか保育園、かわせみ保育園、栄光平山台保育園、第五幼稚園、日野しらゆり幼稚園、杉野幼稚園ほか	2, 769
通年	清掃活動	三沢中、日野高、日野第一中、日野第二中、日野第四中、平山中	2, 500

環境保全課（市役所 3 階 TEL:042-585-1111 内線 3511～3512、3521～3522）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 5. 19	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化	12
5. 31	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	16, 420 (276 団体)
8. 18	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化	12
11. 14 ～15	環境フェア (産業まつりと同時開催)	生活スタイルの見直しと省エネ行動の実践による CO ₂ 削減を啓発するイベント。省エネの模範的な取組実践者の表彰、市及び大学による CO ₂ 削減の取り組み紹介、マスコットキャラクターによる啓発ショー、環境かるた大会等を開催。	25, 000
11. 17	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化	12
11. 29	市内一斉清掃	まちの環境美化・自治会等地域団体	16, 450 (276 団体)
2016. 2. 10	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化	12
2. 17	喫煙マナーアップキャンペーン	喫煙マナー向上・環境美化	12

4. 環境への取組状況

緑と清流課（市役所 3 階 TEL:042-585-1111 内線 3621）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 4. 1 ～5. 29	緑の募金	事業所、老人クラブ等の団体や個人に緑化推進のため、緑の募金への協力を依頼	—
4. 1～11. 7	第 5 回あさかわ写真コンクール	八王子市との浅川流域連携事業の取り組みの一つ(募集期間 4 月 1 日～8 月 31 日、表彰式 11 月 7 日)	応募総数 432
4. 19	多摩川・浅川クリーン作戦	多摩川・浅川の同時清掃。	2, 023
6. 6	身近な水辺の一斉調査	浅川、多摩川、程久保川及び市内を流れる用水の水質調査（全国水環境マップ実行委員会主催）	95 (浅川流域)
6. 21 ～11. 30	コスモスアベニュー事業	花のまちづくり事業の一環として、浅川スポーツ公園外周で、緑化の推進・普及・啓発のため、市民によるコスモスの種まき及び育成管理を実施 (公財) 日野市環境緑化協会共催	342
6. 25	ホタルの観察会	真堂が谷戸にて実施した市民参加イベント。 ホタルの生態についての座学の後、ホタルの観察を行なった。真堂が谷戸蛸の会との共催。	24
7. 30	子どもの交流事業	八王子市との浅川流域連携事業。浅川が流れつく多摩川干潟での活動を通して、将来の浅川の水辺づくりの担い手となる両市内の小学校 5、6 年生を対象とした交流事業	34
8. 29	用水守懇談会	用水守連絡会、活動内容の報告および意見交換	25
9. 26	シンポジウム 「黒川清流公園」	水と緑の日野・市民ネットワーク主催講演会	60
9. 28 ～10. 24	ミニ水族館開設	市役所 1 階フロアにて実施。	延べ 600
10. 5 ～10. 30	緑と清流ポスター展	市役所 1 階フロアにて実施。展示 250 点 (応募総数 1, 310 点)	延べ 600
10. 18	日野用水クリーンデー	栄町 5 丁目交差点からコープとうきょう日野駅前店までの日野用水(約 2km)の清掃	100
10. 20 ～10. 28	水辺の資料館開設	市役所 101 会議室にて実施。 水辺に関する市民・市民団体の貴重な資料や研究成果と、パネル展示。	100
年間	程久保川クリーンデー	5 月 24 日、10 月 25 日(年間 2 回実施)	100
年間	自然観察会	日野みどりの推進委員会と共催 年間 11 回実施	308
年間	浅川潤徳水辺の楽校行事	浅川・向島親水路を中心に年間 15 回の行事を開催。	800
年間	滝合水辺の楽校行事	4. 8. 11. 2 月実施。	約 200

(2) 行政による環境への取組状況

都市農業振興課（市役所 3 階 TEL:042-585-1111 内線 3411）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015 年度	小学校における日野産大豆栽培体験	食育推進の観点から、市内小学校における日野産大豆栽培を支援する。年度当初に栽培希望校を募集し、種子の配布及び講師の手配等を行う。収穫した大豆は、授業での体験学習（豆腐作り等）及び次年度の種子として活用する。	一小、三小、七小、南平小、夢が丘小他

文化スポーツ課（市役所 3 階 TEL：042-585-1111 内線 3821、3822）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 4. 12 ～2016. 3. 27	さわやかウォーキング及びバスハイキング	さわやかウォーキング及びバスハイキングは市内外各所を巡り、健康増進及び市民の親睦を図ることを目的に実施するウォーキングです。また、四季に応じた自然に親しむコースを取り入れることで、運動を通して市の魅力を発信しています。	400

子育て課（市役所 2 階 TEL:042-585-1111 内線 2517）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 7. 29	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	40
8. 6	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	40
8. 24	自然の中で遊ぼう	檜原村「都民の森」を散策し、自然観察・木工を行う 小学校 3 年生～小学校 6 年生 小動物・昆虫・植物の観察、木工	39
6. 7～12. 20	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 小学校 5 年生～中学校 3 年生 野外炊飯・テント泊・キャンプファイヤー	延べ 697
7. 18～ 8. 31	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 市内の子ども 子どもたちが自発的に活動やルールを創出した中での遊びや体験、キャンプ活動ほか 野外炊飯・キャンプファイヤー	延べ 1,158
11. 28	自然の中で遊ぼう	緑の大切さを感じる 市内の子ども たき火、焼き芋、工作、ネイチャーゲーム	約 1,000

4. 環境への取組状況

中央公民館（日野市日野本町 7-5-23 TEL:042-581-7580）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2015. 4. 25 ～12. 5	田んぼの学校	水田での稲作りを通じて日野市の農業、環境、地域コミュニティを考える。	605
5. 9 ～8. 1 (全 4 回)	農業体験講座 親子でスイカ・マクワウリを作ろう(郷土資料館と共催)	親子で土に触れ、土を楽しみ、食物を育てることで、自然と人間との共生、人間相互の共生を図る。スイカとマクワウリを育て、収穫する。	85
2015. 11. 14 ～2016. 1. 16 (全 3 回)	親子で楽しむ豆腐作り～大豆の収穫から始めよう(郷土資料館と共催)	親子で土に触れ、土を楽しみ、食物を育てることで、自然と人間との共生、人間相互の共生を図る。大豆を育て、収穫し、豆腐をつくる。	48
2016. 1. 23 ～2. 6 (全 3 回)	家庭菜園栽培管理のコツ	食物を育てるための家庭菜園の栽培管理を通じて、自然と人間との共生、人間相互の共生について学ぶ。	57
2. 13 ～2. 27 (全 3 回)	日野の生きもの～最近のトピックス 1、植物編 2、昆虫編 3、野鳥編	一般市民を対象に、植物・昆虫・野鳥からみた日野の自然を学ぶ。	63

地域協働課（日野市生活・保健センター 日野市日野本町 1-6-2 TEL:042-581-4112）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 2. 17	電気の小売自由化と消費者としての留意点	2016年4月から始まる電力の小売り(販売)完全自由化を踏まえ、契約当事者(消費者)としてどのような点に留意する必要があるのか、制度の概要や事業者を選択する具体的なメリットやリスクについて学ぶ。 くらしの輪連絡会、ひの市民活動団体連絡会参加団体対象	23

生涯学習課（市役所 5 階 TEL:042-585-1111 内線 5311、5312）

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数
2016. 1. 11	成人式	新成人対象。配布プログラムに市の環境保全イメージキャラクターを紹介。	1, 132

(2) 行政による環境への取組状況

(公財) 日野市環境緑化協会 (日野市神明 2-13-1 TEL:042-585-4740)

実施日	テーマ	目的・対象・内容	参加人数等
2015. 4. 25	緑のリサイクル	市民から提供された植物を配布 提供者 29 名、合計 965 点を配布	受領者 392
5 月	ガーデニングコンテスト	市民からガーデニング作品を募集 一次審査 (写真) : 5 月 15 日 二次審査 (現地) : 5 月 19 日 を行い、入選者 4 件を選出	応募件数 11 件
5. 26 ~ 6. 9	ガーデニングコンテスト 写真展	市役所、市民ホールにてガーデニングコンテスト応募者全員の写真を展示	-
7. 18	子ども昆虫教室	市内の小学生を対象に昆虫の話や標本観察、屋外での昆虫採集を実施	8
9. 25	カサギク貴重品種の配布	日野市だけが継承しているカサギクの貴重品種「白多摩・黄多摩」をプランターに植付け、観賞用として小中学校等の公共施設に配布	34 箇所
11. 2 ~ 11. 12	配布苗 : 菊花コンテスト	市役所庁舎前、市民プラザにて実施。表彰式はひの煉瓦ホールにてポットマム、スプレー菊、大菊の種別別に合計 23 点を表彰 (応募数) ・市民一般の部 合計 51 鉢 ・老人クラブの部 合計 110 鉢 ・小学校の部 合計 100 鉢 ・大菊の部 合計 33 鉢	(苗配布) 8,206 株 (個人・団体含む)
12. 15 ~ 12. 24	緑の写真展	市役所、市民ホールにて実施。 テーマ 1 「日野の四季」 9 点 テーマ 2 「わが家の緑」 3 点を展示	応募者 4
12 月	作文集「緑のまち」発行	市内小学校 4・6 年生を対象に環境に関する作文を募集して審査を行い、入選作 106 編及びカット入選 59 作品を掲載した作文集を発行	応募総数 2,498 編
2016. 3. 26 ~ 3. 27	第 14 回スプリングフェスタひの	実行委員会と共催で開催	来場者 5,000
通年	緑化講習会	○大菊の育て方講習会 7 月 23 日 ○ポットマム・スプレー菊の育て方講習会 8 月 6 日 ○庭木の手入れ講習会 10 月 8 日 ○稲わら竹細工講習会 12 月 17 日 ○春の草花・家庭果樹の管理講習会 2 月 4 日 ○ガーデニング講習会 3 月 10 日	合計 199

4. 環境への取組状況

(3) 学校等による環境への取組状況

小学校における環境教育の取り組み

学 校 名	取 組 状 況
日野第一小学校	○自然園の池(ビオトープ)を活用した体験学習 ○社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間等での環境学習 ○稲、大豆、トマト、ジャガイモ、野菜等の栽培 ○トライ&チャレンジで校庭及び自然園の清掃による環境整備とごみリサイクル運動の取り組み ○緑と清流ポスター、ごみゼロポスターへの応募 ○年間をととして、全校でのひのっ子エコアクションへの取り組み ○クリーンセンターの見学及び出前授業の実施 ○ダンディークai主催による環境整備(大木せん定、池、側溝の清掃)
豊 田 小 学 校	○ひのっ子エコアクションへの積極的な取り組み(全校)例:クリーン作戦に向けての標語作成やポスター作成、毎月、生活安全朝会にて、ごみ・石・落ち葉拾いを実施 ○西校舎の壁にゴーヤの緑のカーテンを張り、節電と緑化について考えた(3年生) ○クリーンセンターへ行き、ごみの処理について学んだ(4年生) ○第二校庭で湧水を利用した米作りを行なった (5年生) ○保健委員会で、節水について啓発するポスター掲示を行い、意識付けを行なった ○給食委員会が、給食を残さずに食べることを呼びかけ、残菜調べを行なった
日野第三小学校	○電力や水の無駄遣いを防ぐために、全学級でエコを呼びかけるエコ係を設定している。 ○エコ係の意欲を高めるために、エコ活動の呼びかけ役となってエコ集会を実施した。 ○中庭にビオトープと緑地があり、子供たちが緑を通年感じられるように環境に配慮している。 ○中庭の教室には、緑のカーテンを外から複数設置するようにした。 ○飼育・栽培委員会の常時活動として、花壇の手入れをし、緑を大切に活動に取り組んでいる。 ○地域の環境に目を向けるきっかけとして、全学年でふるさと学習を展開している。 ○各学年の畑を設定し、学年で必ず畑で作物を育てる活動を行なった。
日野第四小学校	○外部講師と連携した環境教育(5年生) ○美化委員会によるごみの分別点検 ○環境委員会によるごみの分別を呼びかけるポスターの制作 ○ごみの減量(食べ残しを減らす、裏紙を積極的に使う) ○ごみゼロ大作戦ポスターコンクールへの参加 ○緑と清流ポスターコンクールへの参加 ○クリーンセンター見学(4年生) ○水道キャラバンの学習(4年生) ○毎月のエコアクションの振り返り(節電、節水など)
日野第五小学校	○「廃棄物ゼロ」「無駄ゼロ」に向けての取り組み ○エコキングへの参加 ○落ち葉集め ○ひのっ子エコアクションへの取り組み ○ごみの分別とリサイクル ○アサガオのリース作り(1年生) ○図工等で画用紙の切れ端・裏紙の利用(1・2年生) ○トマトの栽培(2年生) ○蝶を来させるためのキャベツの栽培(3年生) ○農家見学(3年生) ○緑のカーテンの実施(4年生) ○クリーンセンターでのごみ処理を見学し、自分でできることを考える(4年生) ○家庭科で、家庭で育てる野菜の切れ端(捨てる部分)の再利用を考え、実施(5年生) ○稲作(5年生) ○理科や家庭科を通して、温暖化等環境のことについての学習(4・5・6年生)
日野第六小学校	○全校児童によるトライ&チャレンジ(校庭、地域の清掃活動) ○全校児童による菊の栽培 ○ひのっ子エコアクション振り返りシート記入 ○エコ壁新聞やエコポスター等各種コンクールへの応募 ○給食の食べ残しを減らす(1年生) ○ごみの分別(2年生) ○スーパー見学による、ごみの分別やリサイクルボックスの活用(3年生) ○緑のカーテン、クリーンセンター見学、水道キャラバンによる水の学習(4年生) ○資源を活用した案山子作り(5年生) ○緑と清流ポスター、作文の取り組み(4~6年生) ○理科・栽培委員会による花の栽培活動 ○環境美化委員会による清掃活動、校庭の石拾い ○六小のシンボル「おたまた池」自然観察
潤 徳 小 学 校	○委員会活動でペットボトルキャップの収集活動を通して、全校児童にごみの減量を意識させるようにしていく。年に2回の収集ではあるが、各家庭には収集活動が浸透してきている。 ○ロング集会のお店では、家庭から再利用できそうなものを持ち寄って材料にして、ごみの出ないような工夫を行なっていく。 ○給食の残菜調べをして、好き嫌いをせずに残さず食べることを声かけした。
平 山 小 学 校	○教科の学習について:理科・社会科を中心とした各教科と「ごみ・資源」「自然・生命」「エネルギー・地球温暖化」の各分野と関連付けて学習した。自然エネルギーの利用については、主に本校に設置されている太陽光パネルを利用した太陽光発電を取り扱った。 ○体験活動について:学校菜園での花や野菜の栽培活動を全学年で、学校ビオトープを利用した観察活動を3・4年生で実施した 栽培、観察といった直接体験を通して、身近な自然に親しみ、身近な環境に対して意欲的に関わる活動をした。 ○日常での取り組みについて:晴天時の教室の窓側の電気の消灯、休み時間の消灯といっ

(3)学校等による環境への取組状況

	た省エネルギー・省資源化に向けた取り組み、牛乳ラベルを小さく折りたたんで捨てたり、再利用可能な紙を集めるためのリサイクル箱を設置したりするなど、ごみの削減に向けた取り組みを実施した。 ○各委員会(特別活動)での取り組みについて:生活委員会では給食残菜チェック、エコ委員会では電気の消灯チェック、水道チェックなどの取り組みを行い、その結果をもとにして各学級に呼びかけを行なった。また、理科委員会ではビオトープの環境整備や月ごとに写真を撮り、季節の変化や特徴を掲示した。
日野第八小学校	○落ち葉集めと落ち葉を再利用した腐葉土作り ○ひのっ子エコアクションへの取り組み ○なかよしパーティーでカレー作りの際、薪にするための再利用の割り箸集め ○各教室で燃えるごみ・燃えないごみの分別 ○図工科で緑と清流ポスター・ごみ減量ポスター、国語科で緑のまち作文の取り組み ○ビオトープを活用した生活科の活動・理科観察活動 ○水道キャラバンの学習 ○植物の栽培活動 ○野菜作り ○使用済みの封筒・裏紙の利用、両面印刷
滝合小学校	○ビオトープを活用した生活科の体験活動 ○ビオトープの植物・生きものの観察 ○浅川を活用した学習(総合的な学習の時間・生活科) ○稲作(5年生) ○校庭芝生整備(全学年・6年生芝生再生プロジェクト) ○水道キャラバン(4年生) ○野菜作り(2年生・かわせみ学級・つばめ学級) ○植物の栽培活動(全学年) ○地域清掃(年3回全学年) ○菊の栽培(かわせみ学級) ○浅川一斉清掃への参加(浅川っ子の会) ○緑と清流ポスター・ごみ減量ポスター制作作品 ○残菜ゼロウィークの取り組み(給食委員会) ○エコプロダクツ2016(環境とエネルギー学習 5年生)
日野第七小学校	○児童集会で節電や水、紙の無駄遣い防止の呼びかけ(エコ集会の実施) ○ペットボトルキャップ集め ○スーパー見学による、ごみの分別やリサイクルボックスの活用 ○水道キャラバンによる水の学習 ○クリーンセンター見学 ○緑と清流ポスター、作文の取り組み ○エコ壁新聞やエコポスターなど、各種コンクールへの応募 ○エネルギー学習 ○飼育・栽培委員会による花の栽培活動 ○環境美化委員会による清掃活動 ○校庭石拾い ○トライ&チャレンジによる清掃活動
南平小学校	○校内にある畑や田んぼを活用した体験学習や調べ・まとめ・発表学習:各学年での野菜の栽培、収穫、調理を通した学習活動、無農薬による米作り(4年生) ○ビオトープを活用した生活科や理科観察学習 ○全児童及び教職員で行う校庭や学校周りの草取り、石拾い ○ごみの分別とリサイクル ○総合的な学習の時間での環境学習(5年生) ○落ち葉等での堆肥作り ○環境美化委員会での花壇の整備と植物の栽培 ○水道キャラバンの学習(4年生) ○どんぐりクラブによる浅川でのガザガザ体験や地域での観察学習(1・3年生) ○PTAを中心とした年2回のクリーン作戦 ○紙の裏紙使用や両面印刷の取り組み ○全校での節電・節水の取り組み
旭が丘小学校	○生活科、総合的な学習の時間では、校内にある雑木林を活用した学習活動(植物・昆虫・野鳥観察、腐葉土作り)○雑木林クリーン活動「トライ&チャレンジ雑木林整備」→雨天により学年活動として実施○菊作り(4年生)○米作り(5年生)○理科委員会活動報告(雑木林、野鳥観察、バードキー作り、花壇)○野菜作り(1年生:大根、2年生:サツマイモ、6年生:ジャガイモ、学校支援ボランティア及び旭が丘商工会の協力による。)○水道キャラバン(4年生)○ひのっ子エコアクション(毎月記入、提出し実施確認)○生活委員会(児童活動)で毎月エコ目標を決め教室等に掲示 ○ごみ、環境問題に関するポスター展への応募 ○エコキング参加 ○卒業奉仕活動(校内清掃)○緑のカーテン(ゴーヤ)○花壇作り(学校支援ボランティア協力による。)
東光寺小学校	○日野用水生きもの調べ(1,2年生) ○野菜作り(トマト、きゅうり、サツマイモ、えだまめ)(2年生) ○玉ねぎの種まき(3年生)と収穫(4年生) ○東光寺大根の種まきから、たくあんの漬け込みまで(3年生) ○水再生センター見学・学習、水道キャラバンによる出前授業(4年生) ○米作り(もみふり・田植え・網掛け・かかし作り・稲刈り・脱穀・収穫祭)(5年生) ○多摩川・日野用水の水質調査(5年生) ○菊の栽培(全校) ○太陽光パネルによる発電 ○校庭の芝生を利用した取り組み
仲田小学校	○生活科、総合的な学習、理科等での野菜づくり(各学年) ○栽培委員会による野菜づくり ○花とみどりのボランティアによる菜の花、パンジー等の栽培、プランターの花の整備 ○全学年、各学期で分担して学校周辺のクリーン活動、落ち葉清掃 ○ごみの分別と紙のリサイクル ○多摩川河川敷、仲田の森蚕糸公園の自然を活用した学習 ○水再生センター、クリーンセンターの見学、都水道局水道キャラバンの出前授業(4年生) ○菊の栽培(2・3年生) ○「ごみゼロ」ポスターの出品、「みどりのまち」作文の出品 ○地域の田んぼを借りて稲作学習(5年生) ○給食委員会による残菜調査 ○各学級での食育指導と給食室からの「からっぽ賞」の取り組み ○裏紙の再利用やペーパーレス会議の実施 ○節電、節水の取り組み ○空き缶やインクカートリッジ、テトラパックの回収(PTAと児童)

4. 環境への取組状況

夢が丘小学校	○みんなでエコアクション(全学年) ○残菜を減らそう(全校・給食室との連携) ○わたしのあさがお(1年生) ○わたしたちの野さいばたけ(2年生) ○姿を変える大豆(3年生) ○ごみをへらすためにできること・環境のためにできること・菊を育てよう・クリーンセンター見学(出前授業)・水道キャラバン(4年生) ○バケツ稲から見えること・ハケ岳ってどんなところ?(5年生) ○日光ガイドブックを作ろう・もっと知りたい程久保川(6年生) ○緑のカーテン(4年生・栽培美化委員会) ○栽培美化委員会による常時活動 ○校庭芝生化
七生緑小学校	○コピー用紙を両面使用 ○全校でのエコアクションへの取り組み ○水の出しっぱなしを減らす環境への配慮をポスターで呼びかけ ○生活単元での野菜作り(あおぞら学級) ○電気のつけっぱなしのないように、呼びかけを行なった。

中学校における環境教育の取り組み

学 校 名	取 組 状 況
日野第一中学校	○「緑のカーテン」を環境学習教材とし、「総合的な学習の時間」のカリキュラムとして位置づけて各学年で取り組んでいる。役割を1年生土壌づくり、3年生苗植え・設置、2年生収穫・撤去とし、3年間で一連の作業に取り組むことにしている(10年目)。放課後や休日、自然科学部、美化委員会、教職員、PTA有志の方々など、多くの活動組織の係わりの中で活動を継続している。○「一中花いっぱい運動」で1年間を通して、パンジー、ヒマワリ、モミジバヒルガオ、スイセンなど多くの花を咲かせた。これらは前記「緑のカーテン」の取り組みとともに、自然科学部、教職員、PTA有志の方々などが一貫の取り組みとして行っている。今年度から、緑のカーテンをモミジバヒルガオから、ゴーヤ・白ゴーヤ・パッションフルーツに替えた。○昇降口に太陽光発電システムのモニターを設置しており、システムの概要や現在の発電電力、総積算発電電力量などを表示している。また、トイレの水には雨水が利用されており、これらの取り組みを、授業で紹介・解説をするなどして、節電・節水への意識を高めさせている。○「資源ごみの分別」、「クリーンフェスティバル」(生徒会主催の学校周辺のごみ拾い)、「ひまわりデー」(同毎月行われるボランティア活動)に積極的に取り組んでいる。○今年度より、新たな取り組みとして、学校敷地内の放置スペースに、自然科学部を中心に畑づくりを始めた。現在は、2m×15mの用地に土壌づくりを進めている。
日野第二中学校	○花壇の整備、グリーンカーテンの育成:ボランティア部の日常的な活動、PTA保護者の花植え(10月)技術の授業の一環として行うなど多くの人が関わっている ○総合的な学習の中で、食育を中心とした環境学習:材料を無駄にしない調理、買い物袋持参、地産地消など ○生徒会によるエコアクションの推進:ペットボトルキャップの回収、全校生徒による学校内外の落ち葉掃き清掃活動、美化委員会によるリサイクル、ごみの分別の徹底、生活委員による節電の呼びかけ、生徒の自発的な給食残飯調査・呼びかけ
七生中学校	＜職員の取り組み＞○職員資料で使えるものは再生紙を裏紙として利用 ○ペットボトルキャップの収集 ○リサイクルごみの分別徹底 ＜生徒の取り組み＞ ○節電、使用しない教室の消灯徹底 ○植物や森林の重要性の学習(1年生)○世界の食糧事情に触れ、食べ物を大切にすることを育む(2年生) ○森林破壊の問題(3年生) ○エネルギーの種類と変換についての学習(3年生理科)○エコクッキング(ごみを減らし、水や洗剤の使い方を考える取り組み)と地産地消をすすめる調理(3年生家庭科) ○古紙は、ごみにせずリサイクルごみとして回収 ○生徒会でペットボトルキャップ集めを呼びかけ各クラスで回収(2014年度までに100kg、2015年度は未集計)
日野第三中学校	○授業中の廊下等不要な電気の消灯(全校) ○教室移動等の際には消灯を確認(全校) ○天気の良い日は休み時間等に教室の消灯(全校) ○ペットボトルキャップの回収(生徒会活動) ○教室のごみの可燃・不燃の分別の徹底(生徒会活動) ○校舎内及び学区内の清掃活動(ボランティア部) ○花壇の整備及び学校農園の維持・管理(自然科学部) ○巣箱の作成及び設置による野鳥の保護及び観察(自然科学部)
日野第四中学校	○可燃ごみ、不燃ごみの分別の為のごみ箱設置(1、2、3年生) ○ごみの減量(紙の回収、裏紙の利用、残飯の減量等)(1、2、3年生) ○空き缶、古新聞、牛乳パック、ペットボトルのキャップ等の回収(1、2、3年生) ○動物の飼育、生き物と触れ合う環境の整備(ボランティア) ○学校農園等での花や野菜などの栽培(1年生) ○水の出しっぱなしをしないなど節水の取り組み(1、2、3年生) ○人のいない教室の電気は消すなどの節電の取り組み(1、2、3年生) ○学校周辺の清掃活動(1、2、3年生) ○環境教育に関するチェックシートの活用と実践(1、2、3年生) ○「CO ₂ 削減 アクション月間」を実施

(3)学校等による環境への取組状況

三 沢 中 学 校	○地域清掃(2年生) ○小中合同クリーン作戦(三沢中2年生、潤徳小・八小・七生緑小4年生)の実施 ○エコパックの作成(家庭科:1年生)○環境に関するポスター作成・応募(エコ、ごみゼロ、清流等 美術科 2・3年生)○学校全体としてのエコアクションへの取り組み ○美化委員によるエコチェック(各教室の節電及びリサイクルに関して)及び、ごみの分別の徹底 ○リサイクルボックスの教室への設置 ○ペットボトルキャップ・かまぼこ板の回収(ボランティア部)○不必要な電気の消灯を徹底 ○各学年に回収ボックスを設置し、毎日回収し、ごみの分別の徹底とごみ袋の削減に努めた
大 坂 上 中 学 校	○生徒会を中心としたリサイクル運動(分別・収集の呼びかけと徹底) ○生徒会によるエコキャップ収集運動 ○理科・社会・技術家庭など教科を通した環境教育の指導 ○教員と生徒による、空き教室における消灯の励行 ○PTAとボランティア生徒による校内清掃
平 山 中 学 校	○「環境」について調べ学習(1年生) ○「身の回りの物質」の学習を通して環境について考えた。(1年生理科) ○「エネルギー」の単元で、様々な発電方法やエネルギー資源についての学習を通して、持続可能な社会をつくるために必要なことを考えた。(3年生理科) ○年間を通してエコキャップ回収を行なった。(生徒会活動)

高校における環境教育の取り組み

学 校 名	取 組 状 況
日 野 高 等 学 校	○全校体制でのごみの分別収集 ○科目「地学基礎」「家庭総合」「保健」での環境教育 ○1年生全員が「総合的な学習の時間」で年2回の浅川河川敷清掃、7月から8月末にクリーンセンター、都水再生センター、多摩動物公園で、いずれか1日自然環境に触れる奉仕体験活動を実施 ○地域自治体と連携して年2、3回の合同清掃等の実施 ○科目「生物」の授業及び生物部の活動による自然観察、地域環境調査 ○部活動による通学路清掃 ○美化委員会による各教室のごみの分別の徹底 ○ごみの回収日の周知とごみの減量へ向けての指導
日 野 台 高 等 学 校	○各教室には、可燃ごみ、紙リサイクル用の箱を設置し、他の不燃、購買、危険物用のごみは各人が指定された場所に分別・処理するよう指導している。 ○職員室では、不燃、可燃、紙ごみ用のごみ箱を設置し、分別を徹底している。 更に、雑誌、パンフレット類を一般ごみと別に集めている。 ○生徒会の活動として、本校で排出される紙類・雑誌類・新聞紙・ダンボールなどの紙資源を生徒会執行部の生徒が年3回程度回収し、処理業者にリサイクルしてもらっている。 ○生活委員会の取り組みとして、ペットボトルキャップ、使用済み切手などの回収を行い、日野市ボランティアセンターに拠出する予定。 ○美化委員会と保健委員会の取り組みとして、定期的にトイレと手洗い場の清掃を行い、用具の点検作業を行なっている また、文化祭のごみの仕分け作業を行なっている。 ○廊下や職員室等の蛍光灯の消灯を呼びかけている。 ○職員室等で利用している電気ポットを、夏場には使わないこととして魔法瓶を利用している。 ○公民科、保健体育科、家庭科の授業で、環境教育を実施している。
南 平 高 等 学 校	〈生徒〉○4月入学生へのごみ分別収集についてのオリエンテーションを実施(分別方法、収集場所案内) ○教室分別ごみ箱の設置 ごみの分別は「可燃」「不燃」「リサイクル紙」「ペットボトル」「紙パック」 ○ビン・カン類は校内に持ち込まないように指導(収集場所にはビン・カンの分別コーナーを常設) ○ごみ箱などの分別表示の徹底 ○校内清掃区域をクラスごとに分担(教室、廊下、生徒ホール、特別区域)と清掃の日常習慣化指導(全教員による清掃指導) ○各階教室前廊下用に幅広モップと生徒ホールの床パンチカーペット用に電気掃除機を設置 ○校内の購買部で販売の「紙パック」製品は販売業者が回収している ○学校周辺通学路の清掃活動(浅川河川敷清掃ほか) 〈教員〉○印刷物の縮減 ○印刷物用紙の裏面有効利用(印刷室に用紙サイズ別裏面利用紙コーナーを設置) ○古新聞、ダンボール紙、古図書、カタログ等の古紙分別収集(福祉施設の古紙回収に協力) ○ごみ収集場所(ストックヤード)に種類別回収コーナーを設置 ○学校説明会等の来校者向け下足袋(手提げビニール袋)の再利用 ○校内蛍光灯、LED等のスイッチに、「こまめに節電」と呼びかけシールの貼付

4. 環境への取組状況

幼稚園における環境教育の取り組み

園 名	取 組 状 況
第 二 幼 稚 園	○ごみの分別(分別表示、園外保育中での実践もあり) ○身近な素材を使ったおもちゃ作り(未就園保護者等にも提案) ○廃材を利用した制作活動 ○園外に出かけ、四季を通じ地域の自然に触れる遊び体験 ○園内の畑や花壇での植物栽培 ○生ごみリサイクルによる元気野菜作り及び収穫 ○動物(ウサギやカメ)、昆虫の飼育と観察 ○暑さ対策のグリーンカーテンづくり ○自然物を使つての制作 ○節電・節水に心がける。○水の使い方についての定期的な指導 ○ごみゼロ推進課(ごみゼロマン)の話を聞き、エコへの興味・関心をもつ。
第 三 幼 稚 園	○ごみの分別(ごみ箱に、燃やす、燃やさないの表示、リサイクル紙を集める場所の確保等を、保育の中で実践)及び、分別に関する話を聞く機会の設定 ○制作活動で廃材等を再利用しやすい制作コーナーの設定 ○廃材を利用した環境整備(用品の分類箱に廃材や容器を利用) ○リサイクル紙の利用を周知 ○園内の畑や花壇での野菜の栽培や収穫、花の栽培による自然との触れ合い活動 ○野菜くずを使った土作り ○園外保育を通し、地域の自然に触れる活動 ○自然物を利用した制作活動 ○小動物の飼育活動を通し、命あるものへの親しみや生命の尊さを伝える活動 ○水、電気等の節約意識を培う保育活動 ○インクカートリッジのリサイクル
第 四 幼 稚 園	○廃材を利用した制作活動 ○日常生活での廃材活用 ○ごみ分別の徹底(不燃、可燃、リサイクル) ○生ごみを利用した土づくり ○花・野菜の育成と成長観察及び栽培物を利用した制作 ○園内外の自然との触れ合い(多摩川の自然を利用した遊び・果実の収穫・木登り・花びらを使った色水遊び等) ○小動物の飼育と観察 ○グリーンカーテンの栽培 ○節電と節水への取り組み ○制作した装飾類の再活用 ○環境学習会等の機会の活用
第 五 幼 稚 園	○生ごみを利用した土づくりとその土を使用して野菜や花の栽培と収穫 ○ごみの分別(不燃、可燃、リサイクル)を表示し、保育の中で実践 ○廃材を利用した制作活動 ○園内の落ち葉を使い堆肥づくり ○園内、園外での自然体験 ○自然物を使った制作、遊び(花、実、ツル等) ○小動物や昆虫の飼育、観察 ○園内の果実の収穫 ○節電・節水の指導 ○環境学習の参加 ○コピー紙の裏紙利用
第 七 幼 稚 園	○ごみ分別の徹底 ○ごみの分別やリサイクルに関するクリーンセンターの方の話を聞く環境教室を設ける。○「地球の環境を守るため」というテーマで節電、節水等に関する環境保全課の方の話を聞く環境教室を設ける。○コピー紙の再利用 ○両面印刷、両面コピーの徹底 ○プリンター印刷機、インクカートリッジの使用後の空容器の回収 ○生ごみを資源として土作りをして、栽培活動をして食の循環を体験 ○園内外の落ち葉を使い、堆肥づくり ○CO ₂ を減らす取り組みとして緑のカーテンの栽培 ○園内での自然体験(木登り、草集め、昆虫・小動物の飼育・観察)○園内の果実の収穫(さくらんぼ・ゆず・柿など)○節水・節電(スイッチの見える化) ○廃材を利用して、制作、日常の活動 ○インクカートリッジやベルマークの回収 ○ペットボトルのふたで楽器作り
日 野 ・ 多 摩 平 幼 稚 園	○ごみの分別(燃える・燃えない・紙ごみ)○エコアラ&エコくまの話を聞き、エコへの関心をもつ。○散歩先や地域のごみ拾い○行事での各自ごみの持ち帰り ○余り紙の再利用 ○裏紙の利用 ○両面印刷の推進 ○廃材を使った制作活動 ○自然に触れる遊びや自然物を使った制作活動 ○動物の飼育(鶏・うさぎ・かめ・カブトムシ) ○学年、クラスごとに虫や小動物の話や自然界の仕組みについて話し合う機会をつくる。○生ごみを使った土作り ○作った土を使って野菜栽培 ○収穫したジャガイモでカレーパーティー ○園内の果実(夏みかん)の収穫・クッキング「みかんゼリー」 ○収穫した野菜を使用したクッキング(きゅうり・トマト・レタス・大根など) ○落ち葉を拾い、収穫したサツマイモで焼き芋パーティー ○園庭の一部芝生化 ○ソーラーパネル設置による一部自家発電とエネルギー学習 ○節電(通常の半分の照明の使用) ○電球をLEDに移行 ○節水(蛇口の水量調節機能の利用、子ども達への声掛け) ○冷暖房使用時はドアを閉める。○エコバックの奨励 ○物を大切に作る気持ちを育てるため、夏祭りにおもちゃ病院の設置 ○職員のマイ箸使用 ○マイカー通勤を減らす。○ペットボトルのキャップ集め ○ベルマークの回収 ○インクカートリッジの回収 ○窓の一部にグリーンカーテン ○外靴持ち帰り用ビニール袋の繰り返し利用
日 野 台 幼 稚 園	○ごみの分別 ○生物の飼育、観察 ○園内の畑で野菜(モロッコインゲン、サツマイモ、ナス、ピーマン、トマト)の栽培 ○園内の果物(柿、梅、カリン等)の収穫 ○花や植物を育てる。○不要雑誌、紙類で絵画制作や折り紙制作等に利用 ○お弁当をなるべく残さない。○公園の散歩で四季の変化を感じる。

(3)学校等による環境への取組状況

欣 浄 寺 み の り 幼 稚 園	○草花の栽培・野菜の栽培と収穫 ○ウサギ、小鳥、カブトムシの飼育 ○ごみの分別 ○廃材を利用した制作 ○植物の色出し ○生ごみを利用した栽培用土作り ○収穫したサツマイモでスイートポテト作り ○笹の葉、イグサを利用した笹団子作り ○梅の実の収穫と梅ジュース作り ○落ち葉、木の実を使った制作 ○物にも命があることに気付かせる。
日 野 ふ た ば 幼 稚 園	○園庭、テラス、農園での草花、野菜、果物の栽培 ○園庭の芝生化 ○グリーンカーテンの取り組み(ゴーヤ、アサガオ)○ウサギ、カメの飼育 ○生ごみ堆肥づくりの体験教室に参加(土づくり) ○給食、弁当を残さず食べる指導 ○窓ガラスの遮光フィルム ○エアコンの温度管理、水、電気使用時節約を心がける ○LED電灯、照明の使用 ○廃材利用の制作 ○園行事の際のごみ分別回収とマイ箸の使用 ○落ち葉を利用した堆肥作り。
光 塩 女 子 学 院 日 野 幼 稚 園	○インクカートリッジの回収 ○ごみの分別 ○リサイクル用品を利用した制作遊び ○幼稚園内の竹林や林の中で動植物に触れる。 ○梅取りを体験してジュース作り ○畑でオクラ・ミニトマト・大根を栽培、観察、収穫 ○プランターを使用している野菜栽培、観察、収穫 ○落ち葉やどんぐり等自然の物を使った制作 ○季節に応じたお菓子作り(例:スイートポテト) ○節水・節電を心がける。 ○給食を残さず食べる。 ○生ごみの異臭などを防ぐ為、ごみサーを使用 ○メダカの飼育と観察 ○冷暖房時の戸の開閉の徹底、設定温度管理 ○コピー用紙・古封筒の再利用 ○印刷物の両面印刷の励行 ○ごみゼロ運動の方の話を聞き興味、関心を持つ。
日 野 わ か く さ 幼 稚 園	○園庭から続く、わかくさ山、たけの子山で遊びながら植物、昆虫、鳥を観察 ○竹の皮、木の実、葉、枝を使い、遊んだり、制作する ○竹を使った楽器作り ○ムクロジの実を泡立てて、石けん遊び ○植物(チューリップ、キンセンカ、コスモス)、野菜(キュウリ、トマト、ゴーヤ)の栽培 ○植物、野菜をつくる為の土作り体験(吉田先生、せせらぎ農園の方々と)野菜くず・米ぬか等を入れ「生ごみ菌ちゃん」の土をつくる。 ○牛乳パック、お菓子の箱、容器、ペットボトル等を使った制作 ○ごみの分別(ごみゼロマンの指導を受ける)○地域の農家の方の指導でお米作りを体験 ○節電、節水を意識し、実践する。
百 草 台 幼 稚 園	○エコクマ、エコアラ、ごみゼロマンを呼び、ごみの分別やエコな生活(節電、節水、食べ残しを無くす等)を子どもと一緒に意識して実施できるようにする。 ○植物(チューリップ、パンジー、コスモス、アサガオなど)や野菜(キュウリ、トマト、イチゴ、ピーマン、ジャガイモ、ナス、枝豆など)の栽培。野菜は料理して食育にもつなげていく。 ○生ごみを利用した土作りを体験し、子どもたちの食への意識を高めると共に、栄養価の高い美味しい野菜を口にする事で、食べ残しを減らす。 ○古紙、雑誌を利用した制作活動 ○空箱等の廃材利用 ○LED電球の設置 ○水圧調整により節水とエアコンの温度設定による節電 ○園外保育での自然との触れ合い(草花、虫、季節を感じる。)
日 野 ひ か り 幼 稚 園	○ごみの分別収集の徹底 ○節電(廊下、階段、エントランス、外灯の一部消灯等)の徹底 ○節水(水道の有効的な使い方)の指導 ○リサイクル品を利用した制作○野菜の栽培 ○地域の自然環境の教材化と体験 ○近隣の公園でのどんぐり拾い ○草花や昆虫など、生きているものを大切にする。 ○日野市内の自然環境や施設等、魅力ある場所を子ども達に多く見せ、自分達の暮らす日野市をより一層好きになってもらう。
杉 野 幼 稚 園	○ごみの分別指導(不燃、可燃、資源ごみ) ○廃材を利用した制作遊び ○落ち葉や草花など自然物を使った遊び ○野菜の栽培、観察 ○落ち葉や飼育物の糞を使用している土づくり。 ○収穫した野菜を使っている料理活動 ○ヨモギ団子づくり ○小動物や家畜を飼育し、親しむ。 ○節水指導 ○暖房時の戸の開閉や温度設定 ○エアコンを使用しない。 ○インクジェットプリンターのカートリッジ回収 ○家庭ごみを使った土づくり体験
日 野 し ら ゆ り 幼 稚 園	○水の節水 ○電気の節約(使用していない電気類はコンセント等を抜く。) ○ごみの分別(生ごみの減量化) ○ガスの節約 ○使い捨て容器類の使用を出来るだけ避ける。 ○空箱などを使用して制作活動 ○生物の飼育 ○野菜、花の栽培 ○コピー紙(印刷物)など無駄に使わない。 ○教材(画用紙、テープ類)の節約 ○コピーの枚数が多い場合は印刷紙を使う。

4. 環境への取組状況

保育園における環境教育の取り組み

園 名	取 組 状 況
とよだ保育園	○自然を身近に感じて遊ぶ。(園庭、公園、浅川土手) ○土に触れ、種や苗から野菜を栽培し、収穫の喜びを味わう。 ○わかりやすい表示でごみの分別を促す。 ○リサイクル品を制作活動や日常生活に活用する。 ○グリーンカーテンで室温上昇を防ぐ。 ○節電、節水、紙の節約に努める。 ○自然物を利用した制作をする。(落ち葉、木の実) ○エコアラ・エコクマによる環境学習
たまだいら保育園	<自然や鳥に優しい環境作り(命の大切さを知らせると共に生物が棲みやすい環境作りを子どもたちと一緒に考えていく。)> ○花壇作り(チューリップの球根、菊の苗、アサガオを植えて育てる) ○畑作りと収穫体験(ジャガイモ、サツマイモ、ミニトマト、アズキ) ○野鳥の巣箱を設置 ○ビオトープの観察や整備 ○自然物や野鳥の観察会 <エコ活動> ○ごみの分別(各部屋に可燃・不燃・資源ごみ用のごみ箱の設置) ○プルトップと古切手回収箱の設置 ○節水、節電、夏場のプールの水の再利用、雨水の利用(打ち水、植物への水まき) ○緑のカーテン(アサガオ)で西日を遮断 ○牛乳パックやペットボトル、裏紙等の再利用 ○「もったいない」の意識を伝える。 ○行事を利用して保護者へのエコ啓発(ごみの分別・再利用)
ひらやま保育園	○園児に不燃・可燃ごみの分別について知らせる。 ○保育の中で自然への興味・関心を高め、自然物を活かした制作活動や遊びに取り組む。 ○節水・節電に努める。 ○ジャガイモやサツマイモ、夏野菜の栽培・収穫を食育体験に取り込む。 ○リサイクル品を利用した制作活動に取り組む。 ○日々の保育活動報告や園便りにて、保護者に環境への取り組みを知らせる。 ○園児に、ごみゼロマンによるイベントや、環境に関する本の読み聞かせを行う。 ○すだれやよしずを使って、日よけを設置する。 ○必要でない箇所での照明を消して、節電する。
あらい保育園	○ごみの分別について保育の中でも子ども達に伝え、そこから保護者の意識もより確かなものにしていく。 ○節水と節電を心掛け、必要に応じて子どもに声掛け、指導などを行なっていく。 ○散歩や園庭での動植物の観察や自然観察 ○野菜や植物の栽培・観察・収穫 ○生ごみや落ち葉を利用した土づくり ○自然物やリサイクル品を使用している制作活動 ○ゴーヤの栽培など(グリーンカーテン) ○エコクマ、エコアラのイベントや、絵本の読み聞かせ等の機会を利用し環境への興味関心や「もったいない」の心を育てる。
みさわ保育園	○グリーンカーテン(ゴーヤ)で節電対策 ○雨水やプールの水で花の水やりや園庭に水まき ○給食室の生ごみの再利用→土の再生化(土づくり)→栽培活動 ○ごみゼロマン・エコクマ&エコアラによる環境学習(ごみの分別・物の大切さの意識づけ) ○うがい・歯磨き・手洗い時の水の出し方で節水を心がける。 ○牛乳パック・ペットボトル・ダンボール箱の再利用によるリサイクルの取り組み。 ○行事(保護者参加行事)で環境にやさしい生活の知恵を発信する内容を企画する。 ○絵本や紙芝居などでの環境学習
たかはた台保育園	○自然の中でのびのびと遊ぶ。 ○地域(七生丘陵散策など)の自然の観察活動(生物、鳥、野菜など) ○リサイクル品や自然物等での制作活動、おもちゃ作り、保育用品作り ○ごみの分別、節水、節電の心がけ指導 ○環境に関する絵本の読み聞かせやイベントへの参加(ごみゼロマン・エコクマ環境学習) ○プール使用後の水を使っての打ち水 ○緑のカーテン(ゴーヤ・アサガオなど)の栽培 ○ダンボールコンポストを使ってつくる安心肥料の使用
みなみだいら保育園	○職員の手作り教材を用いた環境学習を通じて子どもたちの意識を高める。 ○子供たちに見える、わかる表示をしたごみの分別化 ○牛乳パックやペットボトルを使った制作物や行事で使うダンボールの共有や再利用 ○職員と子どもと一緒に節電・節水に取り組む。 ○野菜作りを通じた食育活動と自分に合った量を調節しながら給食を残さず食べようとする意識を育てる。
あさひがおか保育園	○節電:電灯、扇風機、エアコン等を適正に使用する中で「電気の大切さ」に気づかせていく。 ○ごみの分別を園児と共にすすめ、保護者の意識向上へつなげられるようにしていく。 ○エコアラ・エコクマのイベントを通じ、ごみの分別や物を大切にするなどの意識の啓発 ○園庭や近隣の自然に親しみ、自然物を使って遊んだり制作に利用したりする。 ○リサイクル材料を使っての制作活動(牛乳パック、ペットボトル、ダンボールなど) ○紙芝居、絵本などを通しての園児への啓発 ○グリーンカーテンの取り組み ○野菜の栽培、収穫を通じ食育及び食物を大切にすることを育てる。
もぐさ台保育園	○牛乳パックやペットボトルなどを用いた制作活動 ○ごみの分別や減量について、自主制作のパワーポイントを用いた説明やごみゼロマンによる環境学習 ○給食から出る野菜くずや落ち葉などを利用しての堆肥作り ○グリーンカーテン作りや野菜作りと収穫の体験 ○節水・節電 ○散歩を通じて自然に親しみ、自然を利用して学ぶ。 ○紙芝居や絵本を通して子ども達へ啓発

(3)学校等による環境への取組状況

おおくぼ 保育園	<ごみの分別・削減・食べ残しなし等について> ○紙芝居・絵本を通し園児へ啓発 ○ごみゼロマンによる環境学習 ○「もったいない」の意識を持たせていく。 <エコ・リサイクル活動について> ○牛乳パックや空箱等のリサイクル ○プールの水の再利用 ○使用済みの切手の回収 ○運動会に保護者対象のエコクイズを実施 <節電・節水に心がける> ○使用しないコンセントを抜く、電気を消す。 ○水を出しっ放しにしない ○エアコン室外機に日よけカバーを設置 ○エアコンの温度設定や調節をこまめにする
しんさかし 保育園	○ごみの分別を保育の中で知らせていく。 ○節電、節水 ○野菜や植物の栽培・収穫、緑のカーテン栽培 ○リサイクル材料を使つての制作活動 ○環境に関する絵本や紙芝居の読み聞かせ ○環境学習への参加(ごみゼロマン、エコアラ・エコクマ) ○冷暖房器具の温度設定をこまめに切り替える。 ○プールの使用後の水を使つての打ち水や植物への水やり ○紙の再利用(古くなったファイルをおたより帳の表紙にする、包装紙を折り紙にする等) ○行事を通して保護者への啓発
栄光保育園	○可燃物と不燃物の分別 ○コピー用紙の裏紙の再利用 ○節電と節水の徹底 ○緑のカーテンの作製 ○落ち葉を利用して腐葉土をつくる。 ○生ごみ処理機の使用 ○LED電球の設置 ○ダンボールや雑紙のリサイクル ○ごみゼロマン、エコアラ・エコクマを招いての環境学習 ○プールの残り水を利用しての花の水やり ○保育園の畑で収穫した野菜の調理 ○ペットボトルのキャップの収集
至誠第二 保育園	○ごみ分別の徹底と園児、職員への周知 ○食育活動の実施(タケノコ、トウモロコシの皮むき、梅干しづくり、米づくり、野菜、果樹、植物の栽培、収穫)等の体験により、食の大切さ、環境の重要さを認識 ○園庭樹木の落ち葉は腐葉土として、野菜栽培に活用、剪定枝は非常用まきとして備蓄 ○生ごみ処理機で生ごみ減量、そこから出た液肥を栽培に活用 コンポストも活用 ○昆虫、小魚の飼育、観察 ○園庭の芝生整備と雨水利用、刈り芝の堆肥化 ○ゴーヤ、ヘチマ、アサガオのグリーンカーテン作成 ○裏紙利用(コピー、絵画、折り紙等) ○牛乳パック再利用(非常持ち出し用靴入れ他) ○ペットボトルキャップ、使用済切手回収 ○節電、節水対策実施(待機電力削減、エアコンの設定温度、扇風機との併用、節電紙芝居利用、節電伝言板、節電シール、食洗機・洗濯機のまとめ洗い他) ○地域一斉清掃参加 ○環境学習会実施
つくしんぼ 保育園	○ごみ分別の徹底(極力資源になるように分別) ○リサイクル使用 ○園庭内の畑で植物の栽培、又、菜園の種類を増やした。(野菜嫌いを減らしたい。土や植物の成長と不思議にふれ、発見や興味を持ち、室内遊び以外にも楽しみを増やしたい。収穫物を園児が直接調理士へ届ける。給食やおやつで食べる前に収穫者や栽培者を皆に報告してからありがたく頂き、栽培の達成感を味わう。) ○園舎建て替えを機に近所の方にジャガイモ掘りをさせていただく様になり、草取りをさせていただいたり畑の説明を聞いた。 サツマイモは茎も園児が収穫し、副菜として試食 ○土に触れ、成長を観察する。 ○アサガオ栽培では家庭へ持ち帰り継続して栽培をする。 ○緑の募金をお願いすると共に年長児が歩いて届けに行く。 ○ごみゼロマンのイベントや制作で廃材を利用し、リサイクルの意識を育てる。 ○チューリップの栽培では、咲く時期に園児が鉢を玄関前に移動し近所の方々に見ていただいている。 ○太陽光発電を取り入れている。
日野保育園	○ペットボトルのキャップ回収 ○ゴーヤ栽培(グリーンカーテン) ○プールの水で園庭水まき
日野第二 保育園	○太陽光発電 ○節水・節電 ○自家発電による井戸水(飲料水)の汲み上げ ○野菜の栽培(プランター) ○グリーンカーテン作り ○地元での収穫祭(タマネギ、ジャガイモ、ダイコン) ○にわとり、小動物の飼育 ○身近な自然物を使った造形遊び ○ごみの分別(ごみゼロマン来園)
日野わかば 保育園	○太陽光発電 ○蓄熱冷房 ○ごみ分別 ○動植物の飼育、栽培 ○リサイクル活動(ペットボトルの回収等) ○野菜の栽培・調理 ○節水・節電 ○紙の節約(B5 版をなるべく使用) ○園庭芝生化 ○エコクマ・エコアラによる環境学習
万願寺保育園	○ごみの分別(可燃、不燃物の分別) ○ごみの減量(生ごみ処理機使用) ○雨水、プールの水再利用 ○「ナイス!エコ」の声掛けを通したエコ教育 ○ベルマーク参加(牛乳パック、カートリッジ) ○リサイクル活動(ダンボール、切手等) ○花、野菜、米栽培等収穫による食育活動 ○川の探索活動(小動物の飼育) ○散歩を通して自然に親しみ、自然を通して環境の変化を知る。 ○ハンカチの使用を促す。 ○近所の掃除、公園のごみ拾い
日野わかば 保育園 高幡分園	○ごみの分別 ○食育の取り組み ○ベランダで夏野菜の栽培、収穫(キュウリ、ミニトマト)、皆で食べる。 ○節水、節電 ○ペットボトルのキャップの収集 ○メダカの飼育 ○収穫野菜を使った調理(収穫感謝祭煮込みうどん) ○花への水やり

4. 環境への取組状況

ひよこハウス 多摩平	○ごみの分別 ○リサイクル品を活用した制作(牛乳パック、ダンボール、ペットボトル) ○食育の取り組み、夏野菜(キュウリ、ミニトマト、二十日大根、枝豆)の栽培と収穫そして皆で食べる。○自然を大切にし、身の回りの植物や生き物に関心を持たせる。 ○ブルーベリーつみ、トマト狩り、サツマイモの苗植え、草取り、収穫、サツマイモ料理を皆で食べる。 ○農家の方々、漁業の方々への感謝の気持ちを育む。 ○綿の栽培をして作品をつくる。
ひよこハウス 豊田	○自然に親しみ、自然を大切にする。 ○自然物(木の実、枝、落葉等)を使った制作 ○畑で野菜を栽培し、収穫の体験。食育への取り組み ○ごみの分別 ○牛乳パック、ペットボトル、空容器などを利用した制作 ○水、電気の大切さを教える。 ○ベルマークで教材購入
たかはた北 保育園	○エコクマ・エコアラによる環境学習や朝の会でのエコ体操(毎日) ○ごみの分別 ○自然素材を利用した制作活動(落ち葉、枝、木の実、石等を使用) ○リサイクル制作(新聞紙、ダンボール、牛乳パック、ペットボトル、発泡トレイ、空き容器等) ○自然環境の中での遊び(散歩、お花見、ネイチャーゲーム、自然探検、土手すべり、木登り等) ○園庭菜園での栽培、収穫(トマト、キュウリ、ナス、ピーマン、ゴーヤ等) ○地域農家との交流(ダイコン、タマネギ、ジャガイモ、イチゴ、リンゴ等の収穫体験) ○食育活動 ○日本文化体験(季節行事:十五夜、十三夜、餅つき、七草粥、お花見会食等) ○地域活動への参加(コスモスロード、ふれあい橋花壇の花植え活動等) ○エコ活動(節電、節水、資源の節約等) ○ベルマーク回収
至誠第二 保育園 日野本町分園	○ごみの分別 ○草花の栽培 ○魚の飼育 ○節電 ○サンシェードの利用 ○緑のカーテン ○裏紙の再利用
栄光保育園 南平分園	○全室にLED電球設置及びこまめに電気を消す。 ○エアコンの設定温度(冬期 20℃ 夏季 28℃)に配慮 ○グリーンカーテンの取り組み。○生ごみ処理機の使用 ○ボトルキャップの収集 ○コピー用紙の裏面活用 ○可燃物、不燃物の分別 ○野菜、植物の栽培・収穫 ○魚の飼育 ○リサイクル材料(牛乳パック、ダンボール、キャップなど)を使つての玩具づくり及び制作
しせいの 太陽の 保育園	○ごみの分別 ○リサイクル活動 ○ごみゼロマンやエコクマ・エコアラによる環境学習 ○テラスでの植物や野菜の栽培 ○節水と節電 ○紙の節約や再利用 ○すだれやサンシェードの利用 ○扇風機とエアコンの併用 ○エアコンの温度設定 ○ペットボトルのキャップ回収 ○廃材や自然物を利用した制作活動 ○ゴーヤによるグリーンカーテン ○食育活動
至誠あずま 保育園	○エコキャップ収集 ○生ごみ処理機の使用 ○遮光カーテンの使用 ○野菜の栽培(ナス、キュウリ、イチごみミニトマト、ピーマン、ジャガイモ、ブロッコリー、スイカ) ○チューリップを植える。 ○園児による花の水やり ○生き物飼育(メダカ、金魚、カマキリ、オタマジャクシ) ○花を生ける。 ○節電 ○使っていないコンセントを抜く。 ○ごみの分別 ○裏紙の利用
栄光平山台 保育園	○ゴーヤ・アサガオ等のグリーンカーテン ○ごみの分別を子供達に意識して行なっている。 ○ペットボトルキャップの収集 ○散歩時、動植物の観察・自然保護の大切を伝えている。 ○ごみゼロマンを招いての環境学習 ○給食を食べ残さない。 ○自然物やリサイクル品を利用した制作活動 ○LED電球による全照明設置 ○コピー用紙の裏面利用 ○こまめに電気を消す。
芝原保育園	○豊田の自然豊かな環境に親しみ、遊ぶ。○ごみゼロマンのイベントを通して保護者と共に、ごみの分別、資源の大切さを知る。また、食べ物を残さず食べる知識、意識を持つ。 ○ゴーヤのグリーンカーテンを育て日陰をつくり室温を下げる。 ○ソーラ発電の使用、生ごみ処理機の使用
栄光豊田駅前 保育園	○LED電球の設置 ○こまめに電気を消す。 ○コピー用紙の裏紙の活用 ○節水○可燃物と不燃物の分別 ○草花や落ち葉・木の実などを使った制作活動 ○エアコンの設定温度に気をつける。
日野駅前 かわせみ 保育園	○保育園で仕入れている給食用牛乳の牛乳パックをそのままごみとして出さずに、幼児用の工作材料として使用する。 ○使用していない保育室や廊下の電気をこまめに消して節電を心がけている。
至誠いしだ 保育園	○ごみゼロマンによる環境学習会 ○ごみの分別を徹底している。 ○生ごみ処理機を設置し、余分なごみを減らしている。 ○節電を心掛ける。室内にいないときは部屋の電気を消す。 ○節水し、手洗い中の水をこまめに止めるよう、子どもにも声を掛ける。 ○紙の節約、裏紙の使用 ○食育活動の実施(野菜の皮むき、栽培、収穫)等体験し、食の重要さの認識 ○太陽光発電設置
むこうじ 保育園	○ごみの可燃物と不燃物の分別 ○コピー用紙の裏紙利用 ○生ごみ処理機の利用 ○野菜の栽培 ○地元での収穫祭 ○環境学習(ごみゼロマン、エコク馬來園) ○節水、節電 ○リサイクル制作 ○LED一部設置 ○食育活動 ○自然への興味関心、観察

(4)大学による環境への取組状況

実践女子大学の環境への取組

〒191-8510 日野市大坂上 4-1-1 (042-585-8817) URL <http://www.jissen.ac.jp/>

実践女子大学では、平成 26 年 4 月に文学部、人間社会学部及び短期大学部が渋谷校地に移転しましたので、現在日野大坂上校地では、生活科学部のみが教育を行なっています。学生数が 3 分の 1 になりましたので、本来、消費電力は大幅に削減されるのですが、移転に引き続き既存校舎の改修、除却工事を実施するとともに、新講義棟建設工事を行いました。その関係で消費電力の削減はまだ十分ではありませんが、平成 27 年度の電気使用量は 2,226kW で前年度比 1.3%の消費削減となりました。

新築した講義棟は、サーマルチューブにより地中熱を採熱して安定した地中の温度を活かすシステムの導入、温まった空気が自然に上昇することを利用した重力換気システムのソーラーチムニーの採用、全体空調によるエネルギーロスを防ぐため人の接する床下からじんわり空調を行う床放射空調を取り入れるなど、自然の力を利用した先進的エコシステムにより快適さと環境配慮を両立させた省エネルギー対応の施設となりました。

また、全キャンパスで省エネルギープロジェクトを組織して、省エネポスターの作成などによる全構成員の意識の向上、クールビズ、ウォームビズの実施と使用していない講義室の消灯、PC、AV 機器等の電源 OFF チェック、不在時の空調の停止、省エネ担当者がパトロールするなど、引き続き消費電力・エネルギーの削減に取り組んでいきます。

首都大学東京日野キャンパスの環境への取組

〒191-0065 日野市旭が丘 6-6 (042-585-8610) URL <http://www.sd.tmu.ac.jp/>

公立大学法人首都大学東京日野キャンパスでは、教員、職員、学生だけでなく、生協や清掃事業者などの関係者を含むこれらすべての人々が、立場を超え同じキャンパスに生活する一員として、自然環境と人間環境の両立に配慮したエコキャンパスの整備と未来を志向したエコライフスタイルの実践に、ともに取り組んでいます。

教職員や警備事業者などの関係者は、夏季における節電対策のライフスタイルの実践として暑さをしのぎやすい服装での執務を行う「夏のライフスタイル」を行なっています。

また、首都大学東京全体で、環境に配慮又はそれに寄与するための研究活動の推進、高い環境意識を持った学生を社会へ輩出する活動として「エコキャンパス・グリーンキャンパス」を推進しており、日野キャンパスにおいても推進部会を置いて、具体的な取り組みを検討及び実施しています。

2015 年度は、学生主体の環境保全活動を進めるため、全研究室に学生のエコリーダーを設置する取り組みを実施しました。

2015 年度の省エネルギー施策(抜粋)

- ・ゴミの廃棄方法の変更(ゴミ箱を施錠し廃棄時間の設定、事務室での分別確認)
- ・ポスターによる節電等の啓発強化
- ・日野市環境学習ごみ講師による「ごみの分別講習」開催(学生エコリーダー対象)
- ・学内で不要となった物品の斡旋(リユース)
- ・再資源化を目的にしたパソコンや周辺機器及び古紙類等の売払いを実施
- ・空調機器の利用制限や温度設定により電気等の使用量を削減

明星大学の環境への取組

〒191-8506 日野市程久保 2-1-1 (042-591-5111) URL <http://www.hino.meisei-u.ac.jp/>

明星大学は、2010 年度に日野市、明星大学、東京都の間で「東京グリーン・キャンパス・プロ

4. 環境への取組状況

グラム」の協定を結んで以来、日野市東光寺緑地保全地域を活動フィールドとした授業及び学生のサークル活動を行なってきました。2010 年 12 月に発足した明星大学緑地環境ボランティアサークルクローバーの部員は、月に 1 回の緑地管理ボランティアの会の活動に、学生ボランティアとして参加しています。定例活動では、竹や樹木の伐採を行う他、季節の行事として筍掘り等も実施しています。

10 月 18 日に環境・生態学系 1 年生の 50 名が、授業の一環として緑地保全活動を行いました。活動は 6 名で 8 班に分かれ、各班にはクローバーの 2～3 年生が TA として 1 名配属され、緑地管理ボランティアの会の方に指導していただき、モウソウチクの伐採や下草刈りを行いました。林床部がアズマネザサやススキなどに覆われ生物の多様性が失われていましたが、本活動により、毎年少しずつ、絶滅が危惧されている希少種などの生育環境が整備されています。

1 年生の授業で緑地保全を経験した学生の中から毎年数名、クローバーへの入部希望者が出てきます。特に環境・生態学系の学生の縦の繋がりが継続されていることは学生にとっても魅力的なことです。

緑と清流の町、日野市での緑地保全の取り組みの経験を活かし、緑関連のコンサルタントや市役所に就職して活躍している学生も増えてきました。クローバーの部員は毎年 3 名程度、日野市環境情報センター主催の雑木林ボランティア講座を受講して、修了証をいただいています。日野市民の方々と交流しながら、市内に残存する貴重な緑を守る活動に参加した経験は、社会人になっても活かしています。

(5) 事業者による環境への取組状況

日野市環境基本計画ではその主体を市民、民間団体、事業者、市の四者としています。2002 年度に国内でも先進的な取り組みとして、事業者自らがその事業内容を地域に積極的に公開する「リスクコミュニケーション」を始めたことをきっかけに、白書でも市内の事業者の環境への取り組みを掲載しています。

(株)いなげや 環境への取組

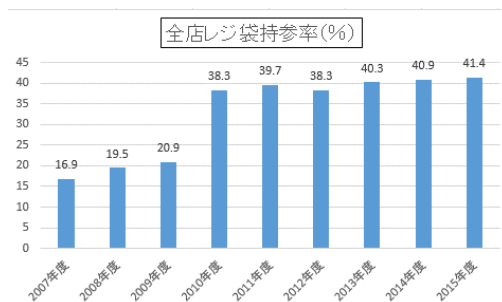
〒190-8517 東京都立川市栄町 6-1-1(本社) (042-537-5111) URL <http://www.inageya.co.jp/>

いなげやの環境問題への取組

レジ袋有料化の取組

日野市・杉並区の店舗におきまして各行政と地域のお客様のご協力のもと“レジ袋無料配布中止”を実施しております。

マイバックをお持ちでないお客様には繰り返し使えるレジ袋を 1 枚 5 円で販売しており、販売でえられました益金金額で、近隣の小学校に環境教材を寄贈致しております。



日野3店舗のいなげやのレジ袋持参率
2016 年 3 月度実績は
82.4%

店別削減実績データ(累計)				(16'3月時点)
	レジ袋削減枚数(枚)	CO2削減量(kg)	石油換算量(%)	杉1本換算(本)
日野駅前	2,530,846	156,912	46,314	11,208
日野栄町	2,817,331	174,675	51,557	12,477
日野万願寺	5,299,146	328,547	96,974	23,468

アイバスケットの推進

アイバスケットは精算後詰め替える手間もなく、そのままお持ち帰りできる便利なものです。



アイバスケットをもっていながら



アイバスケットを店内のかごと重ねてお買い物



レジ精算でアイバスケットに商品を移します。
支払い済みのしをつけてそのままお持ち帰り

食品リサイクルへの取組

2016年4月現在、96店舗で食品残渣のリサイクルを実施しています。
店舗より野菜屑やパンなどを分別回収し、飼料（豚の餌）、たい肥、屋上緑化用の人工土壌に再利用しています。
もちろん日野市にある3店舗も実施しております。

作業場での分別回収を実施



野菜屑やパン等から豚の餌に



従業員への啓蒙活動



ペットボトル回収で循環型社会の推進と地域貢献への取組



日野駅前店と日野万願寺駅前店では、ペットボトル自動回収機を設置し、再びペットボトルに再生させるという循環型社会の実現に取り組んでおります。

集めたペットボトルは1本に付0.2円に換算して、平成28年4月に日野市社会福祉協議会へ寄付させていただきました。



すこやけくの森・・・花粉の少ない杉の植樹と森林整備活動でCO₂の削減を推進中



東京都青梅市に開設した「すこやけくの森」は、弊社経営理念「お客様の健康で豊かな、暖かい日常生活と、より健全な社会の実現に貢献する」を具現化すべく、10年にわたり整備費を負担し、森林の整備活動として毎年2回、春と秋に「下刈り会」を実施。グループ新入社員を中心に、毎回約100名が参加し、森の育成を見守っています。

4. 環境への取組状況

コニカミノルタ東京サイト 環境への取組

〒191-8511 日野市さくら町1 (042-660-9426)

URL <http://konicaminolta.jp/>

コニカミノルタグループの取り組み

コニカミノルタグループは、持続可能な地球・社会の実現に貢献し、グローバル企業としての責任を果たすために、2050年までに実現すべき姿を示した長期環境ビジョン「エコビジョン2050」を策定しました。

エコビジョン2050を実現するためのマイルストーンとして、製品ライフサイクルにおけるCO₂排出量を2016年度までに2005年度比で40%削減することを中期目標としています。この削減値40%に到達するためには、172千トンの削減が必要であり、これを中期環境計画の各重要課題の削減目標(生産、物流、調達等)に展開しています(右図参照)。

東京サイトの取り組み

～東京サイト日野

「東京都トップレベル事業所(第二計画期間)」に連続認定～

コニカミノルタ東京サイト日野は、このたび、東京都により第二計画期間^{*}(平成27年度～平成31年度)初となる「東京都トップレベル事業所」に認定されました。^{*}:第一計画期間は平成22年度～26年度

「東京都トップレベル事業所」は、「地球温暖化対策の取り組みが特に優れた事業所」と認められた事業所に対して認定されます。東京都全体では、都心の最先端ビルを中心に全15事業所が認定されています。(日野市では当事業所のみ)

認定には、都が定める「地球温暖化取組状況(工場区分352項目)」に基づき、ボイラーなど高効率設備の導入から、事務居室の照度管理(明るすぎない)等地道な活動まで含む、広範囲に亘ったきめ細かい対応が必要です。

当事業所は、第一計画期間に続き、総合的な取り組み状況が「特に優れている」と評価され、認定基準をクリアすることができました。さらに、認定後も、高効率水チラー(水冷却装置)の導入など、更なるエネルギーの有効活用策を推進しています。

今後も「トップレベル事業所」の名にふさわしい省エネ活動を実践し、持続可能な地球・社会の実現に貢献していきます。

～東京サイト日野「救いの泉」から水供給など、地域の災害対応を支援～

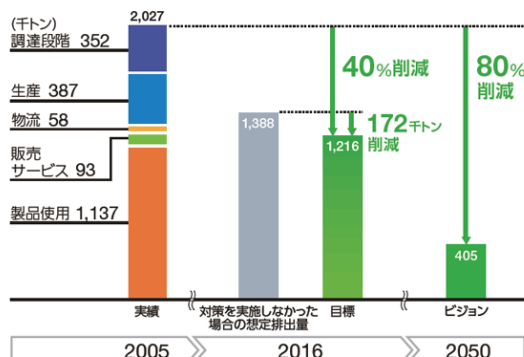
東京サイト日野は、平成26年度に、停電時においても稼働できるよう、深井戸及び浄水設備(ろ過設備、殺菌・給水設備、排水設備)に自家発電装置を設置し、清涼な地下水を継続供給できる防災水資源「救いの泉」を完成させました(飲料水:700 m³/日、生活用水:6,000 m³/日供給可能)。

日野市及び日野市立病院と災害時協力協定を締結し、地震などの災害時に、日野市立病院と近隣住民に対する飲料水および生活用水を提供します。

このたびの熊本の震災においては、現地への飲料水提供活動に協力することができました。

「救いの泉」からの水供給により、人命や地域を守ることにつながるものと考えています。

ライフサイクルCO₂排出量の削減目標



注: 2014年度からライフサイクルCO₂排出量の削減目標の対象に調達段階のCO₂排出量を加えています。

エコビジョン2050

1. 製品ライフサイクルにおけるCO₂排出量を、2050年までに2005年度比で80%削減する。
2. 限りある地球資源の有効活用の最大化と資源循環を図る。
3. 生物多様性の修復と保全に取り組む。



高効率チラー(水冷却装置)2015年度導入

GEヘルスケア・ジャパン(株) 日野本社・工場 環境への取組

〒191-8503 日野市旭が丘 4-7-127 (042-585-5111) URL <http://www.gehealthcare.co.jp/>

1. 地球防衛軍 アクティビティ

GEヘルスケア・ジャパン日野工場では、各職場から選出された14名のメンバーで地球防衛軍を結成し、環境改善プロジェクトを展開しています。紙・ゴミ・電気から実業務に即したプロジェクトまで多岐にわたる改善を継続的に実施しています。以下に数あるプロジェクトの中から3つをご紹介します。

1.1 エコカー切替えプロジェクト

850台ある業務車両を、順次 Hybrid カーへ入れ替えるプロジェクトを進めています。本年度は42台を入れ替え、ガソリン消費量を44,000リットル削減しました。CO₂換算で約500トンの削減になっています。このプロジェクトのユニークなところは、交通事故削減活動を同時に進めているところです。「事故のない運転=エコな運転」のコンセプトからです。



1.2 空調リニューアルプロジェクト

本社工場の空調熱源をガス燃焼式から最新エコタイプの空冷電気式へリニューアルしました。エネルギー使用量56%ダウン、CO₂排出量60%オフ、更にランニングコストが43%も削減されました。エコで快適な職場環境を創ることができました。



〈空冷電気式熱源〉

1.3 製品梱包材再利用プロジェクト

海外工場で生産された製品を日野工場で調整検査し、お客様へお届けしています。従来、海外工場から届いた製品のパレットは開梱時に廃棄され、お客様へお届けする際、新しいパレットを使っていましたが、梱包設計を変更し、再利用できるようにしました。

廃棄パレット削減と新たなパレット購入がなくなり大きな成果が出ました。



〈再利用可能になったパレット〉

2. 太陽光発電システム

2014年に設置した本社工場の太陽光発電(58kW)が元気に稼働しています。電気の地産地消を進め地球温暖化ガス低減に努めています。

年間発電量	63,000kWh
CO ₂ 削減量	31 トン



〈本社工場の太陽光発電システム 58kW〉

GEヘルスケア・ジャパンは、今後も、環境に対する取り組みを推進してまいります。

4. 環境への取組状況

(株) スーパーアルプス 環境への取組

〒192-0011 八王子市滝山町 2-351 (本社) (042-692-2739) URL <http://www.superalps.co.jp/>

当社では、環境への取り組みとして、大きく分けておもに、次に挙げる2つの面で推進しております。

1. 省エネルギー、省資源の取り組み

2. 廃棄物の削減、リサイクルの推進

まず、一つめの省エネルギー、省資源についての中心となるのが、節電対策です。

新店舗、既存店舗の改装においては、①LED照明への切り替えによる節電。②省エネルギー型の冷蔵ケース導入による節電。この2点を柱に、店舗の省エネルギー化を推進しています。店舗によりますが、効果としては、既存店舗と比較して消費電力で概ね20%を超える削減効果があったと試算しており、今後の新店舗、改装店舗についても導入を進めてまいります。また、店舗改装を伴わない店舗においても、照明のLED化を、少しずつですが推進しています。

新たな取り組みとして、売場冷蔵オープンケースの夜間カバーをビニール製のものから節電効果の高い布製のものに変更を進めています。全体に占める節電率としてはわずかですが、冷蔵オープンケースの夜間消費電力について30%の削減効果があると試算しています。他、店内のエアコンについては、夏の高稼働時期を前に、専門業者による内部洗浄を行い、効率化に努めています。また、節電以外の取り組みとして、節水コマの設置を進めています。店舗内の全蛇口に設置することで、水道使用量が10%~15%削減出来ると試算しています。

次に、二つめの、廃棄物の削減、リサイクルの推進についてです。現在、分別・再生を行なっているものとして、食品残渣、プラスチック、ペットボトル、キャップ、トレー、たまご容器、牛乳パック、空き缶、段ボール、紙、発泡スチロールがあります。従業員やお客様への啓蒙活動を進めてさらに回収率を上げていきたいと考えております。

また、店舗への納品形態について、定期的に繰り返し取引のある業者様につきましては、可能な範囲で、コンテナによる納品を推進していただいております。他、エコバック・マイバック持参に対して、2ポイント、2円相当のポイント付与を継続して実施し、レジ袋の削減に努めています。

セイコーエプソン(株)日野事業所 環境への取組

〒191-8501 日野市日野 421-8 (042-586-6226) URL <http://www.epson.jp/SR/environment/>

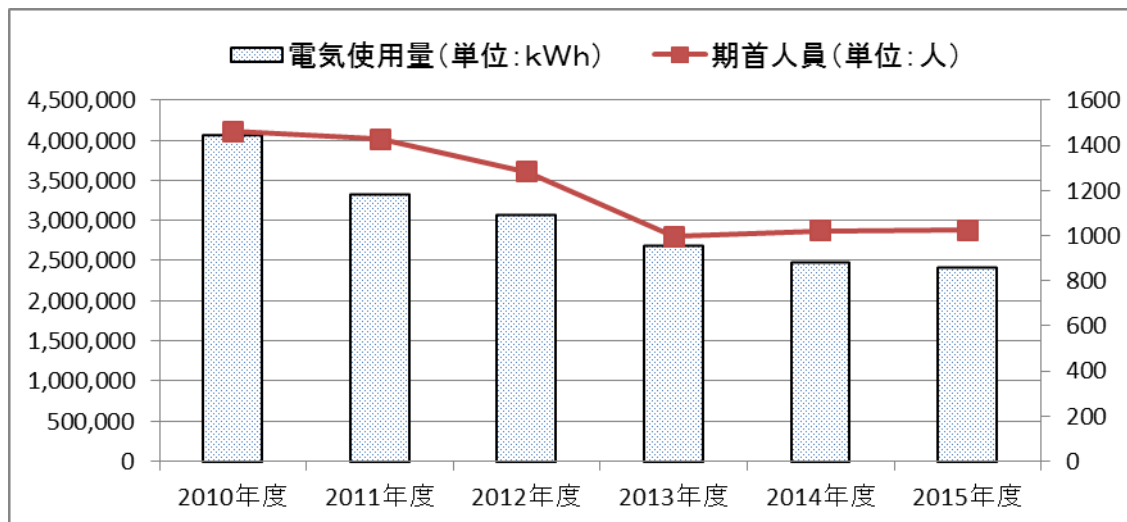
セイコーエプソングループでは、『革新的な「省・小・精」の技術」で、商品・サービスのライフサイクルにわたる環境負荷低減をお客様価値として提供し、持続的な発展をもたらす』ことを方針として、『全社環境総合施策』に基づき、各事業体・各社が環境活動の推進に取り組んでいます。

また、環境負荷を削減・改善するために、高い環境性能と、循環型の印刷環境をお客様へ提供してまいります。

当事業所はセイコーエプソンとグループ会社2社で構成されており、各社の専門分野における環境活動は各社それぞれの業務の中で推進し、当事業所全体での環境活動は各社共通課題の「省エネ」、「省資源・再資源化」、「地域社会貢献」を3本柱として、連携・協力して推進しています。

1. 省エネ活動

東日本大震災の影響による電力供給不足を契機にスタートした『緊急省エネ活動』を現在もグループ全体で継続中です。当事業所においてはグループ3社の連携・協力のもと、業務体制の見直しによるスペース集約、基礎設備の稼働制限・一部更新、空調管理の徹底(夏期28℃、冬期20℃設定)、定時退社日の徹底等による節電対策およびこまめな照明消灯等による職場における全従業員参加の節電活動を展開し、2015年度は電気使用量を2010年度比で40%削減することができました。



2. 省資源・再資源化

事業所から排出される廃棄物の 65%が紙類で、そのほとんどを再資源化しています。また、印刷環境の見直しと最適化の推進により、排出量の減量化にも努めています。

一方、再資源化できない可燃ごみ(不衛生なごみ)については、1人1日あたりの排出量として、2015年度は年間平均値で 15.9 g という成果をあげることができました。

3. 社会貢献活動

春・秋 2 回の日野市内一斉清掃への参加、地域公共団体での役員活動、エコキャップ活動、特別支援学校、中学校の職場体験実習受入、フットサル大会への協賛および地域自治会との交流等、地域との共存に重点を置いた社会貢献活動への取り組みを推進しています。

また 2012 年度からは、ベルマーク運動への支援拡大を図るため、使用済みとなった当社製インクカートリッジとトナーカートリッジの回収を当事業所内でもはじめました。当事業所に勤務する従業員のみならず近隣住民の方やお客様のご協力もあり、2015 年度は 12,685 ポイントをベルマーク財団経由で寄贈し、資源の有効活用と廃棄物の減少による地球環境保全を図りながら、教育支援という社会貢献活動への参画を実現しております。



東京ガス株式会社 環境への取組

〒192-0071 立川市曙町 3-6-13 (042-526-6125) URL <http://www.tokyo-gas.co.jp/>

東京ガスは事業活動における CO₂排出の抑制、および、お客さまのエネルギー利用における環境負荷の低減に努めています。お客さまのエネルギー利用に伴う CO₂排出の抑制対策として、環境性に優れた天然ガスの利用促進や高効率機器の開発・普及に積極的に取り組んでおり、天然ガスコージェネレーションシステムによる分散型エネルギーシステムの普及拡大、太陽光・太陽熱・バイオマスを始めとする再生可能エネルギーの利用促進、潜熱回収型給湯器「エコジョーズ」等の省エネ機器の普及促進により、環境負荷低減に貢献しています。また、地域全体の効率化としてスマートエネルギーネットワークの構築に取り組むと共に、次世代へのエネルギー環境教育にも力を入れ、低炭素社会の実現に貢献してまいります。

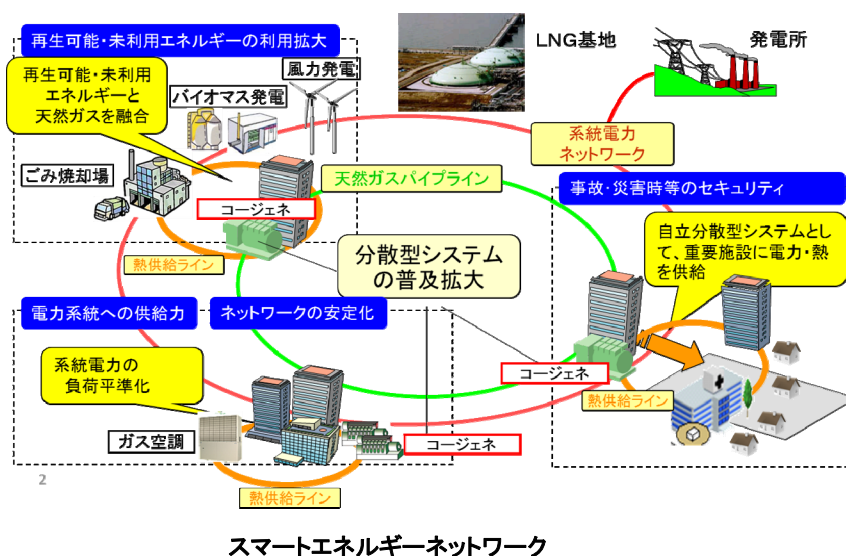
4. 環境への取組状況

1. 家庭での取り組み 「エネファーム・エコジョーズなど省エネ機器の普及促進」

都市ガスから取り出した水素と空気中の酸素との化学反応で発電する、家庭用燃料電池「エネファーム」。発電時の廃熱を利用し、お湯を作るガスを削減できるため、エネルギーを効率的に利用でき温暖化対策の切り札として期待されています。給湯器では、熱効率が95%まで向上した「エコジョーズ」が省エネ・CO₂削減に貢献しています。また、身近にできる省エネのコツや省エネ機器の選び方などの情報提供を行ないお客さまの省エネ活動を推進しています。

2. 地域全体の効率化の取り組み 「スマートエネルギーネットワークの構築」

スマートエネルギーネットワークは、既存の都市ガス・電気のネットワークと、高効率コージェネレーションなどの分散型エネルギーシステム、太陽光・太陽熱などの再生可能エネルギー、廃熱などの未利用エネルギーを組み合わせ、ICT(情報通信技術)を使って建物単位、地域でエネルギーを面的に最適利用し、省エネ・省CO₂を図り、事故・災害時等のセキュリティ向上を可能とする次世代のエネルギーシステムです。この実現に向け、さまざまな技術が研究・開発され、複数の地域や街で導入を開始しています。



3. 市民への環境情報等の提供や小・中学校での出張授業の実践

東京ガスは日野市の環境イベントへの参加、エコ・クッキングの講座開催、小中学校への出張授業、企業館での校外学習等を通じてエコライフや省エネの生活提案を行なっています。これからも人と環境に優しい活動を実践・支援してまいります。

日野自動車(株) 環境への取組

〒191-8660 日野市日野台 3-1-1 (042-586-5563)

URL <http://www.hino.co.jp/>



写真：左から、大型観光バス「日野セレガ ハイブリッド」、大型路線バス「日野ブルーリボン ハイブリッド」、中型トラック「日野レンジャー ハイブリッド」、小型トラック「デュトロ ハイブリッド」

日野自動車は、「豊かで住みよい地球をめざし、新たな価値を創造し続ける」という企業理念のもと、環境保全を経営における重要課題と位置付け、積極的な活動を推進してきました。地球規模で進む地球温暖化や環境汚染を低減していくことは人類共通の課題です。

そのようななかで日野自動車も事業活動のグローバル化を進め、果たすべき社会的責任も大きくなっています。「社会・地球の持続可能な発展」のためにも、全員参加で継続的に社会貢献や環境保全に取り組んでいます。

1. 製品開発における環境への取組

日野自動車は1991年、世界で初めてハイブリッドバスを商品化・販売して以来、常に業界をリードしてきました。

2013年10月には、日野が長年にわたって培ってきたノウハウを結集しプラグインハイブリッドバスを開発しました。

今後も、日野自動車が持つ技術力を活かし、燃費を飛躍的に向上させた商品を世界に提供することにより、環境保全に貢献できると考えます。

2. 生産活動における環境への取り組み

生産活動においても日野自動車はCO₂削減、資源の有効利用 など環境に積極的に取り組んでいます。

その一例として工場やラインの新設時には、企画・設計段階から「順法」「環境リスクの未然防止」「環境パフォーマンス向上」を迫及したエコファクトリー活動を通じて環境に配慮した工場設計を行なっています。

また、5ヵ年毎に環境取り組みプランを作成し、グループ会社と一体となって、CO₂、排出物、化学物質等、それぞれの削減シナリオに基づいた改善活動を推進しています。

現在は2016年より2020年までの取り組み計画として『第6次環境取り組みプラン(2020年プラン)』を推進中です。

3. 地域社会との交流による環境への取り組み

日野自動車は、工場の操業について周辺住民の皆様のご理解を得るため、日野工場をはじめ、地域社会との情報交換会や地域行事へ参加したり、懇親会を定期的で開催してコミュニケーションを積極的行なっています。

富士電機(株) 東京工場 環境への取組

〒191-8502 東京都日野市富士町1 (042-583-6115) URL <http://www.fujielectric.co.jp/>

富士電機環境保護基本方針として

- 1) 地球環境保護に貢献する製品・技術の提供
- 2) 製品ライフサイクルにおける環境負荷の低減
- 3) コミュニケーションの推進

があります。この項目に対応する最近の事例をご紹介します。

1. 新棟の建設(地球環境保護に貢献する製品・技術の提供)

2015年11月に当地区内に技術開発を中心とした新棟を建設しました。建物の規模は鉄骨造6階建て、延べ床面積は約18,000㎡(免震構造)となり、建物仕様はスマートBEMS(ビルエネルギーマネジメントシステム)を中心とした

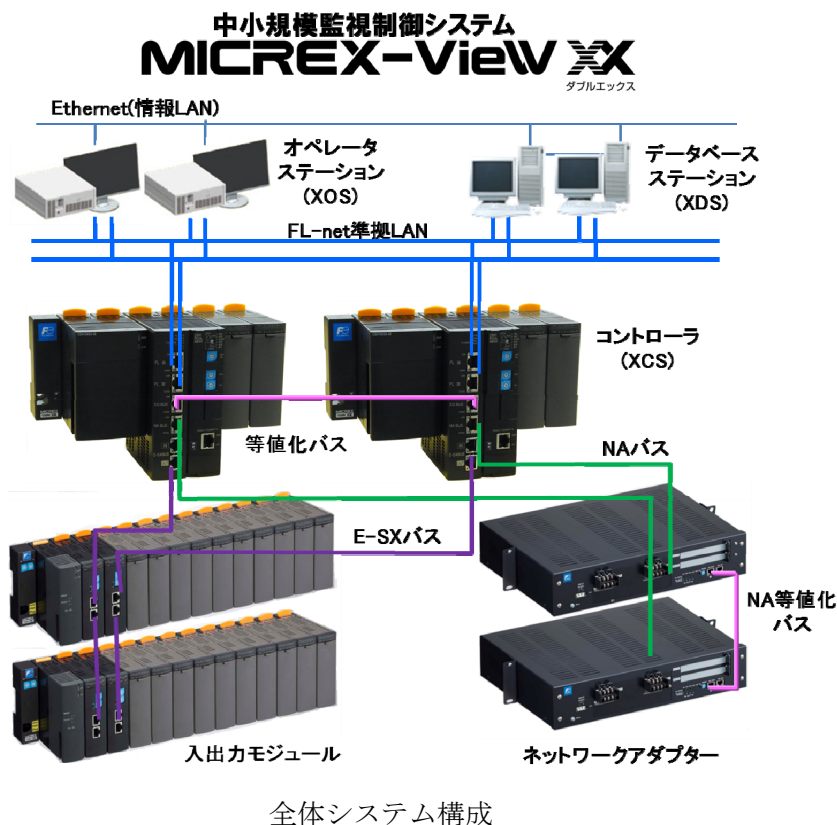


4. 環境への取組状況

省エネ、安全・安心に配慮した設計となっております。スマート BEMS では燃料電池、太陽電池、蓄電池を導入したエネルギー計測・予測最適制御システムで他の空調設備と合わせて工場のエネルギーの約 7.7%(原油換算) の削減が予想されます。

2. 新監視制御システムの開発・製造・販売 (製品ライフサイクルにおける環境負荷の低減)

富士電機東京工場では監視制御システム製品 MICREX-View XX を開発・製造・販売しています。本製品の中核であるコントロールステーション XCS-3000 は、従来機種にくらべ容積が 70% 減少、消費電力が 53% 減少、ネットワーク通信速度が 10 倍となり、製品ライフサイクル全体で環境負荷の低減に貢献しています。この製品は日本電機工業会 (JEMA) 2106 年度表彰で奨励賞を受賞しています。



3. 日野市遊休農地活用協力開始(コミュニケーション)

富士電機東京工場地区の CSR 活動として今年から日野市遊休農地の活用に関心をもちました。日野市の遊休農地は高額課税されるため売却が進み住宅化で緑地が減少しています。それを防止するため週末農作業として労働力を提供し、対価として農産物を受け取る活動を本年 1 月から開始しました。活動団体名を「富士しんせんぐみ」とし富士電機及び関係会社の社員とその家族・OB がボランティア参加で活動しています。



日野市遊休農地活用協力の畑

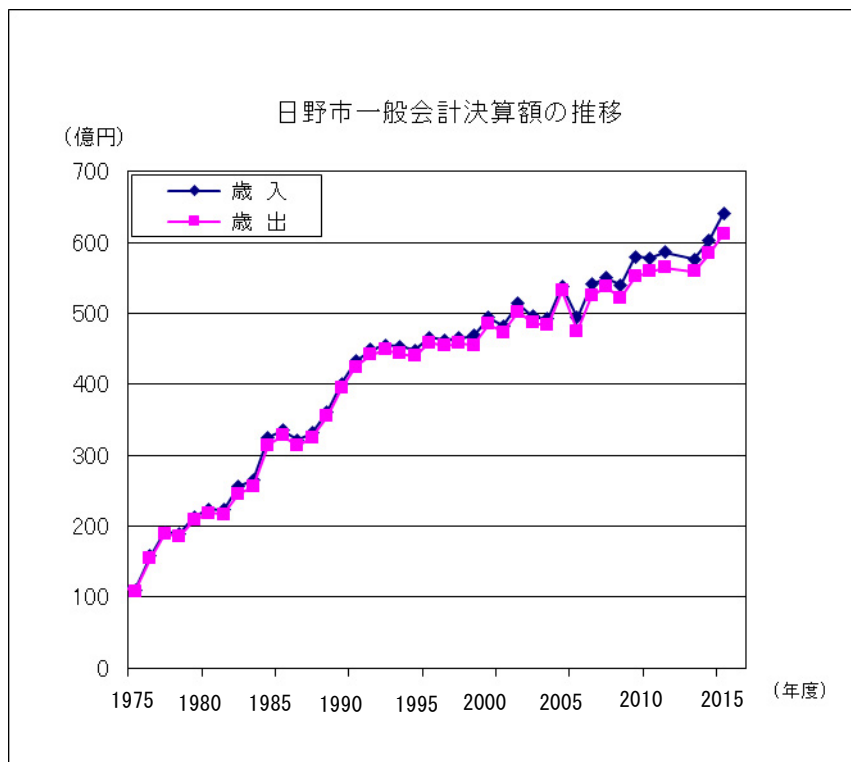
5. 環境関連決算額（2015 年度）

(単位 千円)

関連分野／項目		2015 年度
緑	環境緑化基金繰入金	168,000
	農業体験等推進事業	32
	農業改善	177
	振興対策	7,012
	市民農園育成	7,566
	援農制度育成	585
	都市農業シンポジウム	121
	認定農業者支援	1,047
	援農ボランティアコーディネート事業	71
	日野産ブランド支援事業経費	207
	学校給食用地元野菜等供給支援	7,255
	公園管理経費	97,211
	日野緑地整備事業経費	46,925
	七ッ塚公園整備事業経費	71,149
	健康づくり推進事業経費	1,890
	北川原公園整備事業経費	21,821
	ねんも公園整備事業経費	8,195
	緑化推進事業経費	24,293
	緑の保全事業経費	13,426
	七生丘陵の自然と歴史調査事業	165
	田んぼの学校運営業務経費	224
水	し尿処理施設経費	10,605
	し尿収集経費	31,838
	し尿処理施設整備経費	1,687
	河川総務費一般管理事務経費	1,057
	清流啓発事業経費	2,178
	雨水浸透施設設置事業経費	763
	河川維持管理経費	153,566
	河川新設改良経費	2,025
	下水道事業繰出金	1,961,132
ごみ	ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金繰入金費	121,245
	生ごみ処理機保守	358
	清掃総務費一般管理事務経費（人件費を除く）	21,890
	クリーンセンター維持経費	78,403
	ごみゼロ施策推進事業経費	133,621
	資源回収奨励事業経費	14,947
	資源物回収事業経費	391,808
	容器包装リサイクル法関係事業経費	35,600
	資源有効利用促進法関連事業経費	87
	生ごみリサイクル事業経費	2,357
	広域循環組合経費	436,215

関連分野／項目		2015 年度
ごみ	第3次ごみゼロプラン策定事業経費	9,025
	新可燃ごみ処理施設一部事務組合経費	45,568
	ごみ処理施設経費	130,994
	ごみ処理施設延命化対策経費	319,403
	可燃ごみ収集経費	364,296
	粗大ごみ収集経費	58,613
	不燃ごみ収集経費	181,803
	動物死体収集運搬経費	1,666
	ごみ焼却施設運転管理・警備経費	123,660
	ごみ処理施設排出物調査経費	1,911
	新可燃ごみ処理施設建設準備経費	7,161
	新可燃ごみ処理施設建設整備経費	97,514
	新可燃ごみ処理施設周辺環境整備経費	53,704
	クリーンセンター施設更新準備経費	18,651
地球温暖化防止	ふだん着で行うCO ₂ 削減事業経費	2,353
	歩きたくなるまちづくり経費	3,888
	自転車対策経費	37,355
	交通網整備支援経費	94,221
生活環境	消費者啓発事業経費	3,547
	消費生活相談事業経費	8,000
	消費生活運動育成事業経費	709
	地域の食育推進事業	24
	食育推進会議	299
	生きもの共生事業	1,622
	空き地環境保全経費	14
	市内一斉清掃事業経費	1,329
	喫煙マナーアップ経費	365
	公害環境対策経費（人件費を除く）	5,671
総合	空き家対策経費	3,290
	環境審議会事務経費	123
	環境保全推進経費	767
	環境情報センター経費（人件費を除く）	8,208
	再生可能エネルギー活用推進事業経費	4,854
	生物多様性地域戦略推進事業経費	5,400
	第2次環境基本計画中間検証事業経費	3,297
	（仮称）東豊田複合施設建設準備経費	21,600
	まちづくり条例経費	184
	まちづくり計画経費	27,759
開発指導・地区計画届出受理経費	277	
ユニバーサルデザイン事業経費	646	
		5,528,502

5. 環境関連決算額



日野市一般会計決算額の推移

2015 年度一般会計決算額

歳入 64,122,654,940 円

歳出 61,299,272,970 円

日野市一般会計決算額は（歳出）4.7%増。環境関係決算額は3.1%増。

<主な増加予算>

増加 ・環境緑化基金繰入金

- ・河川維持管理経費
- ・ごみゼロ施策推進事業経費
- ・資源物回収事業経費
- ・ごみ処理施設延命化対策経費
- ・まちづくり計画経費

新規 ・ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金繰入金

- ・第3次ごみゼロプラン策定事業経費
- ・第3次ごみゼロプラン策定事業経費
- ・新可燃ごみ処理施設一部事務組合経費
- ・新可燃ごみ処理施設建設準備経費
- ・新可燃ごみ処理施設建設整備経費
- ・新可燃ごみ処理施設周辺環境整備経費
- ・(仮称)東豊田複合施設建設準備経費

6. 市役所の環境配慮の状況

(1) 日野市環境マネジメントシステム

日野市の事務事業における環境負荷の低減と環境保全への積極的な貢献を行う仕組みを確立し、運用することを目的とし導入しています。

<これまでの経過>

2000 年度	日野市環境方針制定、マネジメントシステム運用開始、ISO14001 認証登録
2003 年度～ 2007 年度	生活・保健センター、防災情報センター、水道事務所、建築指導課、環境情報センター、郷土資料館、中央公民館、高幡台分館、図書館(全館)を適用範囲に加えた。
2011 年度	クリーンセンター事務所を加えた。
2012 年度	認証期間の満了に合わせて ISO14001 自己適合宣言に移行(12/6)※
2013 年度	2014 年度導入予定の独自 EMS の構築に向けて準備
2014 年度	日野市独自の環境マネジメントシステム「ひのエコ」に移行

※自己適合宣言とは、外部機関からの認証ではなく、自らがシステムに適合していることを宣言するもの

<環境マネジメントシステムでの取組>

毎年度、各部署の事務事業がどれくらい環境に影響を与えるかを調査し、その結果を基に具体的な目標・目的設定して各部署が取り組むプログラムを作り実行します(2015 年度は 67 プログラムを実施)。そして、各プログラムの達成状況を四半期ごとに評価し、進捗状況に応じて取り組み方法を見直すなどの改善を行い、目標の達成に向けて行動しています。

<取り組みのチェック及び評価制度>

1 年に一度、環境監査を実施しています。これは、環境監査員に任命された職員が各職場に入り、各課の取り組み(プログラム)状況や、決められた手順に従い実施しているかをチェックするものです(2015 年度は 7 月 14 日、15 日実施)。2014 年 4 月に日野市独自の「ひのエコ」に移行しました。これは、環境方針に基づくシステムに関する事項を定め、日野市一丸となった環境改善と管理、維持を行なっていくもので、外部機関の検査が無いことから、自己チェックが大変重要となります。



2015 年度環境監査風景

[クローズアップ優秀部署表彰の取組事例]

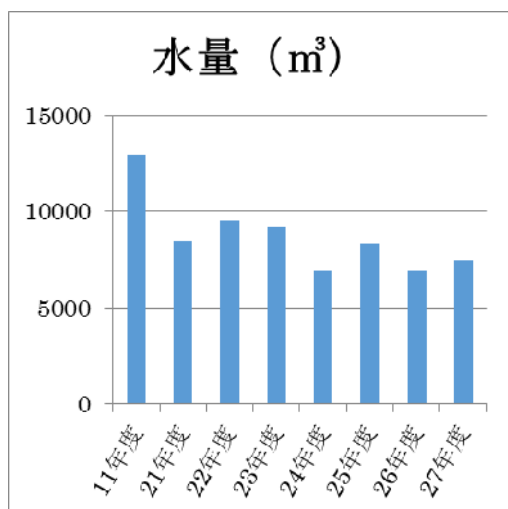
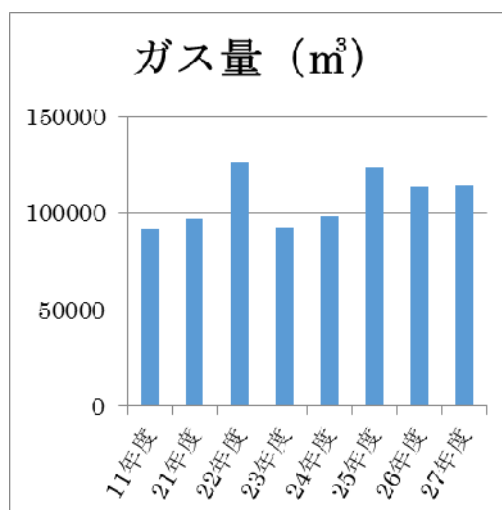
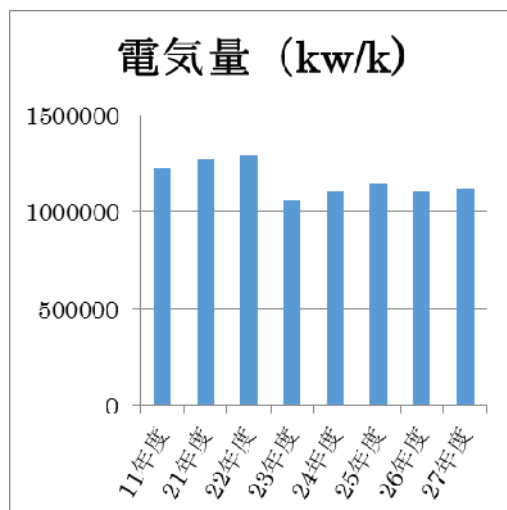
年度	該当部署	取組事例
2015	郷土資料館	企画展「エコな暮らしの再発見 -ちょっと昔の道具たち-」の開催及び小学校3年生を対象に民俗収蔵展示室の見学や農具体験及び学校への出前授業を行ない、昔の環境にやさしいエコな生活の大切さを啓発しました。
	ごみゼロ推進課	既存の啓発イベントに加え、最終処分場見学会など、市民からの要望を踏まえて積極的に新規イベントを企画しています。
	防災安全課	防災用の備蓄食料は備蓄されたまま期限切れを迎え、そのまま廃棄されてしまう可能性が高いのが実情です。しかしながら「ローリングストック法」は普段から食べているものを備蓄するため、消費し忘れる心配も少なく、食料の廃棄等の無駄が減り、防災面だけでなく環境面にもプラスな、誰でも今すぐ始められる取り組みです。

6. 市役所の環境配慮の状況

そこで、環境監査の充実を目的に調布市、府中市、昭島市と2014年9月に環境マネジメントシステムに係る相互環境監査に関する覚書を交換し、4市での相互監査を行っています。ルールに従い各課が取り組んでいるのかを確認するほか、環境監査としてしっかり機能しているかについても4市でお互いにチェックしています。

【環境負荷低減の実績～本庁舎～】

職員1人ひとりの省エネ・省資源の意識と取り組みを確実に実践してきた結果が下記のグラフに表れています。(グラフ参照)ISO14001導入により、本庁舎内にあった冷蔵庫や電気ポット、コーヒーマーカーなどをほぼ撤去するなど、エネルギーの使用削減に向けた徹底した取り組みがスタートしました。その後、土曜開庁や1人1台パソコンの導入など、エネルギー消費増につながる施策もありましたが、職員は地道な環境配慮行動を実践してきました。東日本大震災の影響による電力の安定供給が危ぶまれた2011年の大規模な節電対策に対しても、混乱することなく粛々と取り組めたのはこの12年間の経験があったからだと思われます。今後も引き続き、環境負荷低減に取り組んでまいります。



※ このグラフは、本庁舎におけるエネルギー使用量の推移を表しています。
(ISO14001 認証取得は当初、本庁舎のみ適用のため)

7. 環境基本計画の推進体制

（１）環境基本計画の推進

第2次環境基本計画策定から4年が経過しました。確実かつ継続的に計画に取り組むためには、推進体制の確立が非常に重要です。第1次計画の策定時にも推進体制を整備しましたが、役割分担が明確でなかったこともあり、効果的に進めることができませんでした。その課題を踏まえ、第2次計画では市・市民・事業者の役割を明確にしたうえで、市が進めるべき施策はその主管課が中心となり、市民の皆さんと定期的に検討して進めていく仕組みを整備しました。

現在、みどり分野、水分野、ごみ分野、CO₂分野の4つの分野に分かれ、それぞれの主管課と定期的な会議を開催しています。

先人から受け継いだ豊かな自然を次の世代に引き継ぐために、多くの市民の皆さんと共に取り組んでいきたいと思えます。日野市の自然に関心のある方は、ぜひ各分野の会議に参加してください。

各分野の会議に参加し、計画を推進している市民の皆さんから、これまでの取組状況や課題などを報告します。

【みどりグループ】

11月に担当した環境情報センター主催の“みんなの環境セミナー”では、重点施策である「ボランティアによる里山の管理と活用」に沿い、『日野の雑木林は今～雑木林を歩いて考える』というテーマで、南平丘陵公園から黒川清流公園まで歩きました。南平丘陵公園では萌芽更新、黒川清流公園では下草刈りなどの環境保全活動をボランティアの方々が行なっている現場を実際に見学しました。その後、地区センターで参加者のみなさんと市の担当者を交えて、雑木林の管理についてディスカッションしました。今後のセミナーでは、子どもたち対象の雑木林の体験プログラム、準絶滅危惧種植物であるミクリの保全などをテーマとする予定です。

【水グループ】

重点施策9「用水路改修補修計画の策定」、重点施策8「水循環に寄与する方策の検討」および環境基本計画中間検証に取り組みました。

進行管理が重点施策においても環境基本計画での具体的な取り組みを明確化されず、形だけの進捗管理が行われ、主管課との定期的会議での検討も深めることができず、後半は定期的会議も出来ませんでした。

中間検証での見直しが市と市民の間で確認され、進行管理、推進体制を確立することを期待します。

【ごみグループ】

ごみグループとしては、レジ袋削減を中心に、ごみ全般の減量・資源化に取り組んでいる「ごみ減量推進市民会議」と、生ごみリサイクルに取り組んでいる「ひの・まちの生ごみを考える会」があります。それぞれごみゼロ推進課と毎月1回定例会議をもっています。

7. 環境基本計画の推進体制

前者は、現在、スーパー、市民団体、行政の3者で「レジ袋無料配布中止に向けた共同会議」を定期的に開催し、5月と10月のマイバッグ持参強化月間には各スーパーの店頭でマイバッグ持参率の出口調査を実施しています。

後者は、その下部組織の「生ごみリサイクルサポーター連絡会」がダンボールコンポストの普及に取り組み、一方、新井の「せせらぎ農園」では生ごみ堆肥で野菜作りをしています。

【CO₂グループ】

CO₂グループは市民、事業者、環境保全課と環境情報センターのメンバーを加えて、月1回の定例会を開催しています。情報を共有し、施策を具体的に進めることで成果を出そうと努力を続けています。

日野市環境基本計画の「低炭素社会を築くまち」を目標に、施策を実施・管理する役割を担っています。施策の実施は行政が中心となり、グループ全員が協力する形で、ほぼ計画通り進めています。施策の中心は、市内の全小学生を対象として夏・冬の年2回行うエコキングで、既に10年間継続して実施してきました。この貴重なつながりを活用して、これからは保護者に対しても、CO₂削減の重要性を訴えて行きます。

地球温暖化対策は誰もが取り組まなければならない問題ですが、まだまだ一人ひとりの問題になっていないと思います。近隣自治体、企業、大学などと連携し、活動の輪を広げることで、より成果を上げられないか考えて行きます。

(2) 日野市環境情報センターの活動状況

2015年度の環境情報センターの活動状況は次のとおりです。

① 環境に関する情報の収集・発信

2015年度までに収集した報告書や年報などの文献は3,718点で、その内訳は右の表に示すとおりです。

館内には市内の川や用水に生息する淡水魚の水槽展示、昆虫の標本や珍しい「モズのハヤニエ」の標本、オオスズメバチなど4種類のスズメバチの個体標本や大きなスズメバチの巣の実物展示、樹齢131年のサワラの年輪標本(日野市関連年表を表示)、手作りの小水力発電機などを展示しています。

＜文献の種類＞	累積点数
日野市関係	358
国関係	326
東京都関係	545
都区内・都市町村関係	458
他道府県関係	133
民間企業・大学関係	565
自治体会議・協会・諸団体出版物関係	460
単行本	752
ビデオテープ・CD-ROM・DVD	121
合計	3,718

そのほか環境関連の市民団体が発行するニュースやパンフレット、小学生を対象としたいろいろな図鑑や、専門的な研究に役立つ文献、動植物の生態に関するビデオ・DVDや植物の写真データの画像資料などを常設展示しています。

② 日野市環境白書の刊行

市を取り巻く各種環境問題や定期的に行われている調査結果をはじめ、行政、事業者、市民団体、市内の学校(幼、小、中、高、大学)などの環境保全に対する取組状況について年次報告書としてまとめました。日野市環境白書は毎年12月に発行しています。

③ 環境情報センター年報の刊行

環境白書には紙数の関係で掲載できなかった情報の詳しい内容や分析、センターで実施した「環境セミナー」の内容などを年報としてまとめ発行します。

④ かわせみ館フェアの開催

かわせみ館フェアは市内で様々な環境保全活動をしている市民団体の取組みや環境情報センターの活動内容を市民に知ってもらうことを目的に、2013 年度からスタートしました。毎年春に開催する予定です。

⑤ 環境学習会等の開催

a. 子ども対象

市内の小・中学校の総合学習(低学年は生活科)等への出張授業は、環境学習をサポートする市民団体“ひのどんぐりクラブ”との共催で実施しました。2015 年度の実施回数は 92 回、生徒、成人を合わせた参加者数は 8,744 名(前年比 116%)でした。詳細は 68 ページをご覧ください。

b. 環境セミナー・市民環境大学など

成人を対象とする環境学習会である「市民環境大学」(20 回開催)や「みんなの環境セミナー」(8 回開催)等は 2015 年度に 41 回開催し、参加者数は延べ 531 名(前年比 80%)でした。

実施日	テーマ	講師、会場、参加団体など	参加者
2015年5月～12月	第 7 期市民環境大学 全 20 回	講師:小倉紀雄氏 地球環境問題の連続講座	343
2015年5月～11月	中央大学との連携事業13回	中大生の環境意識調査、環境フェア、産業まつりなど	56
2015. 4. 4	(み)カブトムシを育てよう	講師:森川正昭氏、市役所 101 会議室	33
6.28	(み)集まれ! 昆虫キッズ	講師:森川正昭氏、環境情報センター会議室	21
7. 2	(み)谷仲山の水と緑の探検<大>	講師:小倉紀雄氏、谷仲山	19
8. 1	(み)向島用水と水車を見る・知る・探る	講師:日野の水車活用プロジェクト、向島用水水車小屋	20
9.19	(み)虫や風を利用する花たち <ボ>	講師:田中肇氏、鳥と緑の国際センター・南平丘陵公園	48
10.24	(み)里山づくり <ボ>	講師:倉本宣氏、生活保健センター講座室・神明上緑地	36
11.21	(み)日野の雑木林は今	講師:みどりグループ、南平駅～黒川清流公園など	14
12. 3	(み)向島用水を見る・知る・探る <大>	講師:小倉紀雄氏、向島用水親水路	20
合 計	実施 41回	延べ人数	531

注 1)(み)は「みんなの環境セミナー」であることを示します。また<大>は市民環境大学の公開講座であり、<ボ>は雑木林ボランティア講座の公開講座であることを示します。

2) 合計欄に示す延べ人数 531 名は、市民環境大学、雑木林ボランティア講座の受講生のうち、公開講座として開催された環境セミナーに参加した人数 79 名を除いた数です。

c. その他

「日野市学校教員向け自然観察研修」や「学校周辺の自然観察研修」など、小学校の教員向けの環境学習や自然観察についての研修要請や「エコ・アクション」にも協力しています。

7. 環境基本計画の推進体制

⑥ 写真展

市役所 1 階市民ホールでの展示企画として、日野市内で見られる植物や生き物の写真展を 4 回開催しました。

実施日	テーマ	写真・解説提供
2015. 6.19- 6.26	日野の昆虫たち	森川正昭氏
8. 7- 8.14	日野の魚たち	鶴田大三郎氏
2016. 1. 7- 1.14	日野の野鳥たち	日野の自然を守る会
2.18- 2.25	日野の貴重植物	橋本正常氏

⑦ センターニュースの発行

「かわせみ館ニュース」は、環境情報センターの活動を中心に環境行政に関するトピックスや環境保全に取り組む市民団体の活動などを紹介しており、2015 年度は第 15 号から 18 号まで 4 回(4 月、7 月、10 月、1 月)発行しました。

⑧ 環境相談

市民からのヘビやハチの巣、巣から落ちた野鳥の処理、小学生からのカブトムシやバッタの飼育、夏休みの自由研究など、さまざまな相談を受け、環境情報センターで応じられるものの対応、応じられないものは専門の研究者や処理業者の紹介を行っています。

⑨ 環境関連市民団体・大学等との連携・支援

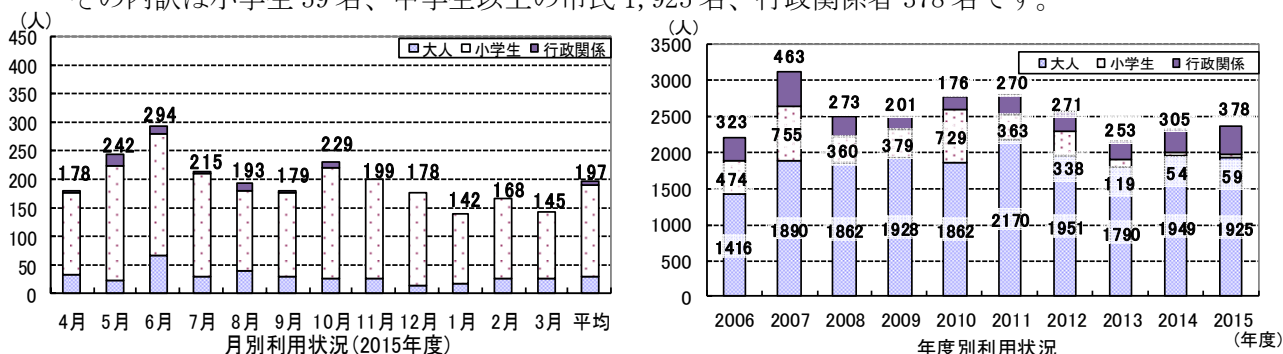
日野市環境基本計画推進会議で活動中の水グループ、緑グループ、CO₂ グループ、ごみグループ及び、“浅川潤徳水辺の楽校”、“雑木林ボランティア講座”、“南丘雑木林を愛する会”、“真堂が谷戸蛍の会”、“都市農業研究会”、“ひのどんぐりクラブ”など、環境保全に取り組む市民団体の活動拠点として必要な支援を行なっています。CO₂ グループの活動では「エコキング」を夏と冬の 2 回実施し、あわせて 11,841 名の小学生が参加しました。また、浅川潤徳水辺の楽校は年間 21 回の行事を行い延べ 650 人の生徒の参加を得ることが出来ました。

この他に“ひの緑のトラスト”の事務局として、緑地保全活動の支援をしています。大学との連携では、中央大学経済学部と日野市の環境保全に向けた連携事業に取り組んでいます。

⑩ 施設の利用状況

日野市環境情報センターでは市民向けに情報発信しているほかに、市民団体の会合・会議などの場として、1 階の談話コーナー(約 8 名)、2 階の会議室(約 20 名)を提供しています。2015 年度における談話コーナー、会議室の延べ利用者数は 1,536 名(前年比 110%)でした。

2015 年度の当センターの年間利用状況は下図のとおりです。展示物の見学や学習、会議などの目的で 2015 年度に当センターに来館された市民の数は 2,362 名(前年比 102%)でした。その内訳は小学生 59 名、中学生以上の市民 1,925 名、行政関係者 378 名です。



8. 環境審議会の意見等

(1) 審議会の意見

前回発行の白書(2014年度版)では下記のと通りの意見を日野市環境審議会からいただきました。

平成27年10月30日

日 野 市 長

大坪 冬彦 様

日野市環境審議会会長

千賀 裕太郎

日野市環境審議会の意見について

日野市環境基本条例（平成7年条例第18号）第18条に基づき、本環境白書案について、平成27年10月30日に開催された日野市環境審議会で審議しました。意見は下記のとおりです。今後市行政においてこれらの事項に十分に対応するとともに、次年度における白書作成時にその成果を検討するようお願いいたします。

記

1 市民の省エネルギー意識の定着について

市民・団体・行政の協働によりこれまで行ってきた、市民に省エネルギー意識を根付かせていく取組について、従来の記載に加え、これまでの成果や課題などについても盛り込まれた方が望ましい。

8. 環境審議会の意見等

前回の白書についてご審議いただいたのは平成 27 年度の日野市環境審議会の委員です。

平成 27 年度 日野市環境審議会 委員(※敬称略)

公募市民 : 稲墻 正、森下 良英、野田 実、岡村 和夫

学識経験者: 瀬川 爾朗、千賀 裕太郎、永原 弘一、武貞 建男、宮沢 清子

事業者: 榎田 光仁(日野市商工会)、大塚 政雄(日野市商工会)、

若林 昌也(日野自動車(株) 環境部長)、

環境保全関係行政機関、関係団体: 内川 武(日野の自然を守る会)、

清水 栄一(日野市用水組合連合会)、渡邊 昇(東京都多摩環境事務所廃棄物対策課長)

(2) 日野市環境審議会(平成 27 年 10 月 30 日)意見への対応について

1 市民の省エネルギー意識の定着について

市民・団体・行政の協働によりこれまで行ってきた、市民に省エネルギー意識を根付かせる取組については、「ふだん着でCO₂をへらそう事業」があります。

「ふだん着でCO₂をへらそう事業」について、4.(1) 市民および市民・行政との協働による環境への取組状況へ記載いたします。

(環境保全課)

9. 省エネ法に関する措置

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（以下、省エネ法という。）は、エネルギー消費量が大幅に増加している業務部門と家庭部門におけるエネルギーの使用の合理化をより一層推進することを目的に、平成20年5月に改正されました。

日野市では、市長部局と教育委員会がそれぞれ個別の事業者として、所管する施設について国に対してエネルギー使用量の報告を行っています。2014年度分のエネルギー使用量は次のとおりです。

	エネルギー使用量(原油換算)	対前年度比
市長部局	4,493kl	92.6%
教育委員会	2,462kl	101.5%

付表 指標・参考データ出典一覧

指標・参考データ	ページ	出典
指標 1 緑の構成比	12	東京都土地利用現況調査（都市計画課）
指標 2 耕地面積	13	農林水産省作物統計（産業振興課）
指標 3 生産緑地面積		都市計画課
指標 4 一人当たり都市公園面積	14	日野市公園調書（緑と清流課）
(参考) 多摩地区の一人当たり都市公園面積		東京都建設局公園調書
指標 5 市が寄付や買収等で取得した樹林地面積	16	緑と清流課
指標 6 緑地信託面積		緑のトラスト受付簿(環境保全課)
指標 7 緑のトラストへの寄付件数	17	緑と清流課
指標 8 雑木林ボランティア講座修了者数		
指標 9 市民農園の面積	18	産業振興課
指標 10 援農人数		
指標 11 2015 年度に実施した「市」の開催日数	19	緑と清流課
指標 12 学校給食における地元野菜等利用率		
指標 13 給食野菜納品農業者数	21	国土交通省京浜河川事務所
指標 14 生垣の助成件数		湧水量および地下水位計測調査業務委託・調査報告書(緑と清流課)
指標 15 浅川の平均河川水量・水位	22	河川及び水路の水質等分析調査報告書(緑と清流課)
指標 16 月別雨量と調査地点の総湧水量		
(参考) 湧水地点の状況	23	環境保全課
指標 17 各用水路の水質分析結果		地下水揚水量一覧(環境保全課)
(参考) 水生生物による水質の生物学的判定	27	緑と清流課
指標 18 地下水揚水量		
指標 19 雨水浸透ます設置個数	28	道路課
(参考) 第二次日野市交通バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況		下水道課
指標 20 下水道普及率	29	緑と清流課
指標 21 水辺イベントの開催数		
(参考) 「ピオトーづくり」の取組件数	30	
指標 22 「用水守」の登録団体数		
指標 23 ごみ・資源排出原単位	32	多摩地域ごみ実態調査(公益財団法人 東京都町村)
(参考) ごみの行方		日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 24 資源化率	33	
(参考) ごみ量内訳		
指標 25 マイバック持参率・レジ袋辞退率	35	大手スーパーでの出口調査(ごみ減量推進市民会議)
指標 26 ペットボトル、発泡トレイの行政回収量		日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 27 可燃ごみの組成	36	
(参考) 可燃ごみの組成		
指標 28 生ごみ処理器補助の件数	37	ごみゼロ推進課
指標 29 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数		
指標 30 環境学習出前講座の実施回数	38	日野市の清掃概要(ごみゼロ推進課)
指標 31 ごみ相談窓口への相談件数		
指標 32 クリーンセンター見学者数	40	オール東京 62 市区町村共同事業「多摩地域の温室効果ガス排出量」報告書
指標 33 新聞紙の行政回収量		
指標 34 二酸化炭素排出量	41	
(参考) エネルギー消費量		
指標 35 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率	42	都市計画課
指標 36 バス路線の整備状況:市内連絡バス(ミニバス)年間利用者数		
指標 37 ワットチェッカー等貸出状況	44	環境保全課
指標 38 省エネ診断の参加事業者数		
指標 39 太陽光発電等の導入補助件数	45	
指標 40 公共施設の新エネルギー導入状況		
指標 41 都市計画道路の整備率	46	都市計画課
指標 42 苦情受付件数	47	環境保全課
指標 43 マナーアップのための啓発活動状況	49	
指標 44 浮遊粒子物質(SPM)年平均		東京都環境局
指標 45 二酸化窒素の年平均濃度	51	窒素酸化物調査報告書(環境保全課)
指標 46 二酸化窒素 24 時間測定結果		酸性雨市民モニターによる計測
指標 47 雨の酸性度	52	東京都環境局・成蹊学園気象観測所
(参考) 富士山ウォッチング(富士山が見えた日数)		日野市環境情報センター
指標 48 道路交通騒音	53	環境保全課
指標 49 横田飛行場に係る航空機騒音	54	

エコクマ、エコアラ

地球温暖化で棲んでいるところを追われ、東京都日野市にやってきたエコクマ。日野市の多摩動物園で生まれたエコアラ。地球温暖化に心を痛め、エコ活動を始めたよ。

2人で力を合わせてがんばるぞ。応援よろしくね！



エコアラ、エコクマ

2015 年度（平成 27 年度）
 日野市環境白書
 日野市環境基本条例第 18 条に基づく年次報告書

発行：2016 年(平成 28 年)12 月 日野市
 編集：日野市環境情報センター かわせみ館

〒191-0011 東京都日野市日野本町 1-6-3

TEL 042-581-1164

URL <http://kankyo-hino.com/>

身近な生き物と共棲できる環境を次世代につなごう！